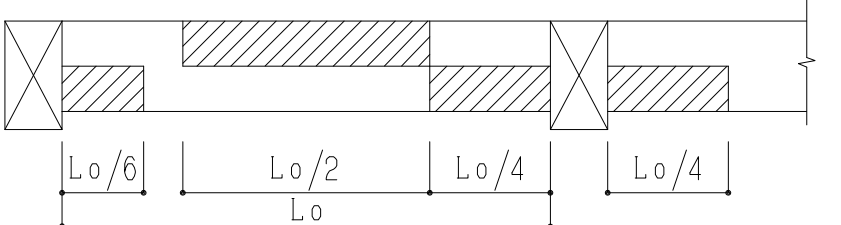


鉄筋コンクリート配筋規準図（２）

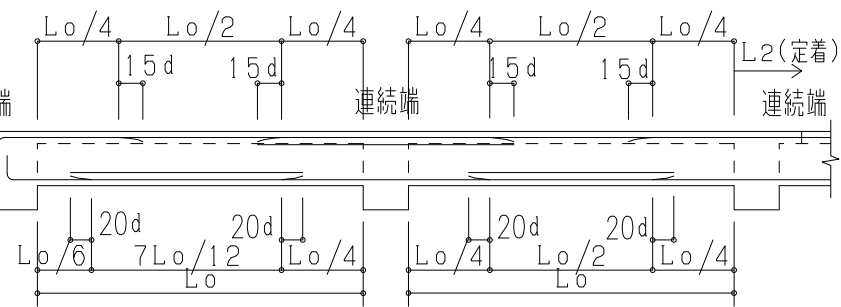
小梁・片持梁

鉄筋の継手位置

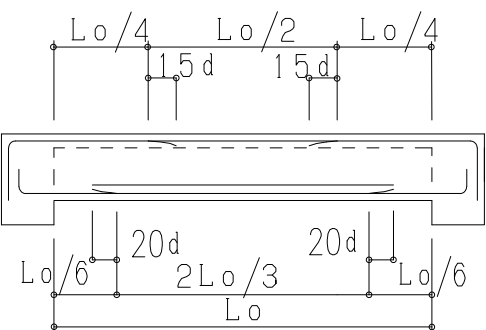


- (１) 印内に圧接継手、重ね継手中心位置を設けることとする。
- (２) 上記指示範囲外で継ぐ場合は係員の承諾を受ける。

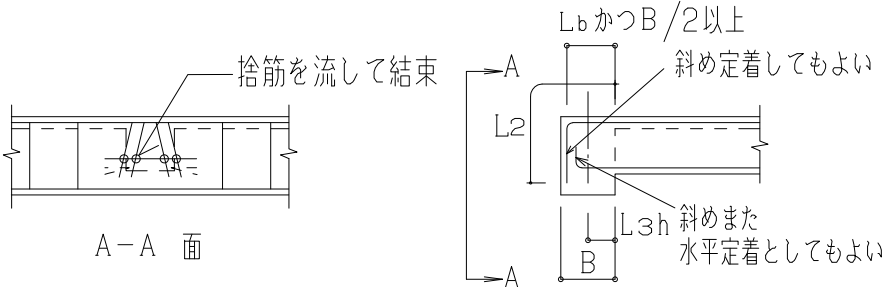
連続小梁の端部・中央の配筋



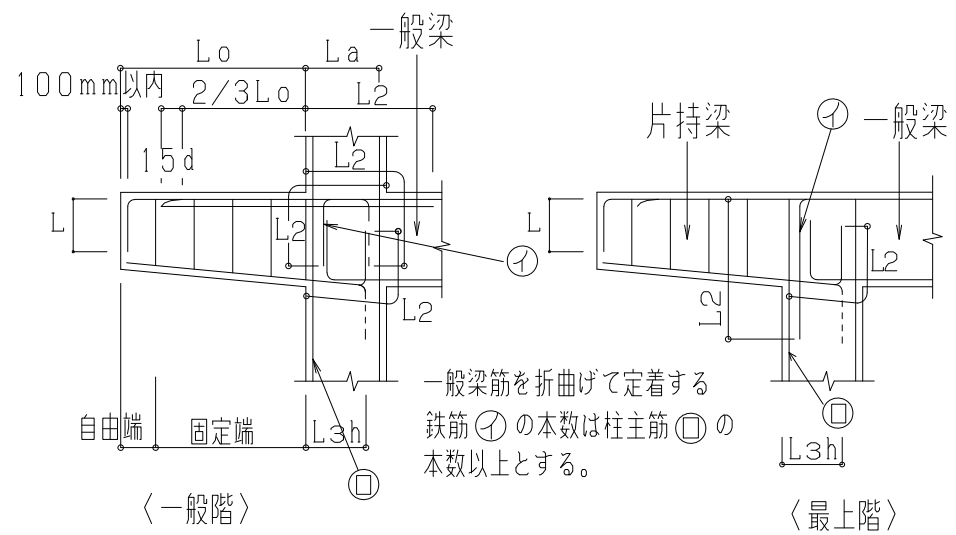
単独小梁の端部・中央の配筋



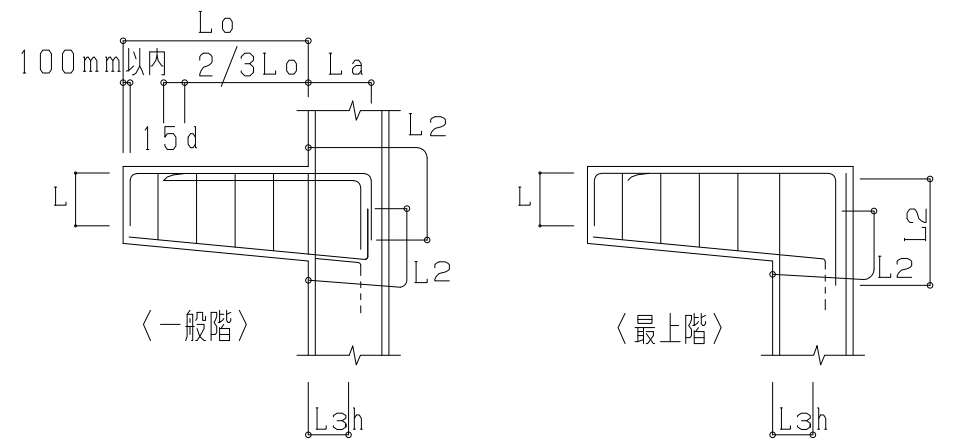
小梁終端部の定着



片持梁の配筋



(a) 一般梁と連続する場合

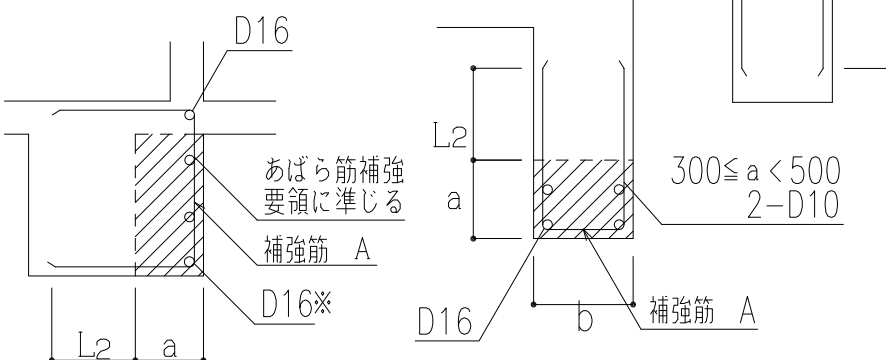


(b) 一般梁と連続しない場合

(注) 1. 先端の折曲長さLは梁せいからかぶり厚を除いた長さとする。

増打補強

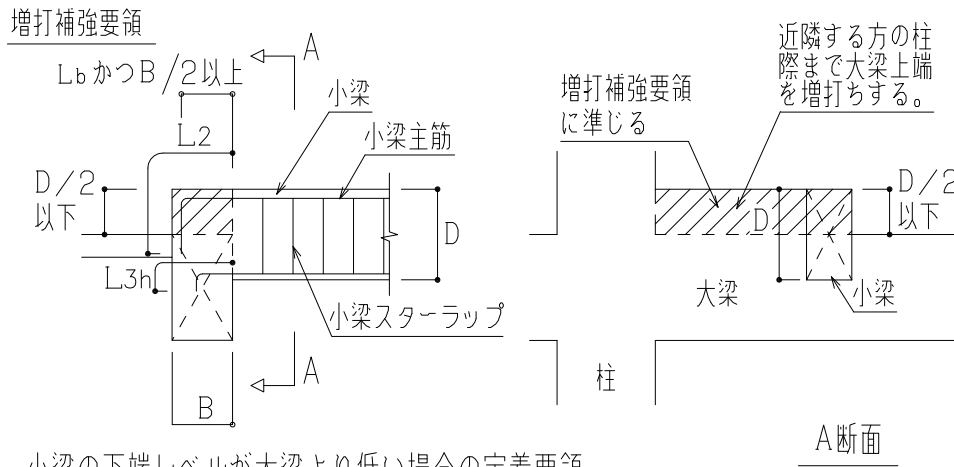
・a<70のとき 補強筋なし



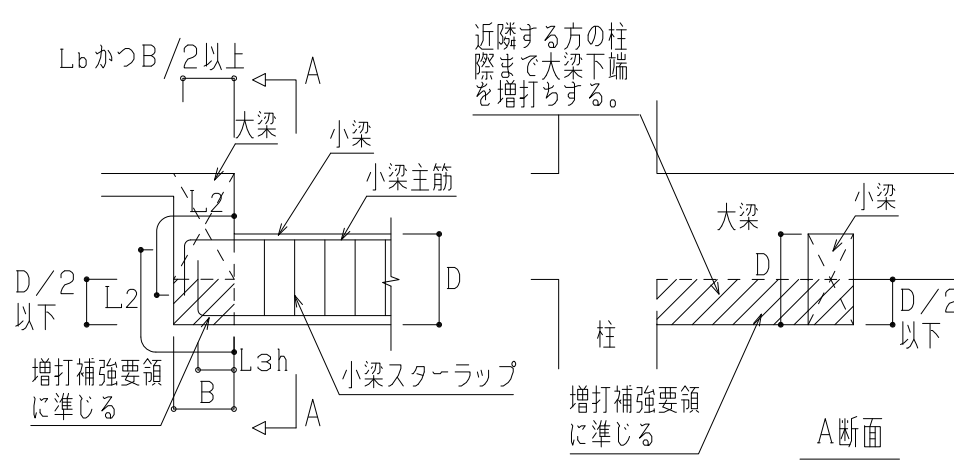
※梁側面増打の場合は角部のD16以外は腹筋でよい
(腹筋の径とピッチはB01図の補筋による)。

a	70≦a≦200	200<a<500
補強筋 A	帯筋と同径・同材質・同ピッチ	D13≦150

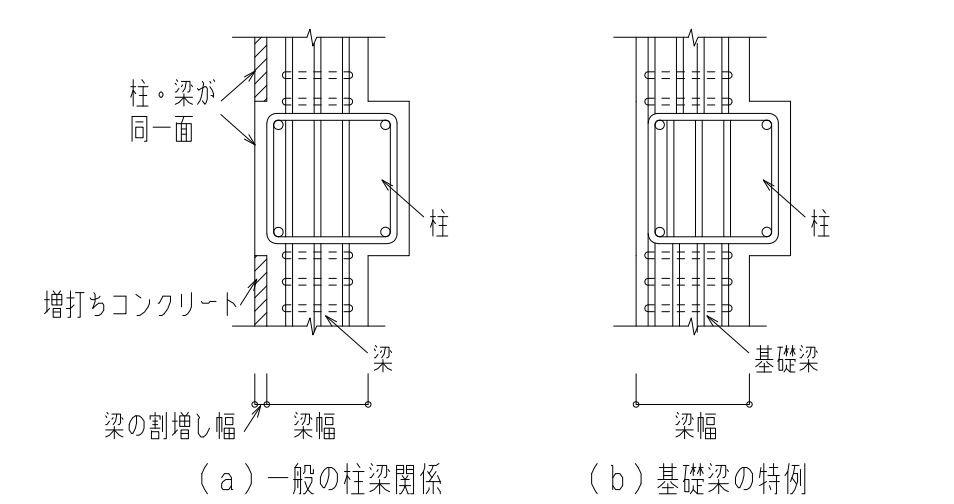
小梁の下端レベルが大梁より高い場合の定着要領



小梁の下端レベルが大梁より低い場合の定着要領



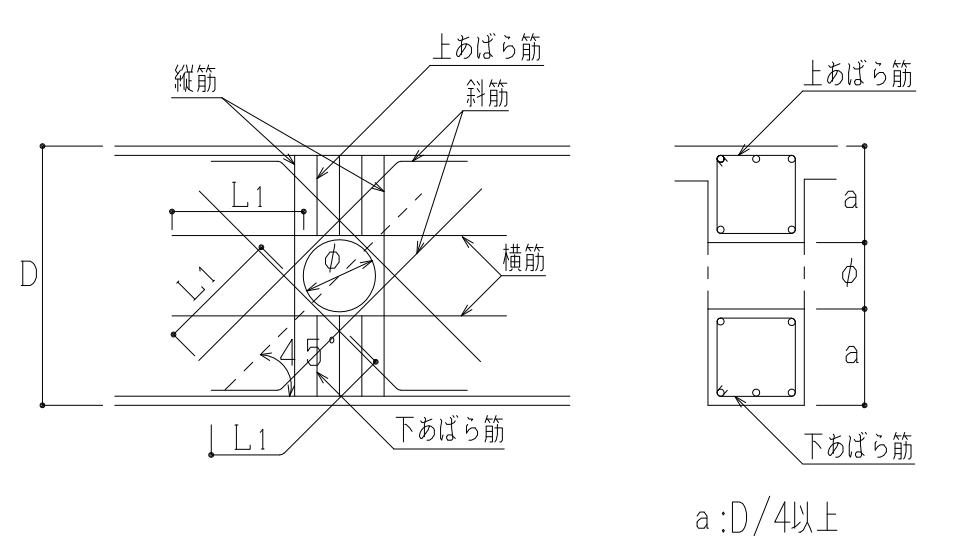
梁と柱が同一面の場合の梁断面の割増し幅



梁の貫通孔補強

- (１) 梁貫通補強は既製品（公的機関の技術性能評価を取得したもの）によることができる。
補強検討書を提出して監理者の承認を得ること。

- (２) 梁貫通孔は原則として、梁成の1/3以下かつ連続する場合、その中心間隔は孔径（φ）の3倍以上とする。孔の位置は原則として、中心位置を柱面および直行する梁（小梁）の面より1.2D以上はなすこと（ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く）。

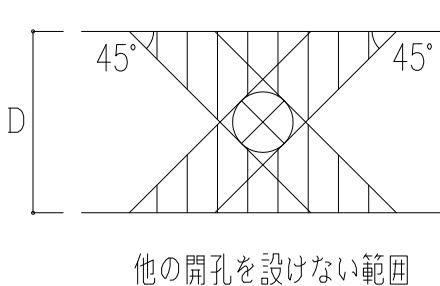


H形配筋

φ	補 強	筋	
	縦 筋	横 筋	斜 筋
100	2-D16	2-D13	—
150	2-D16	2-D13	—
200	4-D16	2-D13	2-D16
300	4-D16	2-D13	2-D16

(注) 補強スタラップについては梁スタラップと同径同ピッチとする。

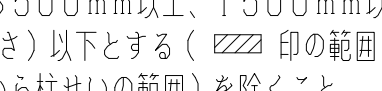
- (３) 孔径（d）がD/10以下かつ150未満の場合は補強行なわない。

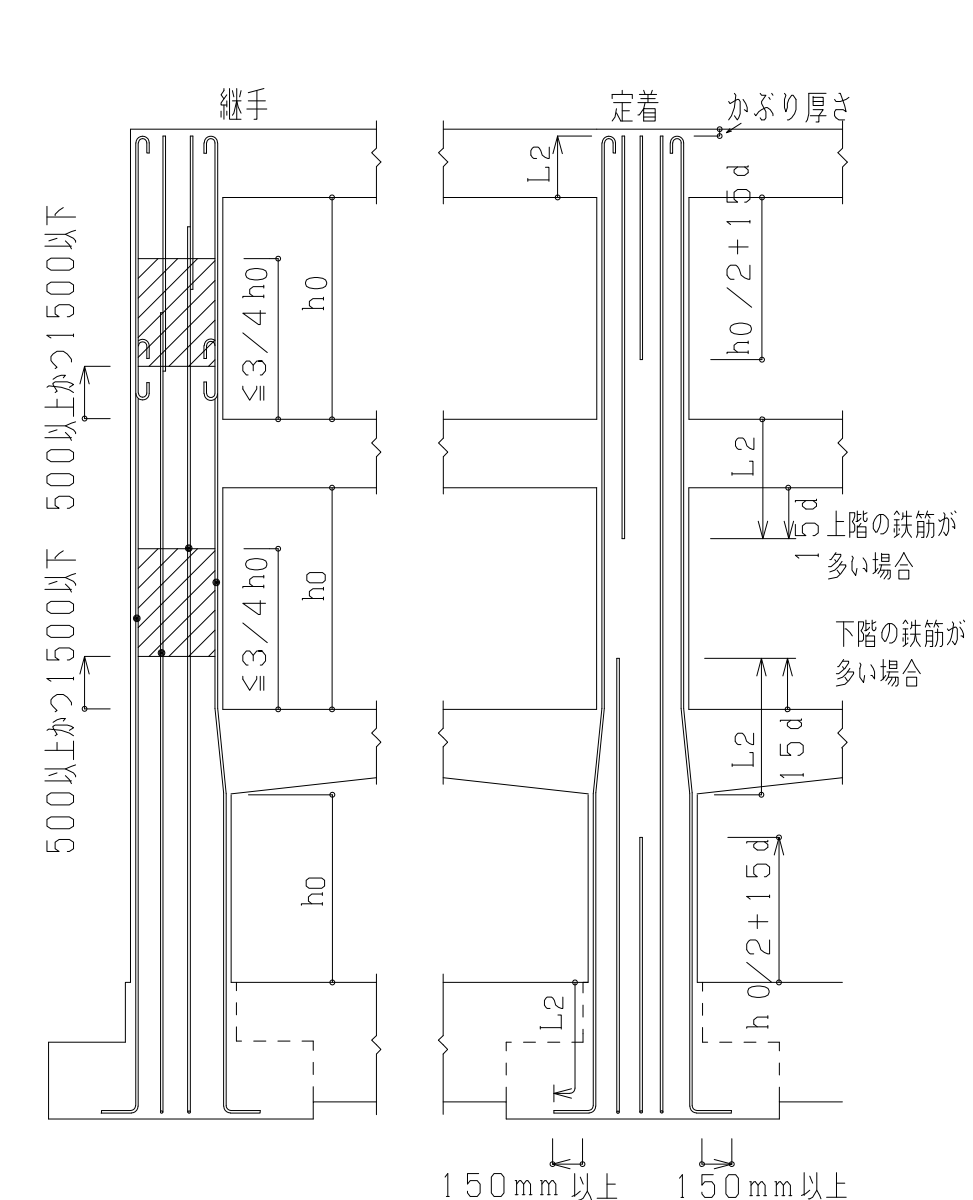


他の開孔を設けない範囲

４ 柱

柱主筋の継手定着、及び余長

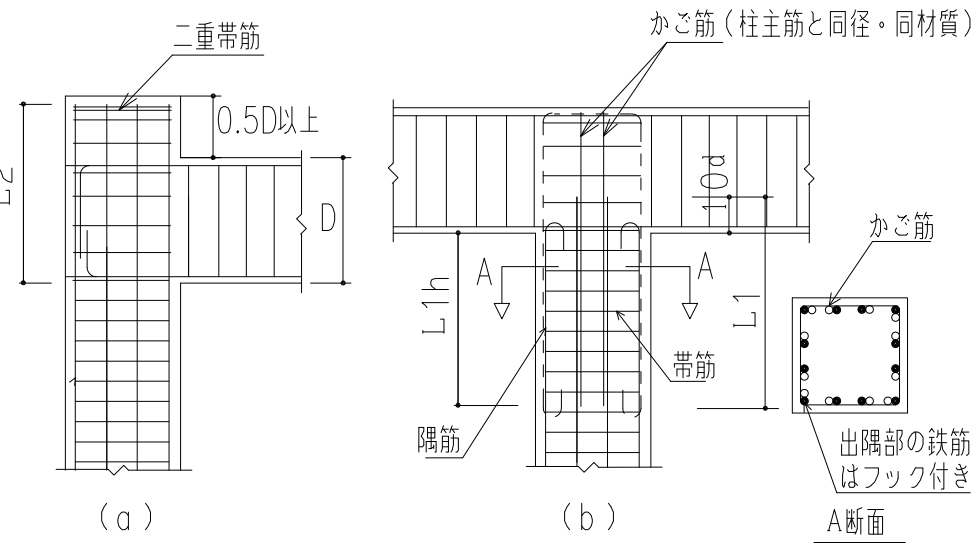
- 継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ3/4h₀（h₀は柱の内のり高さ）以下とする（印の範囲）。また、圧部継手の位置は端部（柱端から柱せい範囲）を除くこと。
- 重ね継手の長さはL₁、L₁hとし、定着及び余長は下記による。ただし、柱頭定着長さL₂が確保できない場合は、柱頭補強要領による。L₂の長さは「RC計算規準2010年版」による算定値（設計図書に特記する）を用いてもよい。



柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合はフックをつけること。但し、柱頭は定着長さL₂を確保すること。

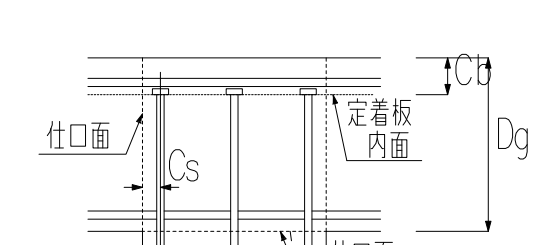
柱頭補強要領

- 柱頭定着長さL₂が確保できない場合は下記のいずれかによる。
 - ・在来工法
最上階の柱を梁せいDの1/2以上突出させた場合、梁の上端筋は一般階と同じ定着としてよい。

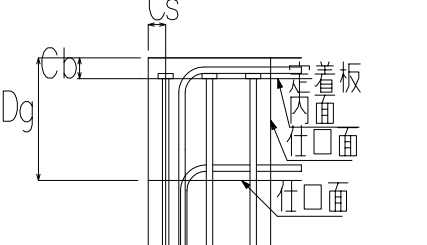


- ・定着板工法
- ・一般社団法人建築構造技術支援機構 SABTEC 技術評価取得品とする。
- ・使用箇所は以下の柱頭鉄筋定着部のみとする。
- ・かんざし筋は特記による。

T形接合部



L形接合部



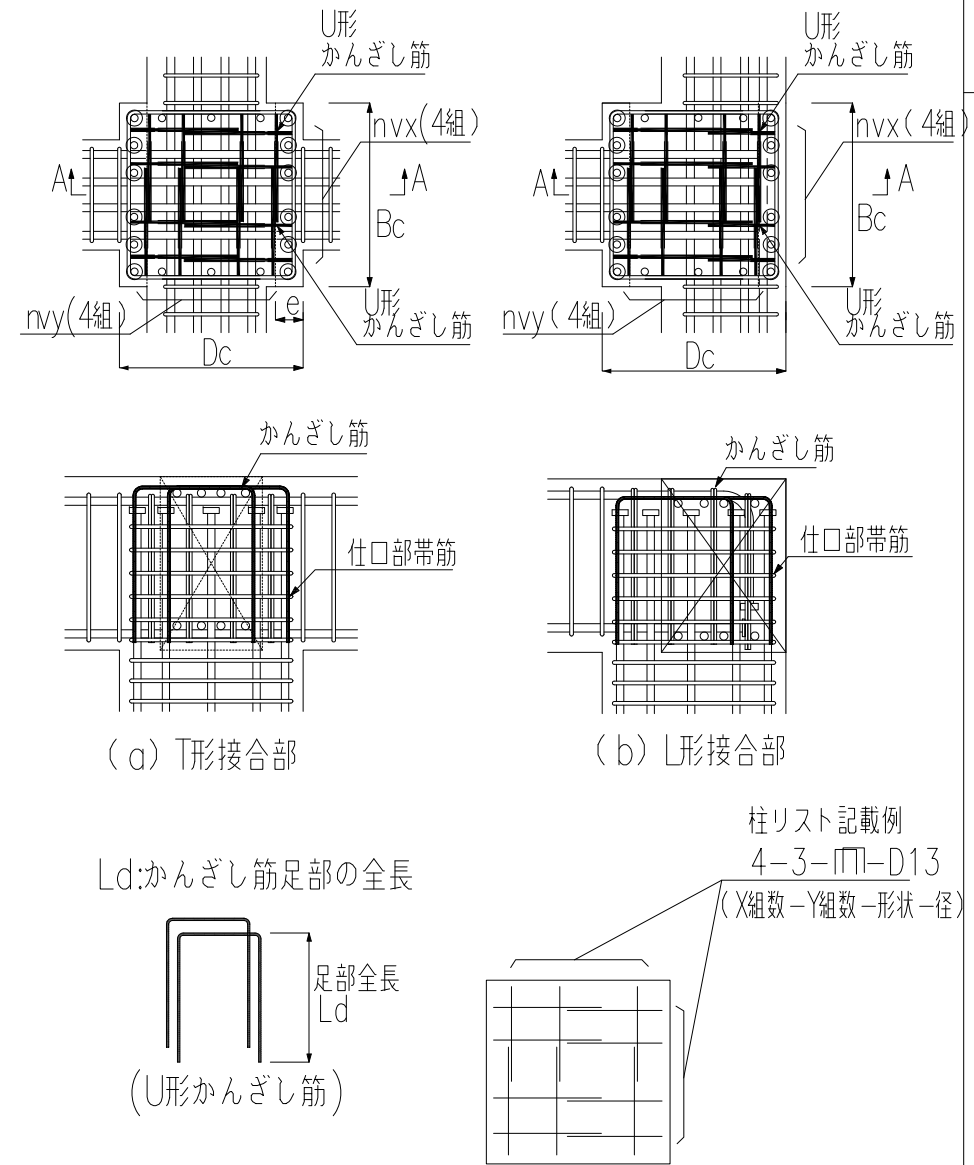
RC・T形接合部－1

- 柱主筋中心からの側面かぶり厚さC_sは、2db以上とし、定着板内面からの背面かぶり厚さC_bは、3db 以上とする。dbは柱主筋直径（呼び径）を示す。
- 仕口部帯筋比は、0.3%以上とする。
- 最上部仕口は20mm増し打ちする。

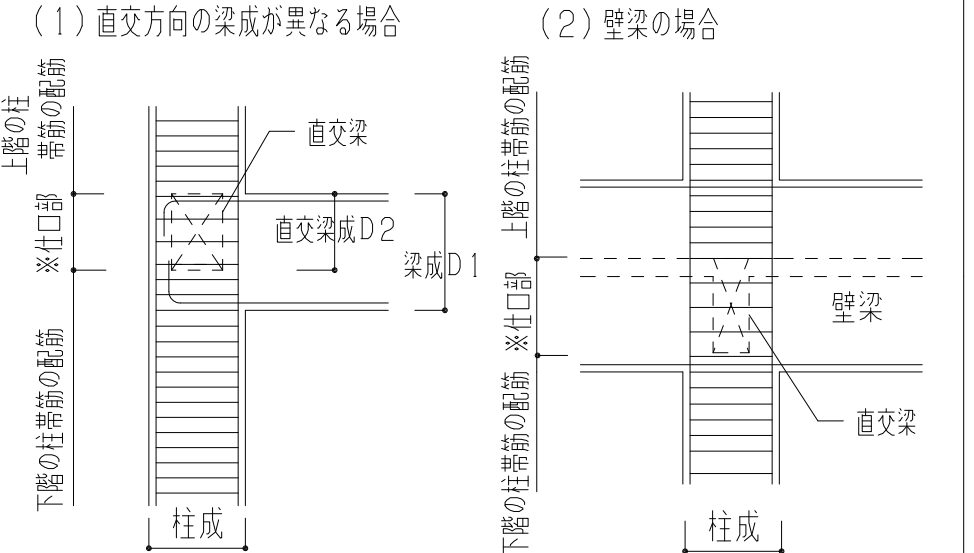
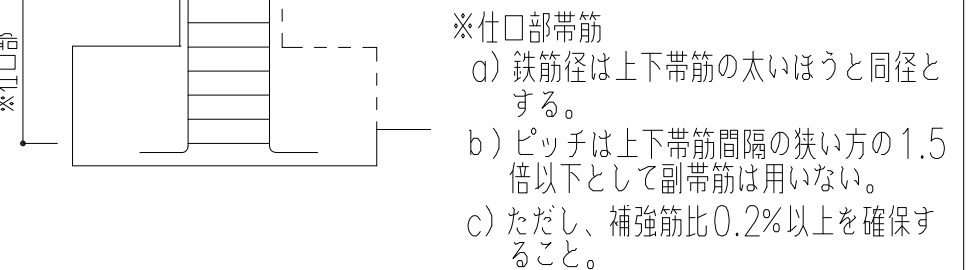
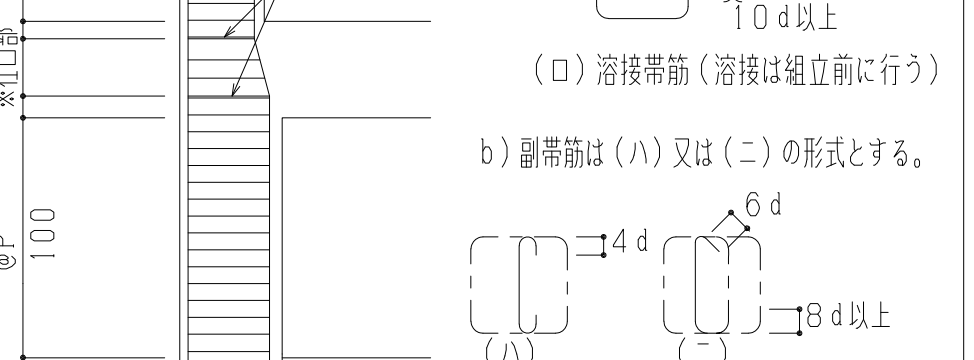
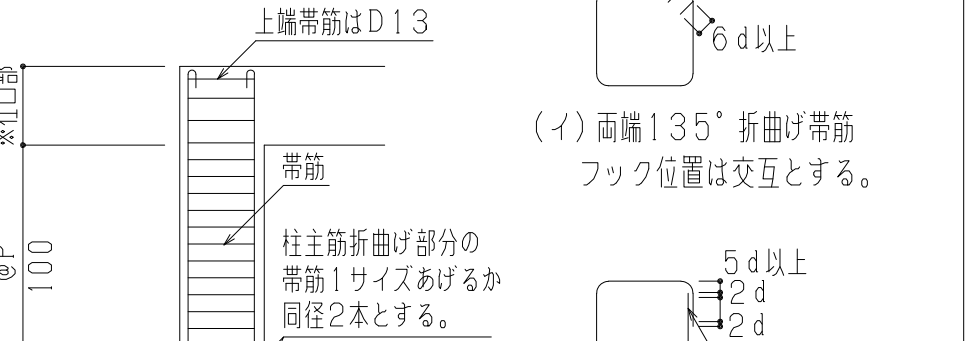
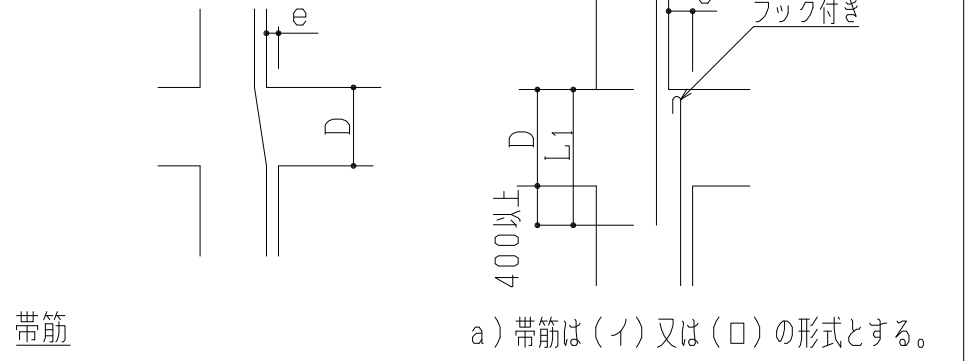
T形、L形接合部におけるかんざし筋

XY面方向ともに、それぞれ pjwv≧0.25%の
かんざし筋を配置する。
かんざし筋1組の足部本数は2本以上とし
pjwv= nv・awv/(Bc・Dc)
awv: かんざし筋1組の断面積（足部本数分の全断面積）

- 1)かんざし筋は、D10以上かつSD295A,B,SD345,SD390のいずれかの異形鉄筋とし、足部の全長L_dは、梁下端筋の下部までの長さまたは40dのいずれか小さい値とする。dはかんざし筋の直径とする。
- 2)かんざし筋1組の最外部の幅は、接合部横補強筋の内幅程度とし、足部の本数が3本以上の場合、かんざし筋の中間の足部は、直交する梁主筋を直接拘束するように配置する。
ただし、図では、2組のかんざし筋を組み合わせ、それらのかんざし筋を仕口部帯筋の内幅に沿わせて配置している。

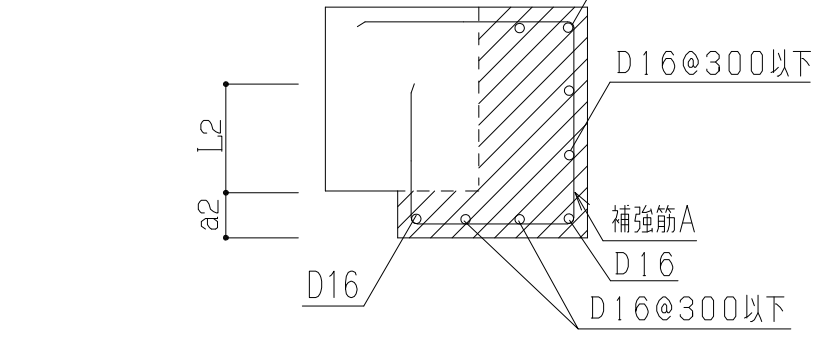


柱径が異なる場合
(1) e/D≦1/6



増打補強

・a<70のとき 補強筋なし

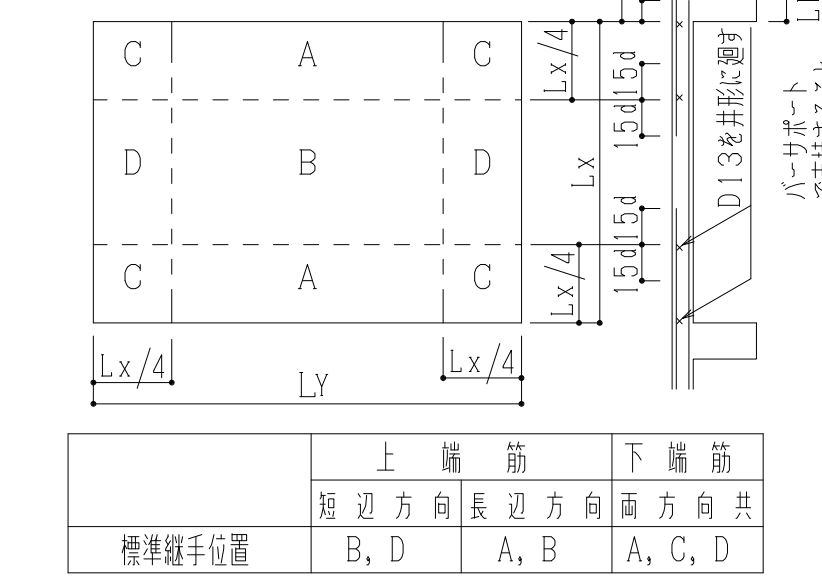


a	70≦a≦200	200<a≦500
補強筋A	帯筋と同径・同材質・同ピッチ	D13≦100

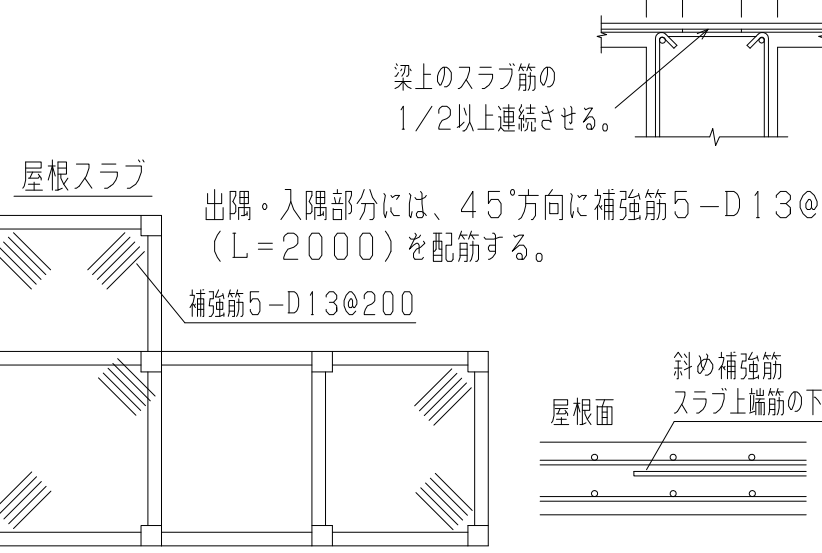
aは a₁、a₂のうち大きい方の寸法を示す。

５ スラブ

鉄筋の継手位置



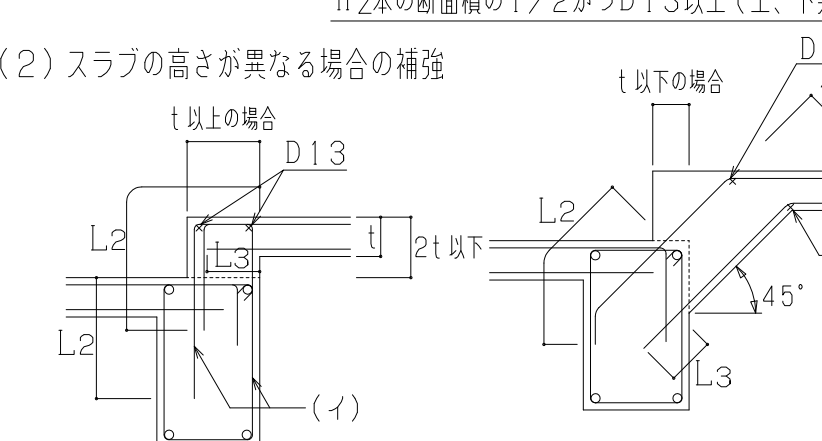
- (１) 上記範囲外で鉄筋を継ぐ場合は、監理者の承諾を受けること。
- (２) 左右の定着長さより梁幅が大きい場合



スラブ補強筋

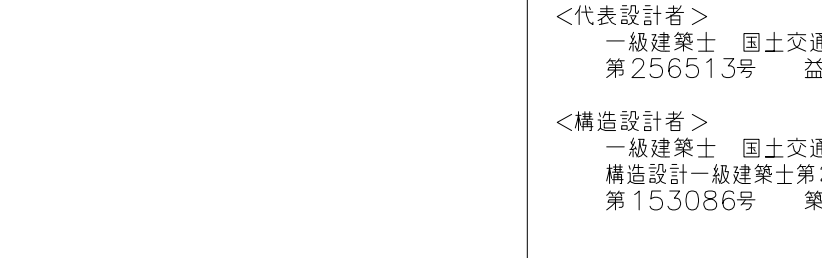
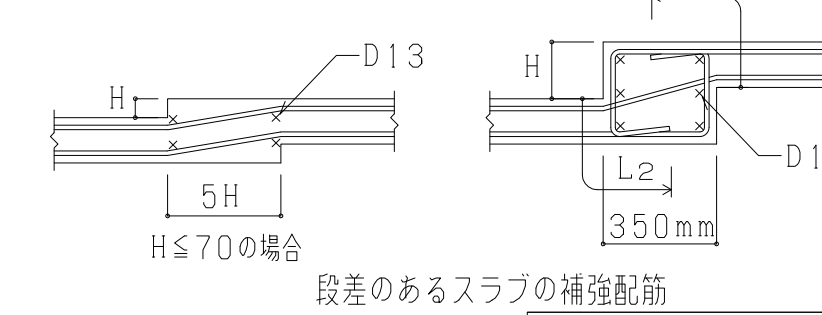
- (１) 開口部最大径が700以下の場合の開口部補強
n1本の断面積の1/2かつD13以上（上、下共）
開口部が600をこえる部分
および開口が連続する場合の開口補強は
原則として小梁補強を設ける。
梁に接近しておりL₁が確保できない場合は、
補強筋を延長して梁内に定着する。

- (２) スラブの高さが異なる場合の補強

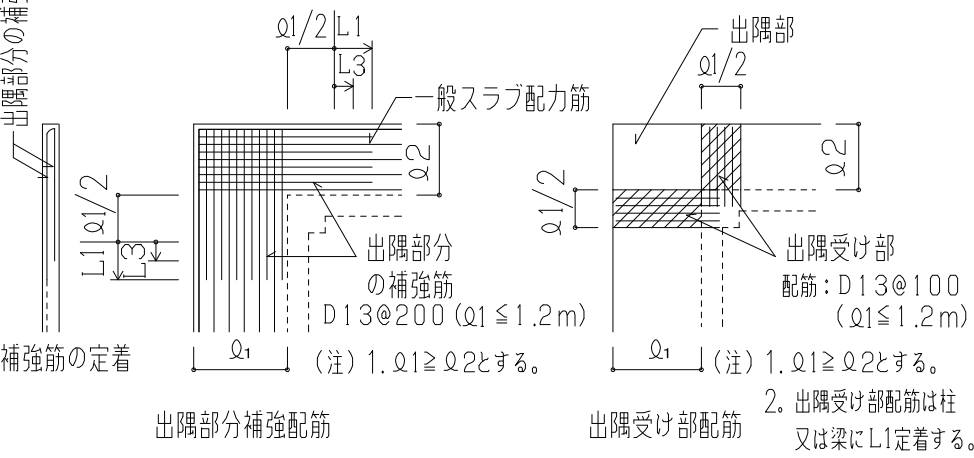


(イ)はスラブ端部上端筋と同径、同間隔とする。

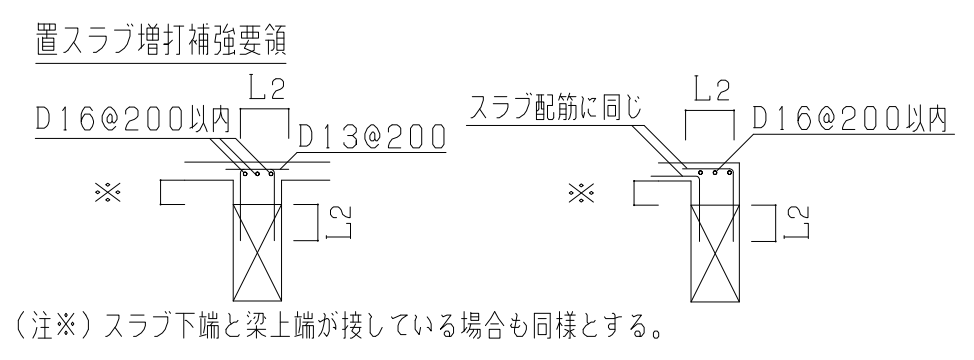
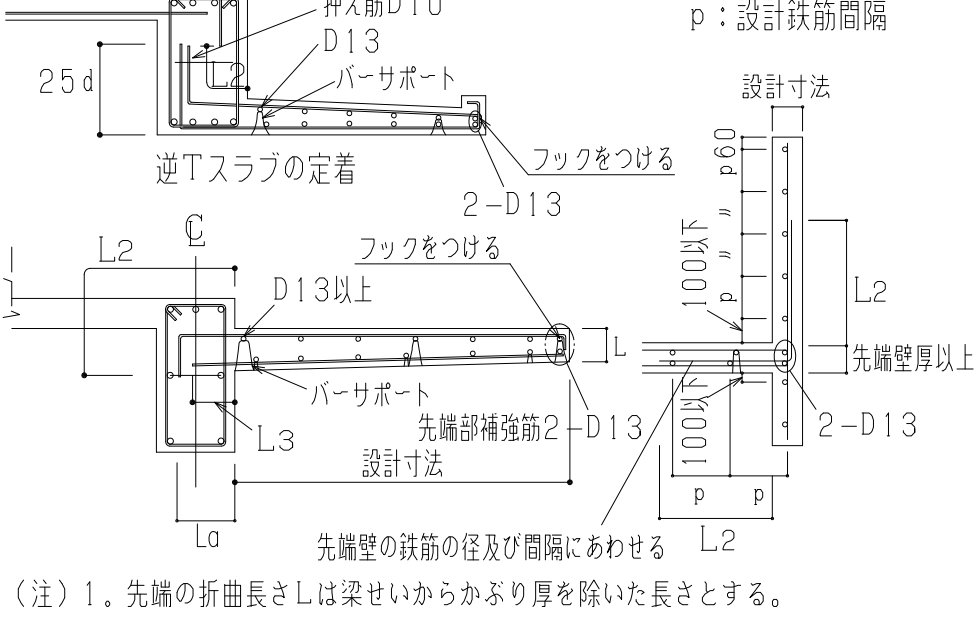
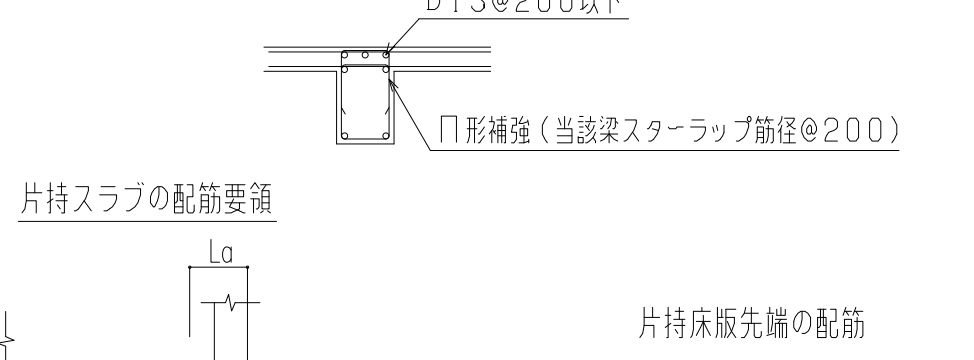
- (３) 同一スパン内でスラブの高さが異なる場合の補強



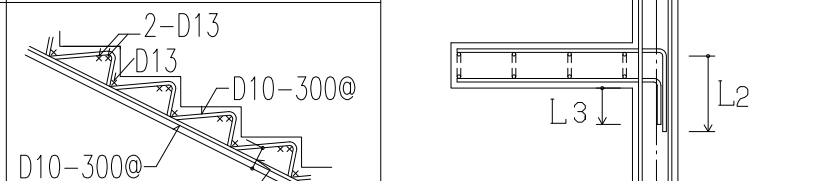
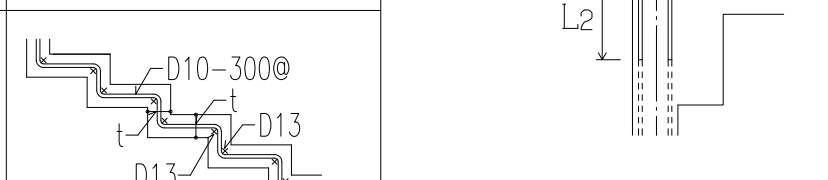
- (４) 片持ちスラブの出隅、入隅の補強配筋方法
補強の配筋および出隅受け部分（図の斜線部分）の補強筋は特記による。



- (５) スラブ筋が上下共梁主筋より上に離れる場合の補強
（梁とスラブのレベル差が70mm以上の場合は増打補強要領に従う）

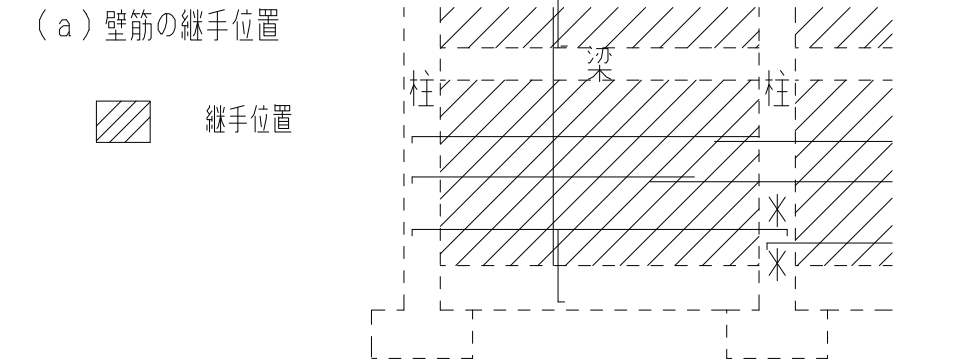


片持スラブ形階段
片持スラブ形階段の基準配筋は下図により、寸法及び配筋種別は特記による。
片持スラブ形階段の基準配筋

種別	配筋図	
KA1		
KA2		
KA3		
KA4		

6 壁

鉄筋の継手位置



B	建築工事	A3→ A1→
02	鉄筋コンクリート配筋規準図（2）	

安井建築設計事務所

鉄骨規準図（１）〔溶接規準〕																						
1. 一般事項			4. 溶接接合規準				7. 余盛			5. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
1. 鉄骨工事における設計図書の優先順位は、下記とする。 1) 現場説明書・同質疑回答書 2) 特記仕様書 3) 設計図(本規準図、構造設計図) 4) 建築工事標準仕様書 2. 設計図内(本規準図と構造設計図)で食い違いがある場合は、原則として構造設計図を優先するが、監理者の確認を得ること。 3. 使用材料は特記仕様書による。			溶接接合は本規準による。適用する溶接工法は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、および、エレクトロスラグ溶接とする。 1. 完全溶込み溶接は原則として両面溶接とし、原則として裏はつりを行う。ただし、監理者の承諾を得て裏当て金を用いる方法とすることができる。 2. 完全溶込み溶接および部分溶込み溶接の両端には、エンドタブを使用し、材質・形状は母材と同質・同厚・同開先のものとする。エンドタブ切断については、標準仕様書に従う。 3. 他				● 突合せ継手、T 継手、隅肉溶接の余盛の高さは下表による。 (単位 mm)			鉄骨建て方時を含め、工事中における現場の危害防止は、労働安全衛生法上、建設会社の統括安全衛生責任者および元方元安全衛生管理者が、統括管理することとなっているが、その主旨・意図を十分に理解したうえで、各工事関係者へ周知徹底すること。 以下に示す「主な構造形式における留意事項」について、施工計画(仮設計画・施工工程・補強検討など)に反映すること。 ○ 吊り構造、吊り設備架台：吊り中間床など ・ 吊り元の高力ボルト本締めの前に、仮設資材・建材などを仮置きする必要のある場合は、安全性を十分に検討した仮設計画によること。 ・ 吊り元の仮ボルトを本締めの高力ボルトに入れ替える際には、下部に支保工を設けるか、上部に仮設の吊り材を設置するなどし安全確保(吊り床の落下防止)を充分行うこと。 ○ 下階柱抜け架構：下階が大空間・大スパン用途など ・ 鉄骨建て方時など施工中に作用する軸力に対して、架設した支保工の耐力が充分あること。 ・ 設計図書で記載された支保工の位置における設置レベル(支保工撤去後のたわみ量のキャンセル分)について、構造設計者に確認すること。 ・ 支保工の撤去時期(n階床コンクリートの四週強度発現時など)が、設計図書に明記されていない場合は、構造設計者に確認すること。 ○ 大スパン架構：片持ち梁構造：大屋根・大庇など ・ 鉄骨建て方時など施工中に作用する軸力に対して、架設した支保工の耐力が充分あること。 ・ ロングスパン梁のむくり(キャンパー)や、鉄骨製作ゲージポイント(たわみを考慮した上方向へ修正した狙い点)が設計図書に明記されていない場合は、構造設計者に確認すること。 ・ 柱梁仕口部の現場溶接施工前や、大梁継手部の高力ボルト本締めの前に、仮設資材・建材などを仮置きする必要のある場合は、安全性を十分に検討した仮設計画によること。												
2. 共通事項			エンドタブ				● 部分溶け込み溶接の余盛は完全溶け込み溶接の場合に準ずる。			6. 東京都およびそれに類する行政庁による指導												
● 鉄骨製作工場は特記による(ただし、建築基準法第68条の26による認定を受けた工場とする)。 ● 工事に先立ち、工場製作要領書・工作図および現場施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。 ● 設計図書に記載のない事項は、「JASS6」「鉄骨工事技術指針」(社団法人日本建築学会)の「最新版」による。			● エンドタブの組立溶接は裏当て金に溶接し、フランジに直接、組立溶接を行わない。 3. 他				● クレーンカーターのように低サイクル疲労を受ける場合は厚い方の板を1/2.5以下の傾斜に加工して開先部分で薄い方の板と同一の高さにする。			1. 本指導の適用の可否は下表による。 <table><tr><td>建設地</td><td>○ 東京都内</td><td>通用</td></tr><tr><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○</td><td>通用範囲外</td></tr></table>				建設地	○ 東京都内	通用		○			○	通用範囲外
建設地	○ 東京都内	通用																				
	○																					
	○	通用範囲外																				
● ロボット溶接を用いる場合は製作要領書にその旨(部位やオペレータの技量等)を記載し、監理者の承諾を得ること。			1) 建築鉄骨溶接技量検定(AW検定)協議会による技術証明書				● フレーンガーターのように低サイクル疲労を受ける場合は厚い方の板を1/2.5以下の傾斜に加工して開先部分で薄い方の板と同一の高さにする。			2. 溶接部の試験における検査機関は、「建築物の工												
● 溶接は溶接管理技術者(WES8103 1級または2級)の管理のもとで行い、溶接材料(ワイヤ・ガスなど)・溶接電流・アーク電圧・溶接速度・ガス流量・パス間温度など適切な条件を選定して施工する。使用鋼材と溶接材料・溶接条件は鉄骨製作工場の認定制度による規定による。			4. 仕口部の梁フランジの完全溶け込み溶接は下記のノンスカラップ工法(又は改良スカラップ工法)とし、施工要領書に明記し監理者の承諾を得ること。 ノンスカラップ工法				● T継手に準じた高さの余盛を設ける。			3. 溶接部の試験における検査機関は、「建築物の工												
● 組立て溶接は開先加工検査を終わったのち、ビードの有効長さ40mm以上(板厚が6mm以下の場合は30mm)とし、原則として開先内には行わない。			● ウェファイレットと裏当て金				● 隅肉溶接の端部は、滑らかに回し溶接を行う。			4. 溶接部の試験における検査機関は、「建築物の工												
● 組立て溶接は被覆アーク溶接あるいはガスシールドアーク溶接で行う。490N/mm級以上の高引張力鋼や25mm以上の組立て溶接を被覆アーク溶接で行う場合には、低水素系溶接棒を使用する。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			5. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
● 溶接は適当な用具を使用し、原則として下向きで行う。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			6. 東京都およびそれに類する行政庁による指導												
● 溶接開先面の水分、赤錆、塗料などの溶接に有害なものは溶接前に除去する。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			7. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
● 溶接棒は常に乾燥した場所に保管し、必要に応じ乾燥器に入れ乾燥させる。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			8. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
● 溶接による変形や収縮については、なるべくこれを防止するよう適切な対策をたて、出来上り寸法・形状を正確に保つ。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			9. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
● 隅肉溶接の端部はまわし溶接を行う。ただし、スカラップ始端(ファイレット部分)の回し溶接は行わない。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			10. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
● 工事現場においては母材をいためるような仮設ピースなどの取付け溶接は原則として行わない。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			11. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
● 検査水準はAOQL4.0%の第6水準とする。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			12. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
3. ボルト接合規準			5. 梁フランジの現場溶接は下記の要領による。				8. 板厚の異なる突合せ溶接			13. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
● 高力ボルト摩擦面処理・スプライスプレートはショットブラストまたはサンドブラスト処理とし、鉄骨母材はクラインダーがけとする。			6. 裏当て金の溶接及び板厚は下記の要領による。				9. 隅肉溶接			14. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
● 高力ボルトの符号・ピッチ・ヘリあき・はしあきは、下表による。ただし、引張材の接合部分においてせん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合は、はしあき距離をボルト径の2.5倍以上とする。			7. 裏当て金の板厚				10. エレクトロスラグ溶接			15. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
(単位mm)			すみ肉溶接のサイズ				11. エレクトロスラグ溶接			16. 鉄骨建て方時の安全性等の確保												
ボルト			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
符号			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
孔径			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
最小ヘリあきe1			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
最小はしあきe2			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
標準			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
最小			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
M16			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
M20			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
M22			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
M24			単位 (mm)				単位 (mm)			単位 (mm)												
● 接合の板厚の差などにより1.0mmを超える肌さきが生じる場合、薄い方の板にフィラープレート(材質SS400)を用いる。なお、両面とも摩擦面処理を行うこと。			● 片面溶接に用いる裏当て金の溶接は断続隅肉溶接とする。また、フランジ両端およびウェファイレット始端から5〜10mmは溶接を避ける。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。												
● 建て方用アンカーボルトの埋め込み長さは特記による。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。												
● アンカーボルトは、上端2重ナット締めとする。形状は右図による。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。												
L=40d ()内はd≧20の場合を示す			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。				● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。			● エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。												

ハイベースNEO工法設計施工標準

(ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用)

2019/7

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板 エコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—
備考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超	降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490B HCW490St (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0404、0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)

※3 M72は端目ねじ ※4 建築基準法第37条第2号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

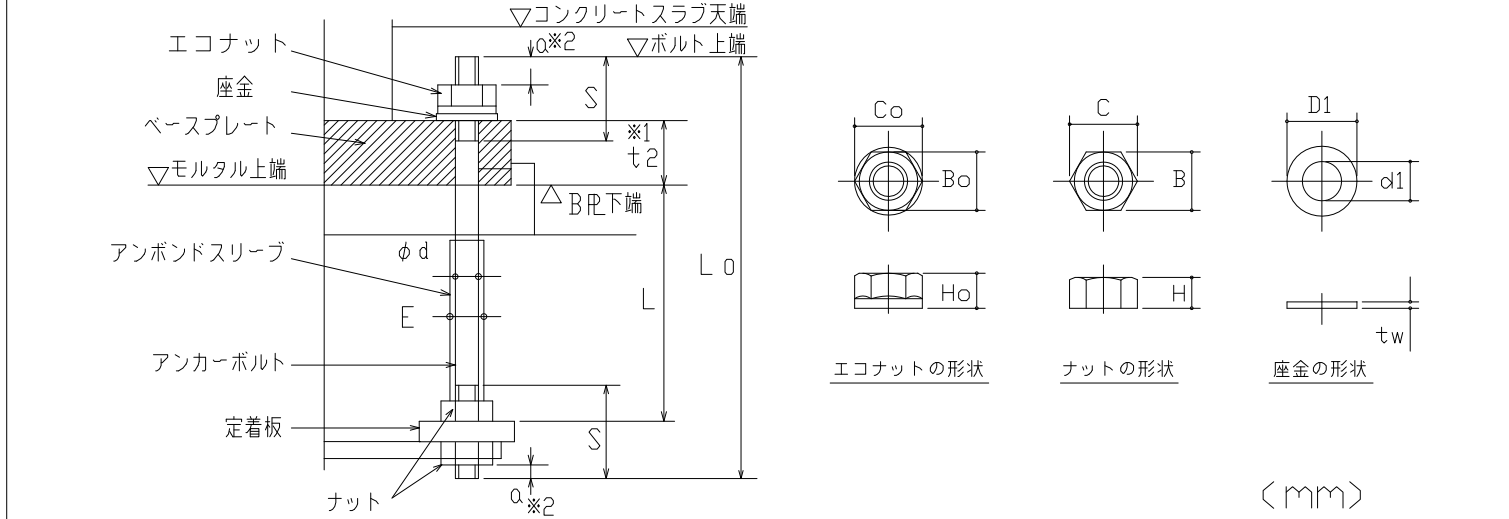
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3
中心塗部分モルタル	O無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可。) O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート O設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形状	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト					アンボンドスリーブ		エコナット		ナット			座 金				
	軸径	ねじ径	余長	定着長さ	全長	外 径	高 さ	二面幅	対角距離	高 さ	二面幅	対角距離	厚 さ	内 径	外 径		
	φd	P	S	a	L	L0	E	H0	B0	C0	H	B	C	tw	φd1	φD1	
M24	24	3	95	105	10	400	550	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	35	130	140	13	400	580	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	130	160	16	480	630	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	45	155	180	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。

※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。

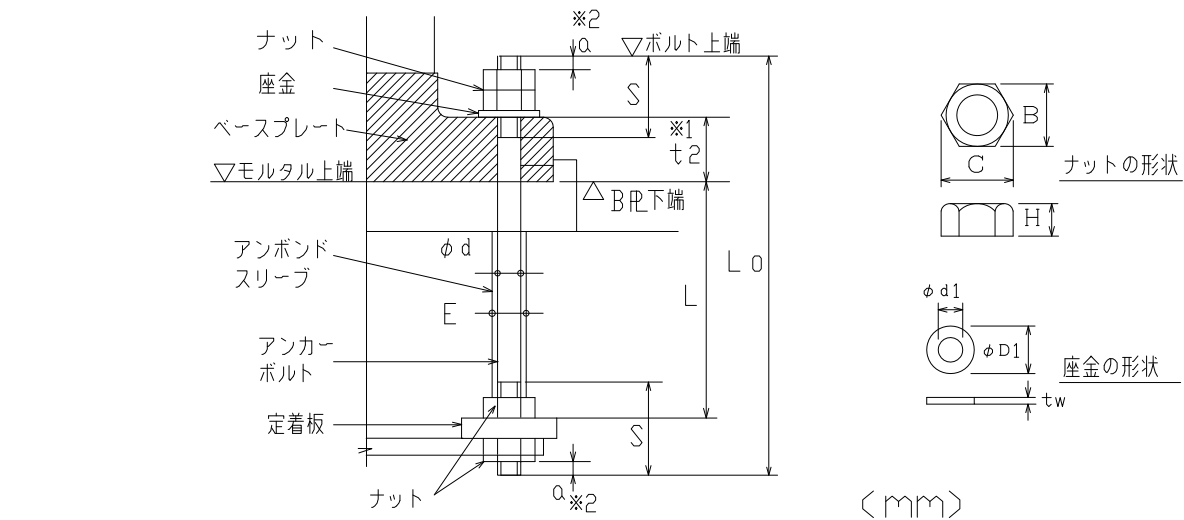
施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。

※3 上段はEB型式及びEM型式のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの場合の寸法です。

△注意

- エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
- コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
- その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセクシアにご相談ください。
- アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト					アンボンドスリーブ		ナット		座 金			
	軸径	ねじ径	余長	定着長さ	全長	外 径	高 さ	二 面 幅	対角距離	厚 さ	内 径	外 径	
	φd	P	S	a	L	L0	E	H	B	C	tw	φd1	φD1
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	35	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	130	16	720	960	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	45	155	18	840	1080	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	155	22	960	1200	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	55	180	24	1120	1456	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	230	28	1280	1600	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1800	79	58	105	121	12	74	125

△注意

- Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
- 一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
- (一重ナットとする場合は、セクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

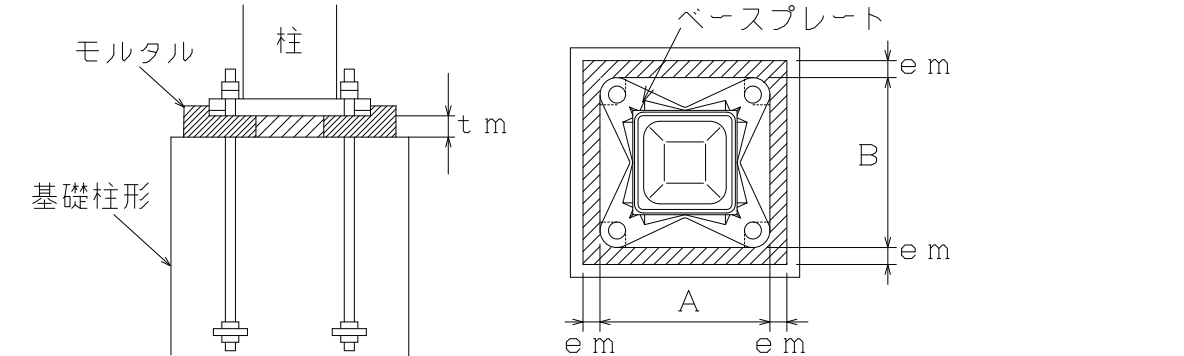
ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ孔径	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ孔径	-	38	45	53	61	70	79	87

定着板 (エコタイプ、Gタイプ共通) (mm)

ねじの呼び	4本タイプ用			8本タイプ用			12本タイプ用				
	厚さ ts	外径 Ds	内径 ds	厚さ td	長さ a	幅 b	厚さ td	長さ a	幅 b	内径 dt	
M24	16	70	27	-	-	-	-	-	-	-	
M30	16	90	33	9	180	65	33	-	-	-	
M36	19	100	39	9	215	75	39	-	-	-	
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	-	-	-	16	380	145	76	16	375	145	76

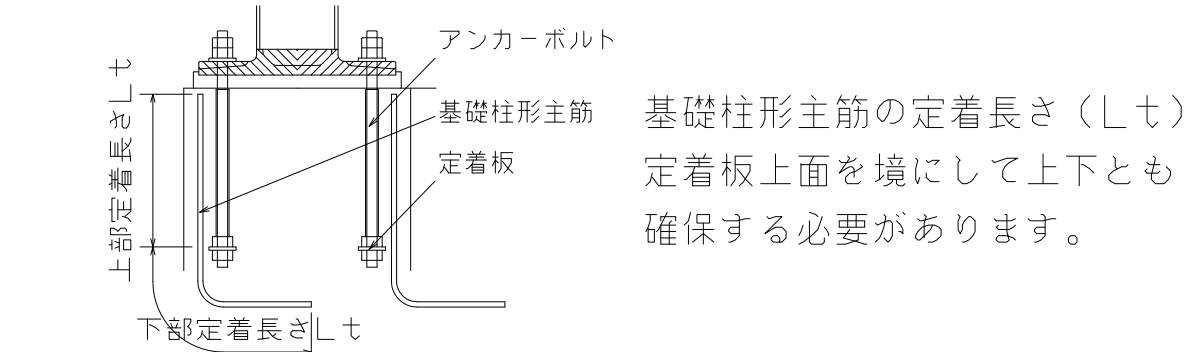
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照ください。

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各 部 名 称	寸 法	備 考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t m)	標準寸法 t m=50mm	許容範囲 30 ≤ t m ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e m)	e m ≥ 30mm	許容範囲 e m ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



基礎柱形主筋の定着長さ (L t) は、
定着板上面に境にして上下とも
確保する必要があります。

工場加工

1. 溶 接 材 料

被覆アーク溶接	低水素系 490N/mm ² 級高張力鋼用 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び 490N/mm ² 級高張力鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上
※高強度柱材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。	

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考

ベースプレート形状		開先形状
角形鋼管柱用 (EB型式)	円形鋼管柱用 (EM型式)	
アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ	
アンカーボルト 12本タイプ	H形柱用 (EH型式)	

ベースプレート形状		開先形状
角形鋼管柱用 (GB型式)	円形鋼管柱用 (GM型式)	
アンカーボルト 4本タイプ	アンカーボルト 8本タイプ	
アンカーボルト 12本タイプ	H形柱用 (GH型式)	

3. 組 立 溶 接

角形鋼管	円形鋼管	H形	角形鋼管	円形鋼管	H形
組立溶接	組立溶接	組立溶接	対辺ごとに溶接を行う。 (自動ロボット溶接の場合はこれによらない)	1パスごとに全周溶接を行う。	(1)ウェブの両面を肉溶接 (曲げ負荷の場合は、完全溶込み溶接とする) (2)隅先部の溶接

5. 溶 接 施 工 一 般

予 熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余 盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

△注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱差によって曲がる場合があります。

6. 検 査

方 法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

△注意

1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、セクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずりコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらなideてください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

現 場 施 工

<#> : セクシアの担当範囲

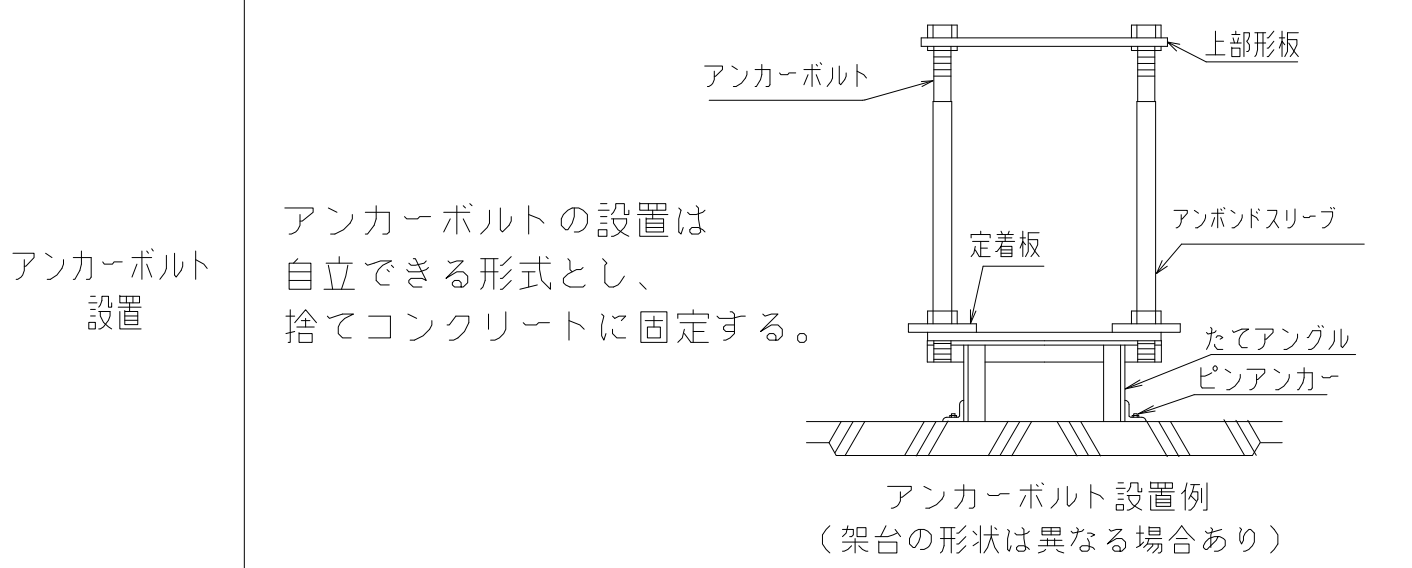
1. 捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

2. 墨出し

3. アンカーボルト搬入 (#)

4. アンカーボルト据付 (#)



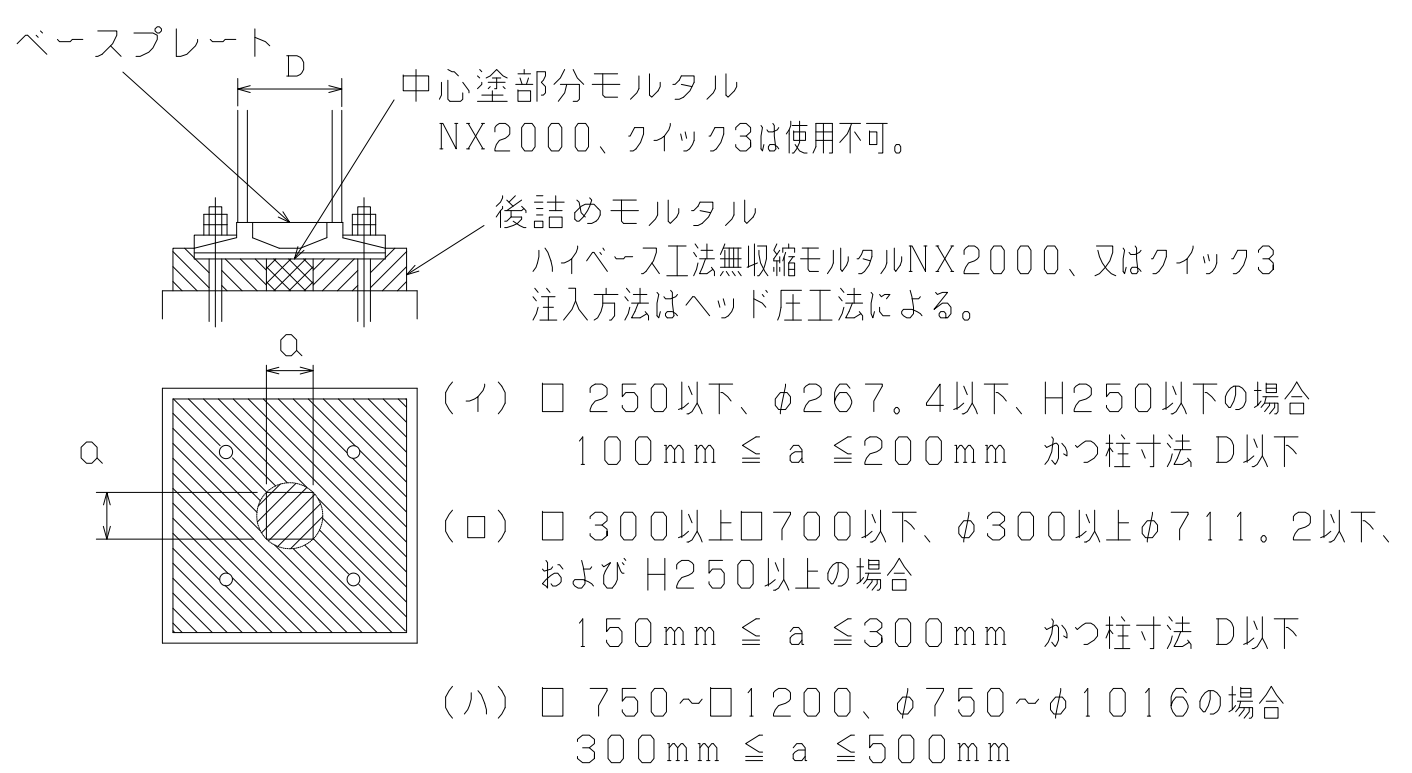
平 面	レ ベ ル
	基準高さよりの誤差 e h - 3mm ≤ e h ≤ 10mm

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工



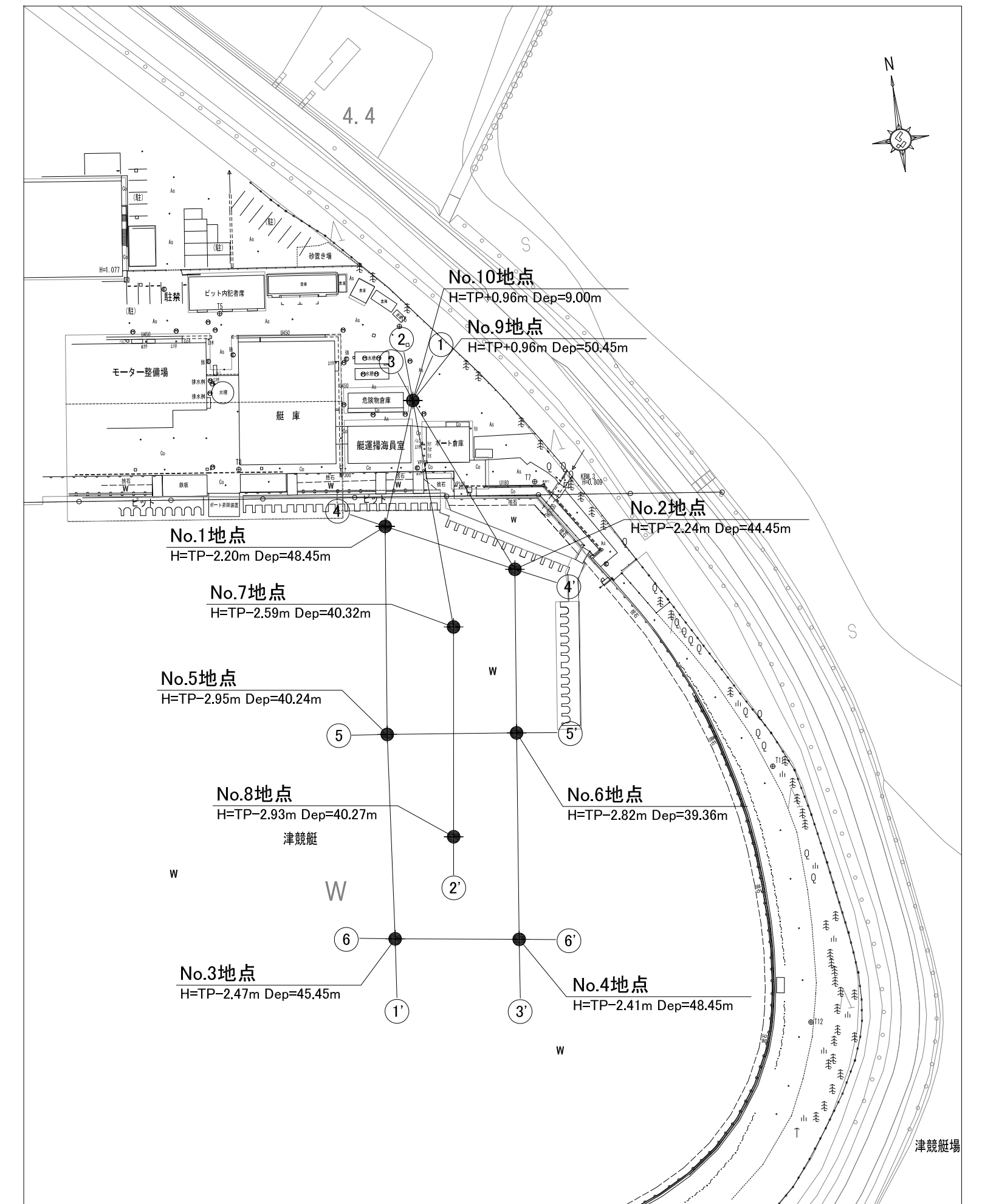
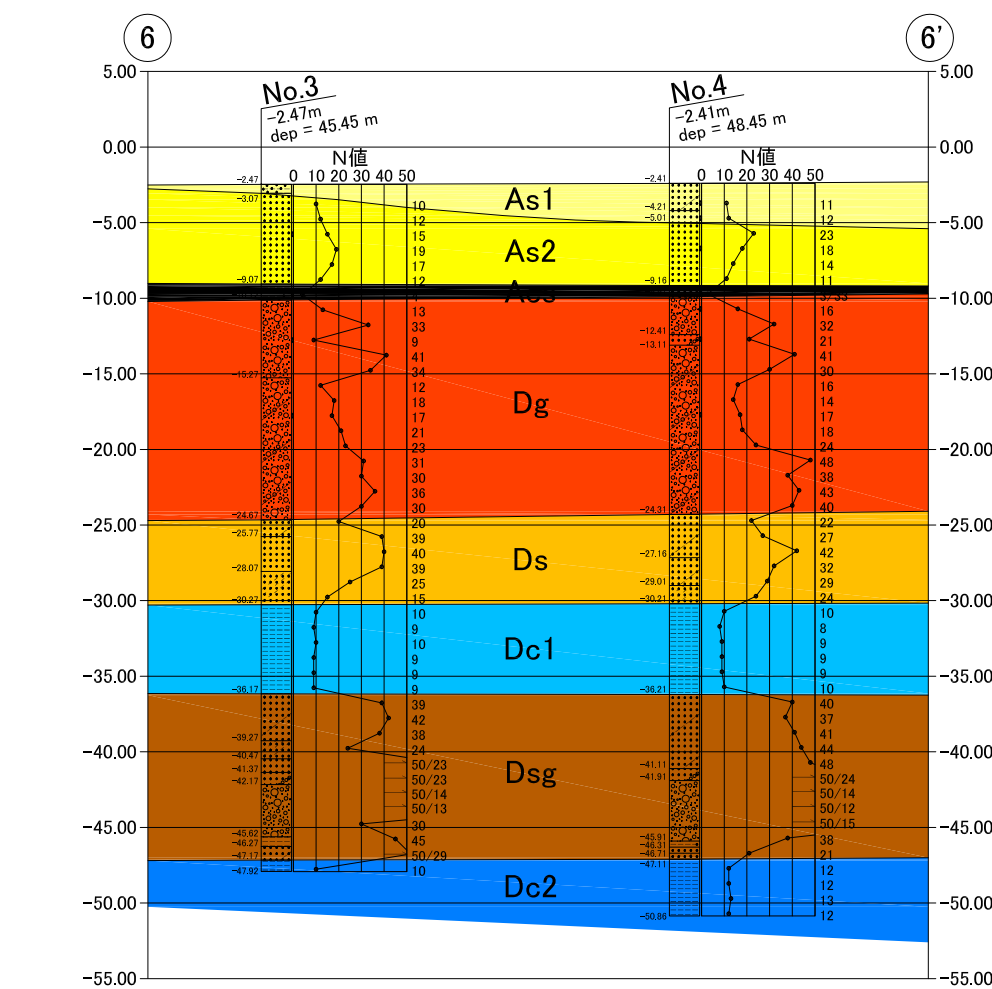
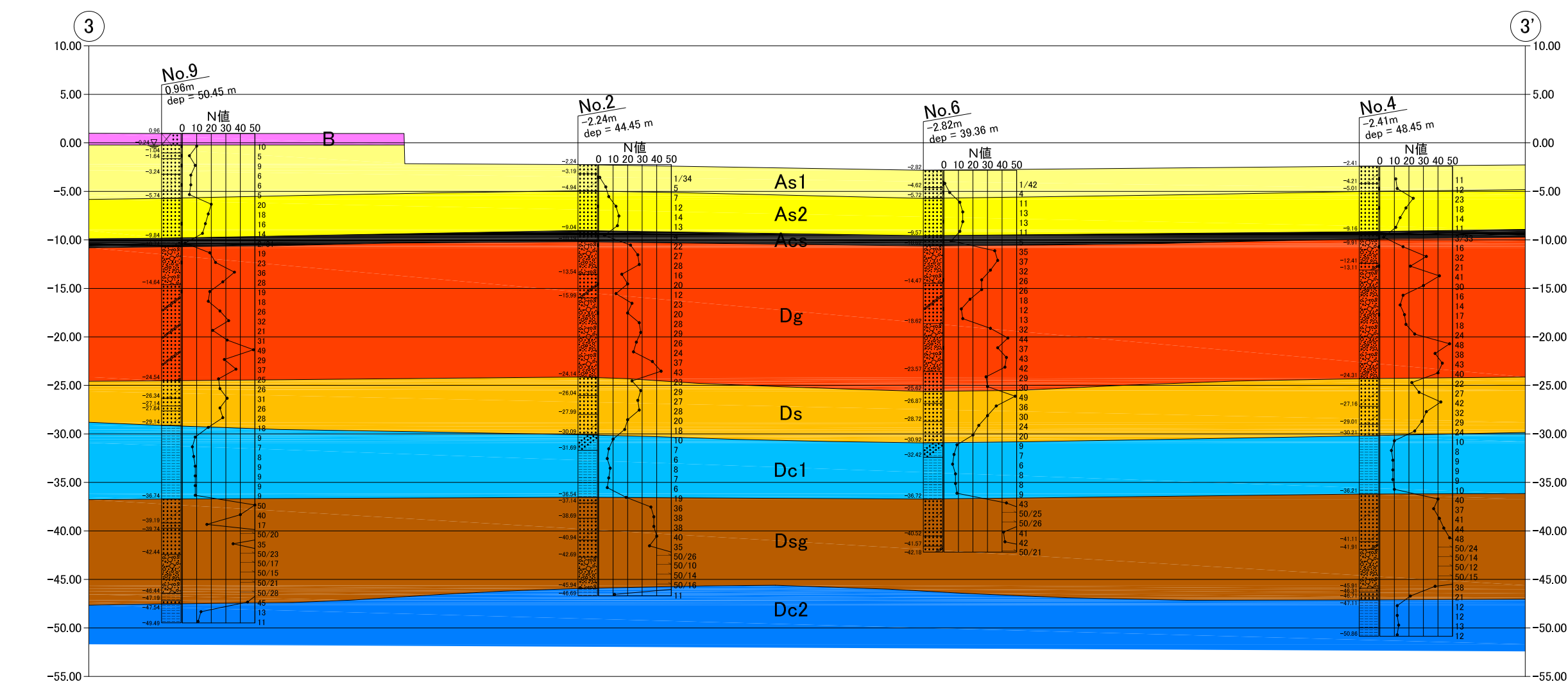
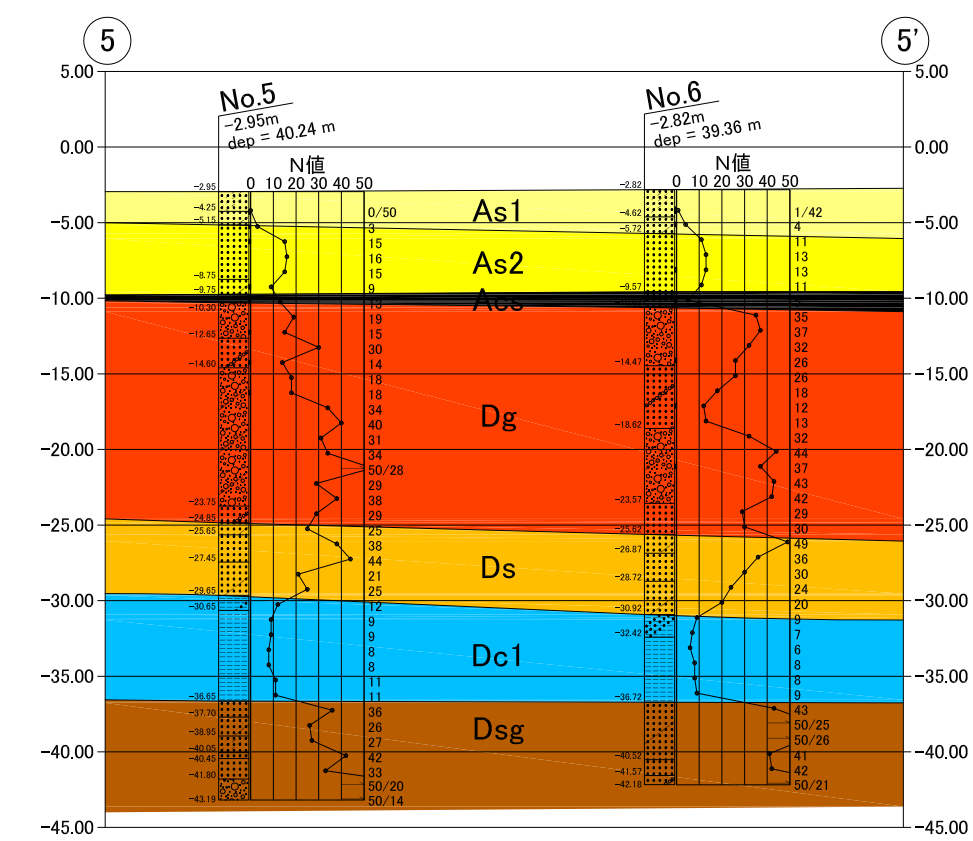
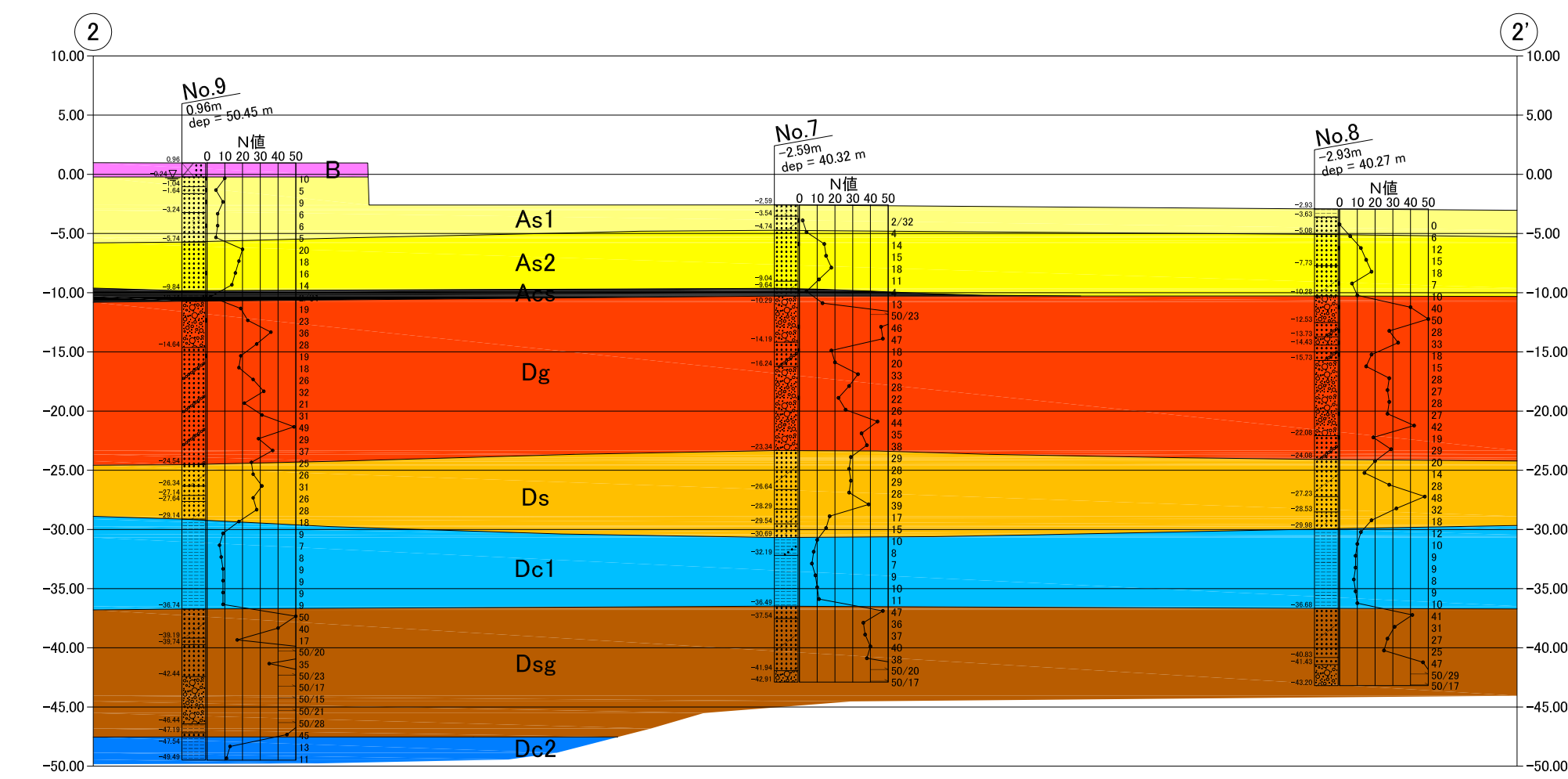
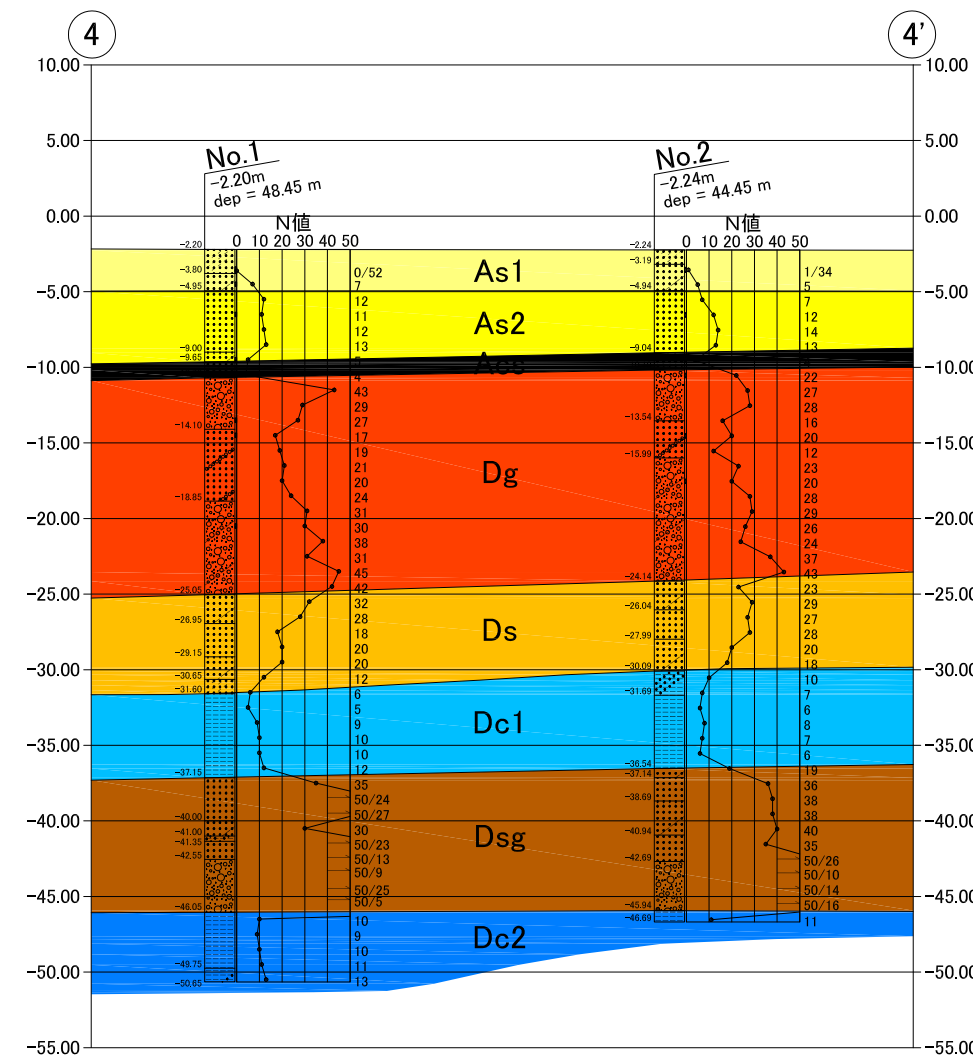
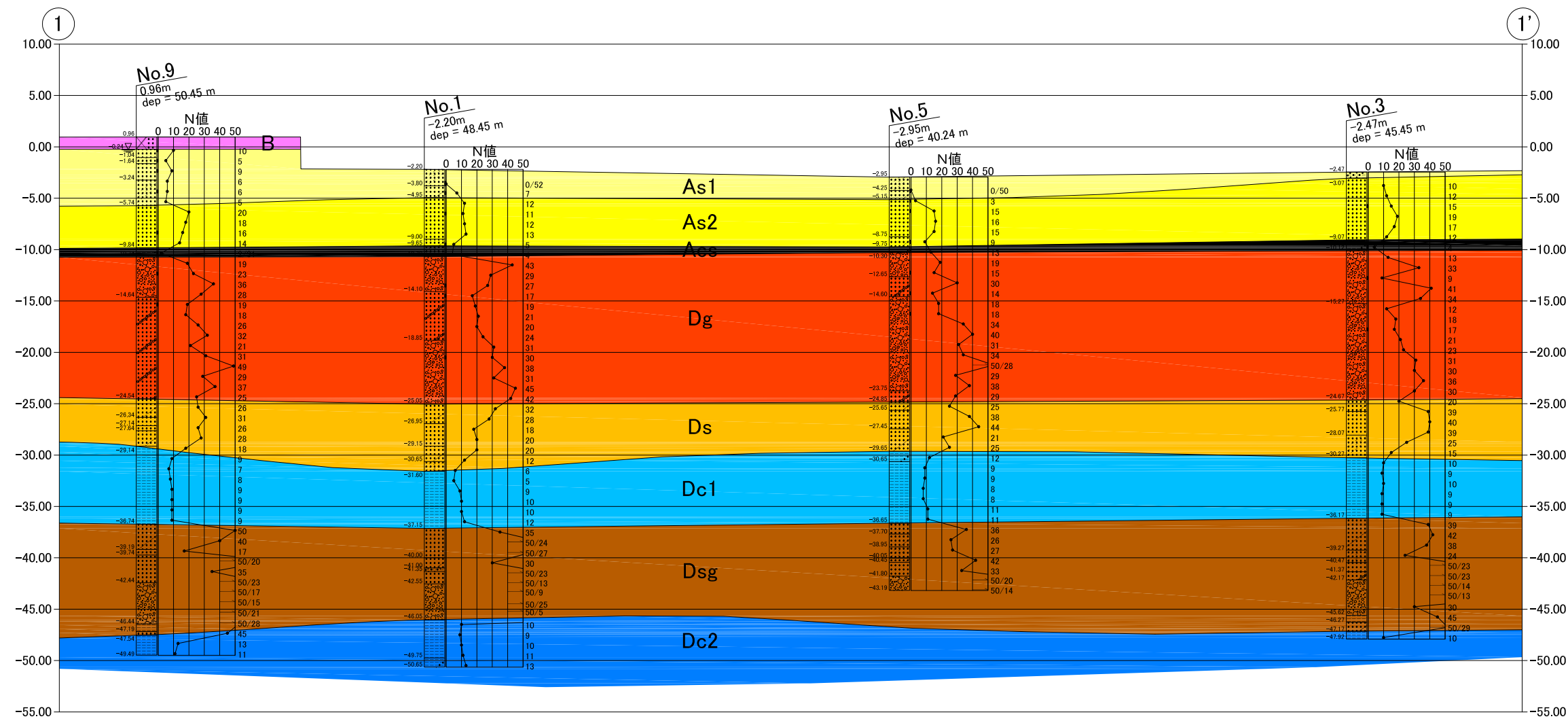
中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH型式	GH型式
8. 鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	8. 鉄骨建方 9. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#)
9~10. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#) アンカーボルト締付確認 (#) ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	10. アンカーボルト締付 (#) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差: ±10°)

11. モルタル注入枠取り外し

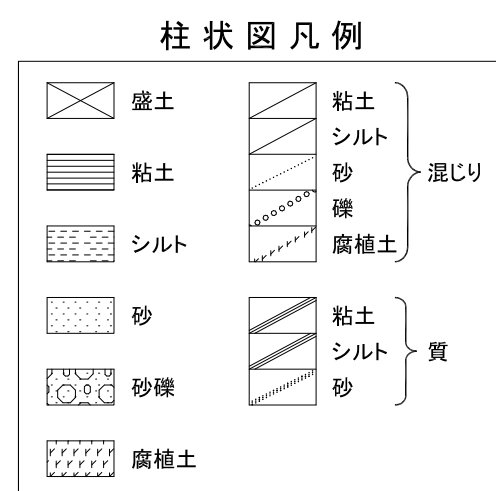
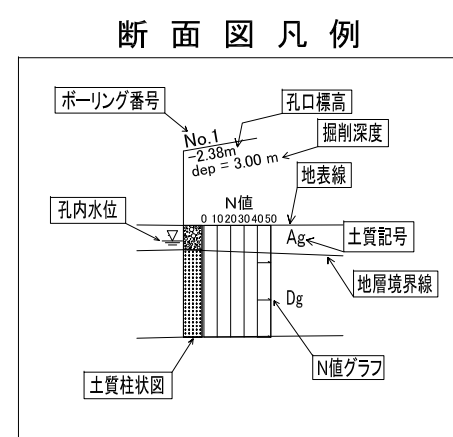
施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 繁谷 朋也		B	建築工事 A3→ A1→ 二
		O6	露出固定柱脚工法設計施工標準
安井建築設計事務所			



地層凡例

地質時代			地層名 (記号)	N 値 (平均)	
現世			埋土層(B)	-	
新 生 代	第 四 紀	完 新 世	沖積層	第1砂質土層 (As1)	0～12 (4)
			第2砂質土層 (As2)	4～23 (12)	
		更 新 世	洪積層		1～6 (3)
				礫質土層 (Dg)	9～50 (28)
	砂質土層 (Ds)			6～49 (27)	
	第1粘性土層 (Dc1)			5～18 (9)	
		砂質土礫質土層 (Dsg)	17～50 (42)		
		第2粘性土層 (Dc2)	9～13 (11)		

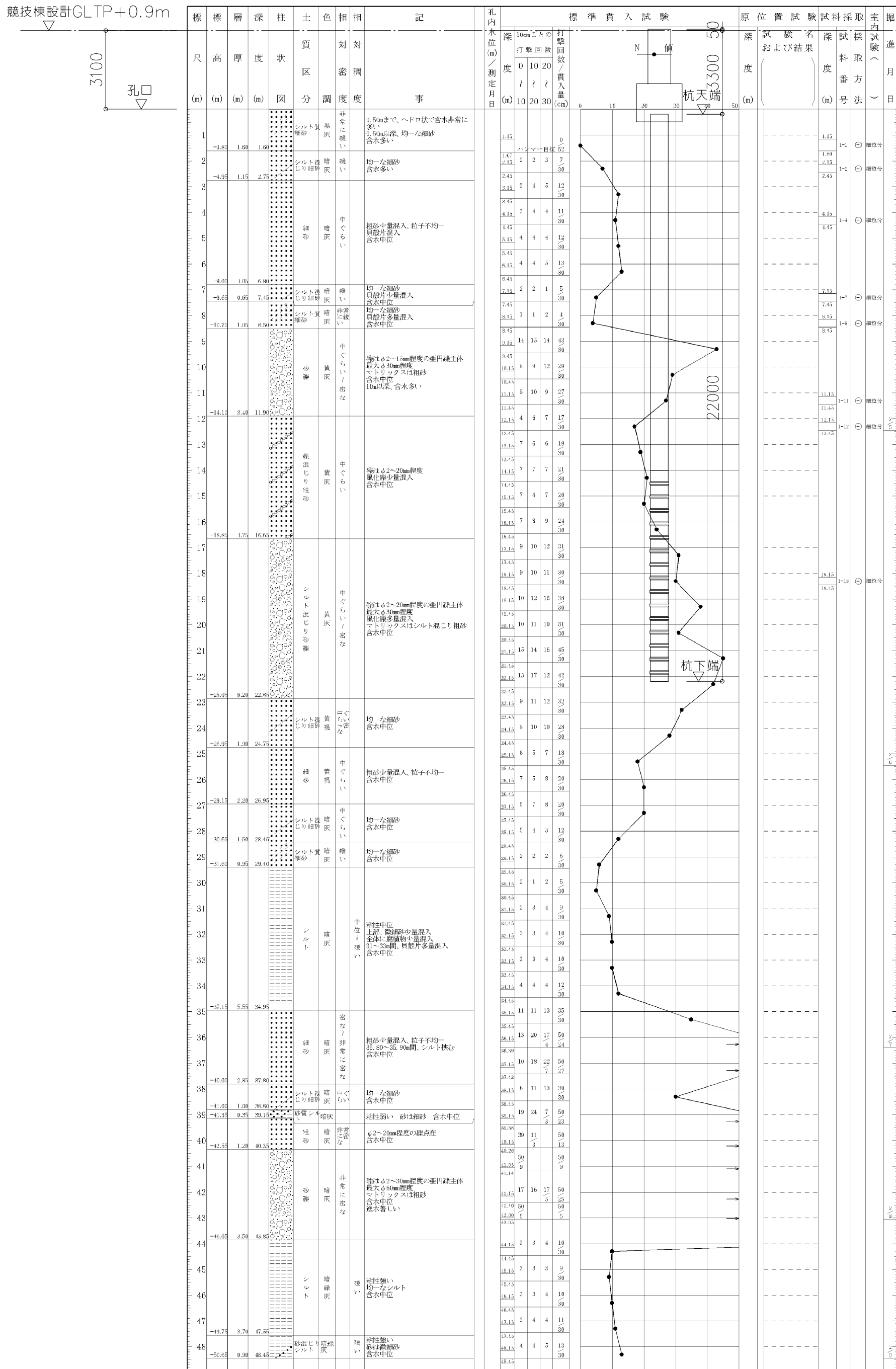


※層境界付近の N 値は、10cm ほどの値を比例配分して算出した
N 値「50 以上」は「50」として平均値を算出した

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第 256513 号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第 2161 号 第 153086 号 栗谷 朋也		B	建築工事 A3→ A1→
		07	ボーリング位置図・地層断面図
		安井建築設計事務所	

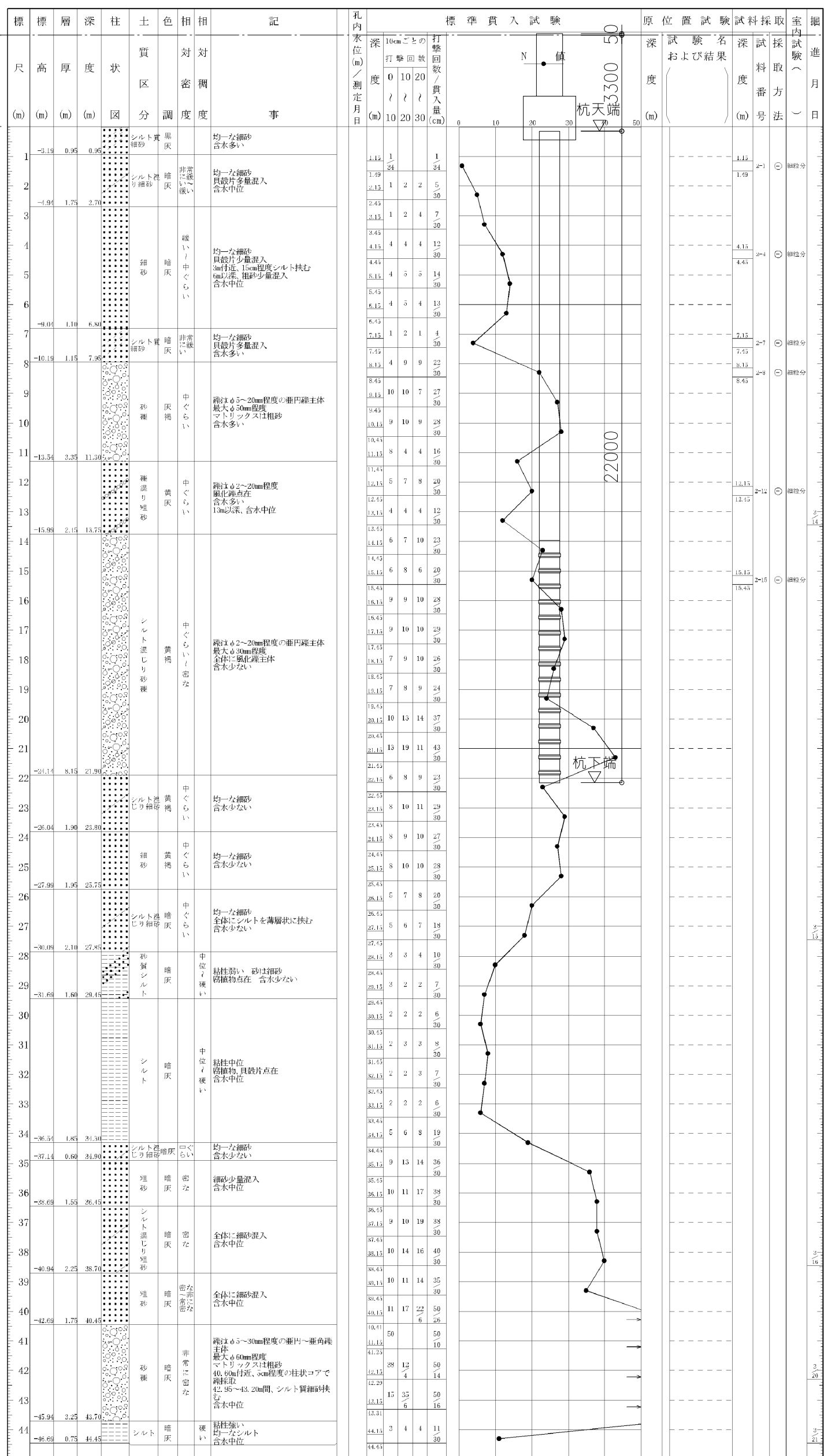
ボーリング柱状図

平成30年度官営稚穂試験1-17号計測モニター委託一輪走観測機 採等新線その他工事に係る地質調査業務委託									
調 査 名						JIS-X1023			
事業・工事名						シ工No.			
ボーリング名		No. 1		調査位置		三重県津市藤方町		北緯 34° 40' 52.1"	
発注機関		津市		調査期間		2018年12月27日～2019年5月31日		東経 136° 31' 29.8"	
調査業者名		東京陸研株式会社 〒105-3317 東京都港区有明3-1-1		主任技師		野島 英行			
孔口標高		+2.20m		使用機器		ワイベール製 VFM-YM-05型		ポンプ用汎用	
掘削深度		12.90m		試料採取		スリムサーミ製 NFAD-8型		ボンプ自動落下装置	
孔内径		48.5mm		図面		ボンプノコギリ製 YFM型			

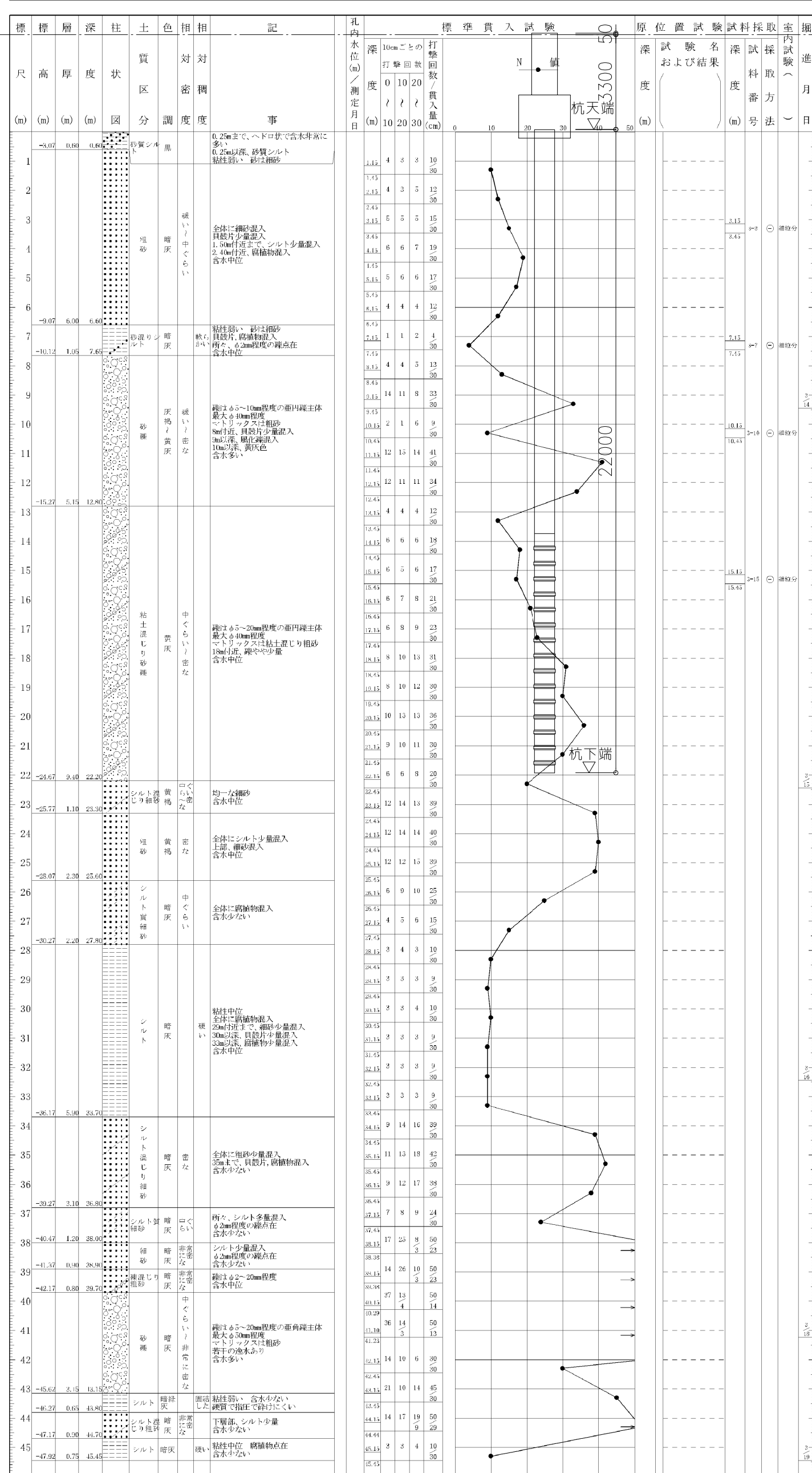


ボーリング柱状図

平成30年度雪害推避第1-47号津市モニターポート観測機競技 様等知新その他工事に係る地質調査業務誘発																			
調 査 名										ボーリングNo.									
事業・工事名										シートNo.									
No. 2		調査位置		三重県津市藤乃内										北緯		34° 40' 51.7"			
架設機関		津市		調査期間		2018年 12月 27日 〜 2019年 5月 31日										東経		135° 31' 30.8"	
調査業者名		東亜建設株式会社 TEL【059-331-7311】		主任技師		野崎 英夫		現代代理人		谷本幸雄		認定者		谷本幸雄		調査員		服部 渉	
孔口標高		+2.24m		角		上 90° 左 270°		方位		N-E型		FWD-N型		YBM-N型		磁気異常		半自動落下式装置	
孔径標準		44.5mm		傾斜		約 0.05%		掘削方法		手動掘削		機械掘削		打撃式		ポンプ		カヌーリ管状製 V型穴	



ボーリング柱状図

[illegible]

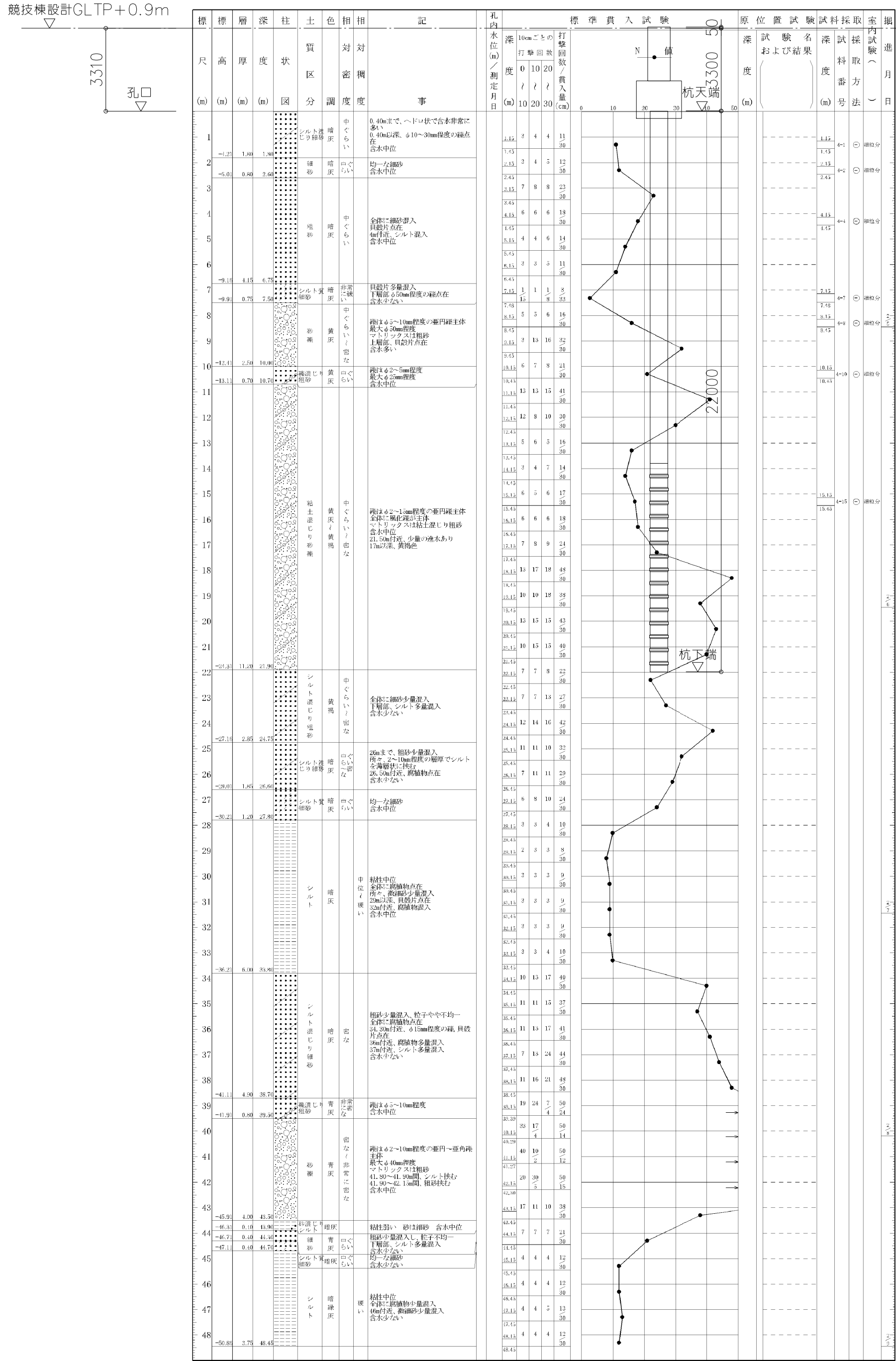
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 塚谷 剛也	津市モーターポート競走場競技棟等新築その他工事		
	B	建築工事	A3→1:300 A1→1:150
	08	ボーリング柱状図(1)	
安井建築設計事務所			

ボーリング柱状図

調査名 平成30年度富樫推測1-47号津市モーターボート競走場競技
機等新築その他工事に係る地質調査業務委託

ボーリングNo. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

事業・工事名									
ボーリング名	No. 4	調査位置	三重県津市緑方地内				北緯	34° 40' 49.1"	
発注機関	津市		調査期間	2018年12月27日～2019年5月31日		東経	136° 31' 30.4"		
調査業者名	東洋土木株式会社 電話(059-331-7311)	主任技師	野崎英行	現調	谷奥幸雄	コピ	谷奥幸雄	ボーリング責任者	加藤善久
孔口標高	-2.41m	角	180°	方	北0°	地盤	地盤	使用機	半自動落下装置
総観測長	40.25m	度	0	分	0	秒	0	分	0

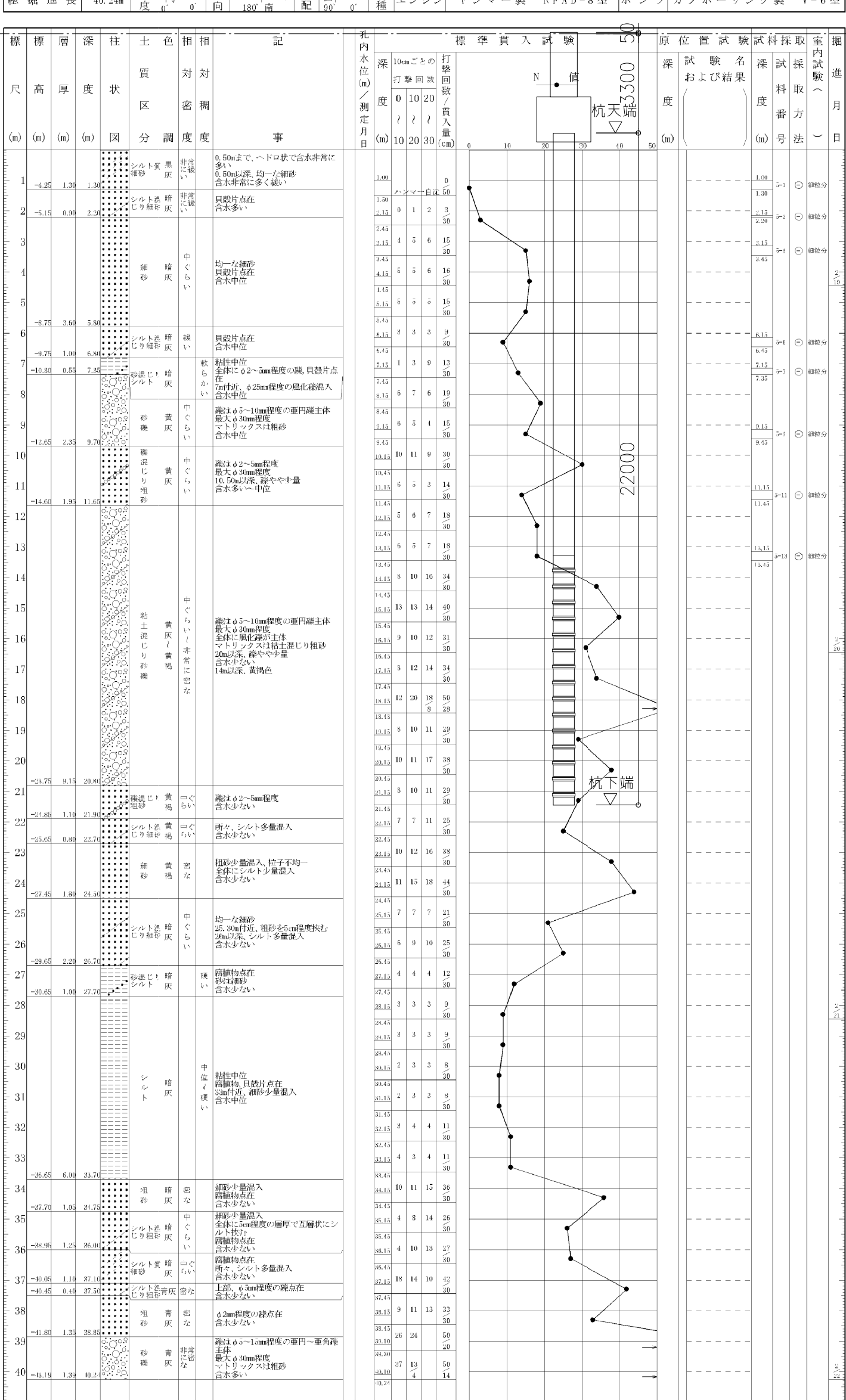


ボーリング柱状図

調査名 平成30年度富樫推測1-47号津市モーターボート競走場競技
機等新築その他工事に係る地質調査業務委託

ボーリングNo. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

事業・工事名									
ボーリング名	No. 5	調査位置	三重県津市緑方地内				北緯	34° 40' 50.6"	
発注機関	津市		調査期間	2018年12月27日～2019年5月31日		東経	136° 31' 29.5"		
調査業者名	東洋土木株式会社 電話(059-331-7311)	主任技師	野崎英行	現調	谷奥幸雄	コピ	谷奥幸雄	ボーリング責任者	加藤善久
孔口標高	-2.95m	角	180°	方	北0°	地盤	地盤	使用機	半自動落下装置
総観測長	40.25m	度	0	分	0	秒	0	分	0

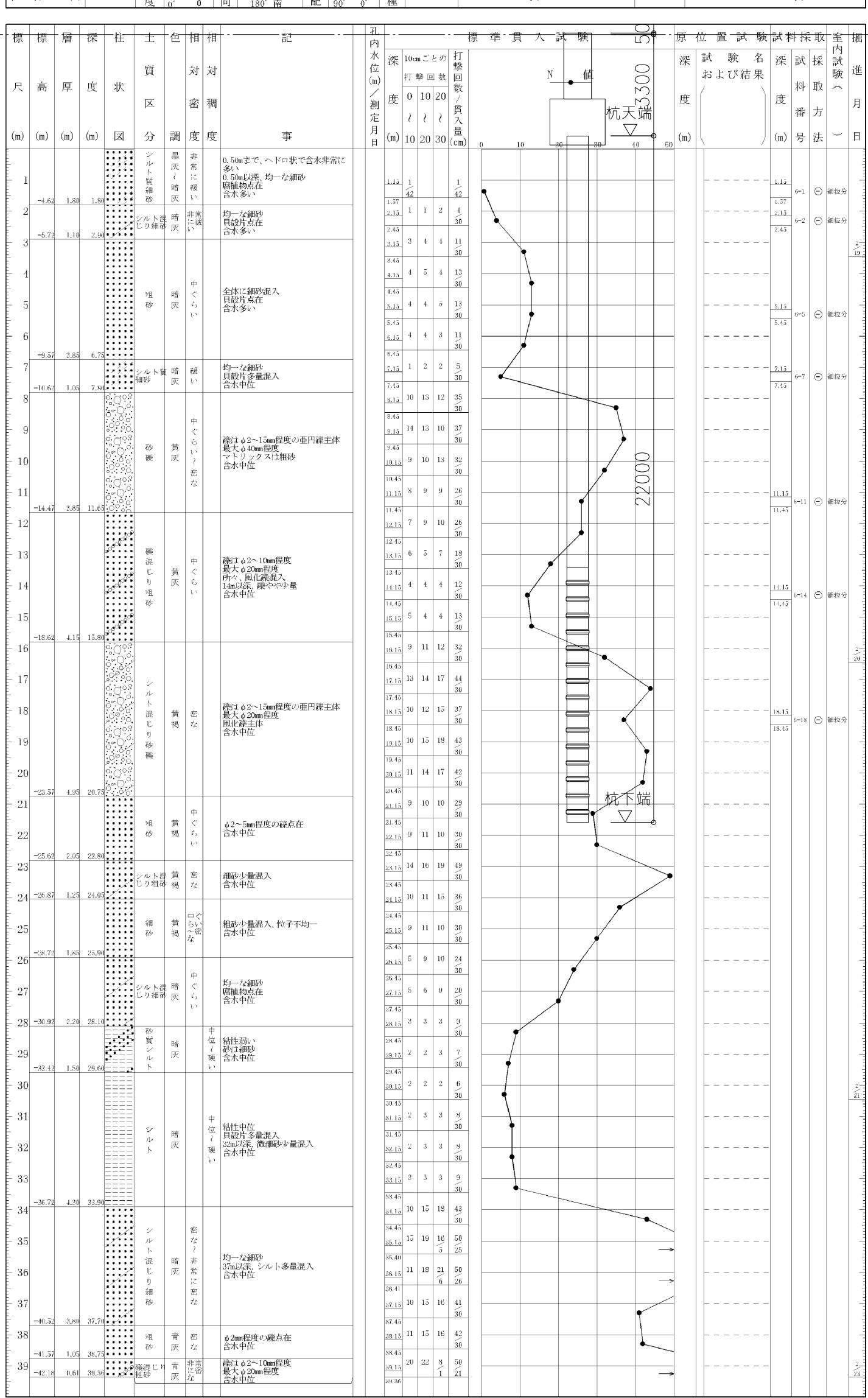


ボーリング柱状図

調査名 平成30年度富樫推測1-47号津市モーターボート競走場競技
機等新築その他工事に係る地質調査業務委託

ボーリングNo. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

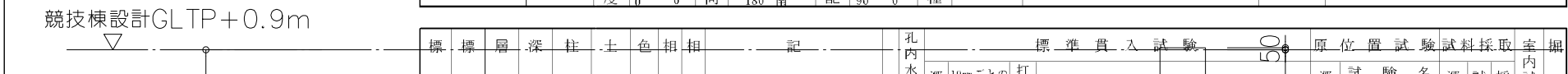
事業・工事名									
ボーリング名	No. 6	調査位置	三重県津市緑方地内				北緯	34° 40' 50.5"	
発注機関	津市		調査期間	2018年12月27日～2019年5月31日		東経	136° 31' 30.6"		
調査業者名	東洋土木株式会社 電話(059-331-7311)	主任技師	野崎英行	現調	谷奥幸雄	コピ	谷奥幸雄	ボーリング責任者	加藤善久
孔口標高	-2.82m	角	180°	方	北0°	地盤	地盤	使用機	半自動落下装置
総観測長	40.25m	度	0	分	0	秒	0	分	0



ボーリング柱状図

平成30年度営繕第1-17号津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事に係る地質調査業務委託

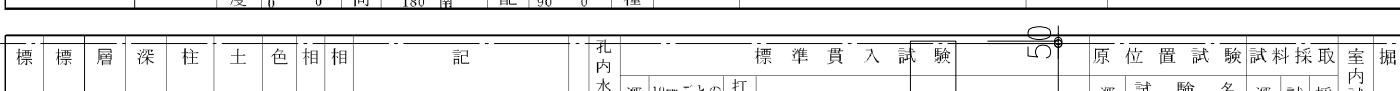
事業・主事名				シートNo	
ボーリング名	No. 7	調査位置	三重県津市藤方地内		北緯 34° 40' 51.9"
ボーリング機器	油圧式	調査期間	2010年 10月 27日	2010年 11月 01日	東経 136° 31' 00.0"

[illegible]

ボーリング柱状図

調査名 平成30年度営事推進第1-47号津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事に係る地質調査業務委託

ボーリング名	No. 8	調査位置	三重県津市藤方地内		北緯	34° 40' 49.9"
発注機関	津市	調査期間	2018年12月27日～2019年5月31日		東経	136° 31' 30.0"

[illegible]

ボーリング柱状図

[illegible]

ボーリング名	No. 9	調査位置	三重県津市蘇方地内		北緯	34° 40' 52.9"
発注機関	津市	調査期間	2018年12月27日～2019年5月31日		東経	136° 31' 30.2"

The diagram illustrates a geological cross-section with the following details:

- Vertical Axis (Depth):** Ranges from 0 to 50 meters, with major ticks every 5 meters.
- Horizontal Axis (Distance):** Ranges from 0 to 10 meters, with major ticks every 2 meters.
- Soil Layers:**
 - Layer 1 (0-2m):** 上層の砂、シルト質シルト (Upper sand, silty sand).
 - Layer 2 (2-5m):** 中層の砂、シルト質シルト (Middle sand, silty sand).
 - Layer 3 (5-10m):** 下層の砂、シルト質シルト (Lower sand, silty sand).
 - Layer 4 (10-15m):** 砂質シルト、シルト質シルト (Sandy silt, silty sand).
 - Layer 5 (15-20m):** シルト質シルト、シルト質シルト (Silty sand, silty sand).
 - Layer 6 (20-25m):** シルト質シルト、シルト質シルト (Silty sand, silty sand).
 - Layer 7 (25-30m):** シルト質シルト、シルト質シルト (Silty sand, silty sand).
 - Layer 8 (30-35m):** シルト質シルト、シルト質シルト (Silty sand, silty sand).
 - Layer 9 (35-40m):** シルト質シルト、シルト質シルト (Silty sand, silty sand).
 - Layer 10 (40-45m):** シルト質シルト、シルト質シルト (Silty sand, silty sand).
 - Layer 11 (45-50m):** シルト質シルト、シルト質シルト (Silty sand, silty sand).
- Groundwater Levels:** Indicated by a line with dots, showing fluctuations between approximately 10m and 40m depth.
- Test Results:** Plotted as a line with dots, showing values ranging from approximately 10 to 40.
- Labels:**
 - 杭天端 (Pile Head):** Located at the top of the pile, around 10m depth.
 - 杭下端 (Pile Tip):** Located at the bottom of the pile, around 45m depth.

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博	津市モーターポート競走場競技棟等新築その他工事	
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 梁谷 朋也	B	建築工事 A3~1:300 A1~1:150
	10	ボーリング柱状図(3)
安井建築設計事務所		

ボーリング柱状図

調査名 令和元年度事業第1-18号 津市モーターボート競走場競技棟新築工事
に係る地質調査業務委託

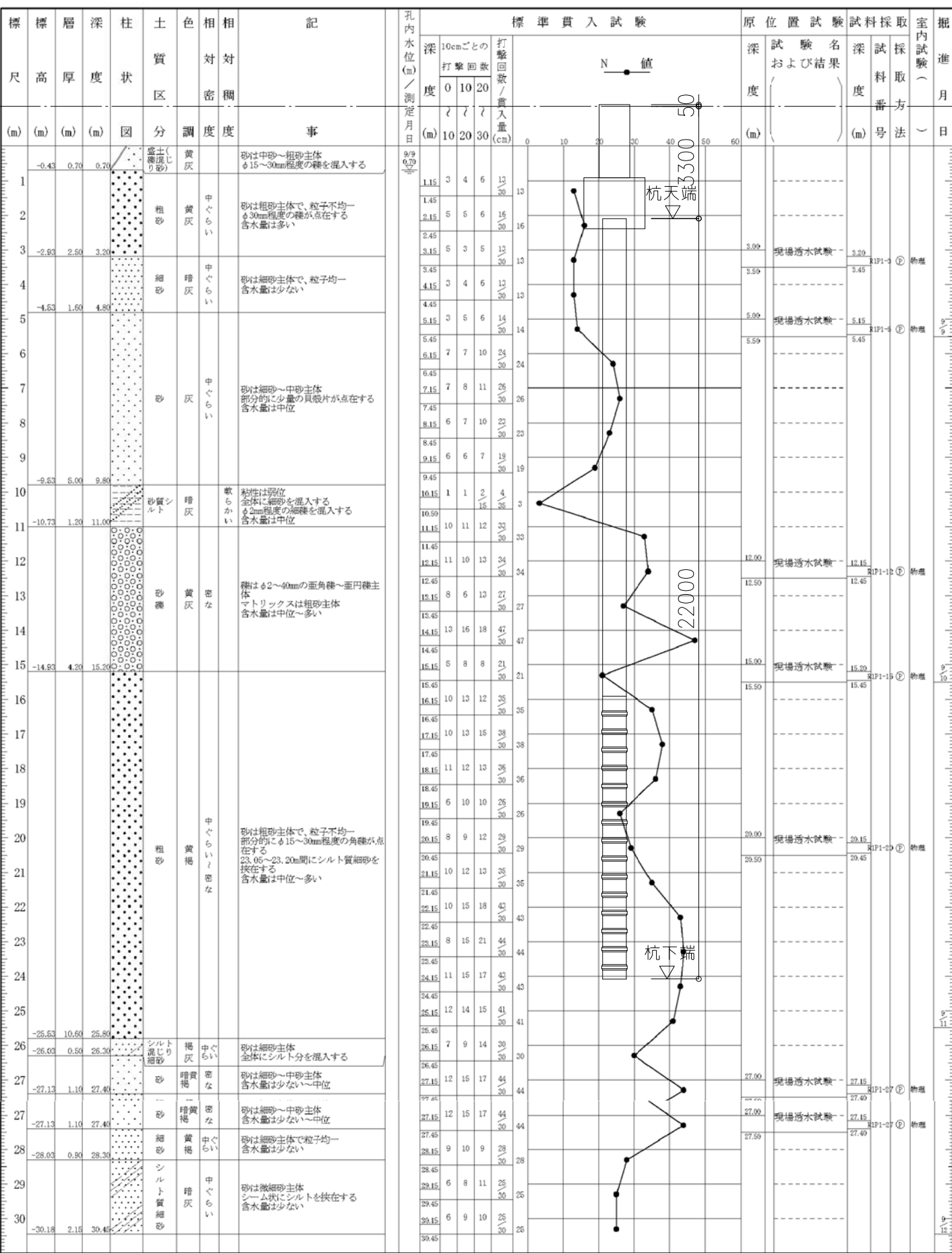
ボーリングNo. N22-08-19

事業・工事名 No.1 調査位置 三重県津市藤方

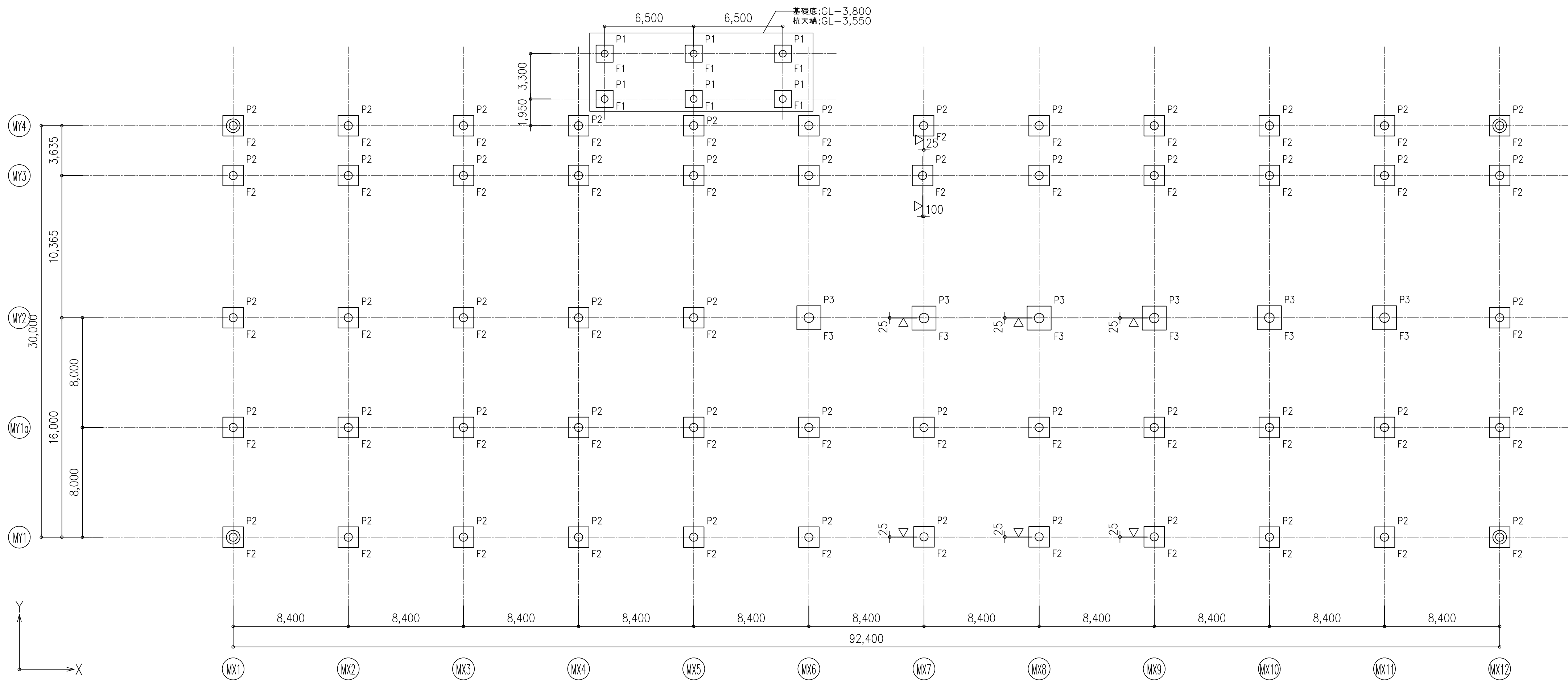
ボーリング名	No.1		調査位置	三重県津市藤方		シートNo.	北緯34°40'49.5"	
発注機関	津市建設部 客務課		調査期間	令和1年9月9日～令和1年9月12日		東経	136°31'32.7"	
調査業者名	株式会社 三重新成建設システムズ 電話(059)252-5533		主任技師	田中 元		コア	ボーリング	
代表者	松井 敬		代理人	松井 敬		調査者	吉川 浩司	
孔口標高	64m (6.25m)		方位	N 0° E		地盤勾配	15.0°	
総掘進長	29.45m		試験機	D0-D		ポンプ	手自動部下装置	
			エンジン	NFD-S		ポンプ	BG-4L	

競技棟設計CL TP+0.9m

1170 孔口



<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 繁谷 朋也	B	建築工事	A3→1:300 A1→1:150
	11	ボーリング柱状図(4)	
		安井建築設計事務所	



杭・基礎伏図1:200

共通事項（特記なき限り）

・設計GL=TP+0.90

・杭天端は、GL-3,350とする。

・基礎底は、GL-3,600とする。

・杭芯＝通り芯とする。

・▷は、杭芯を示す。

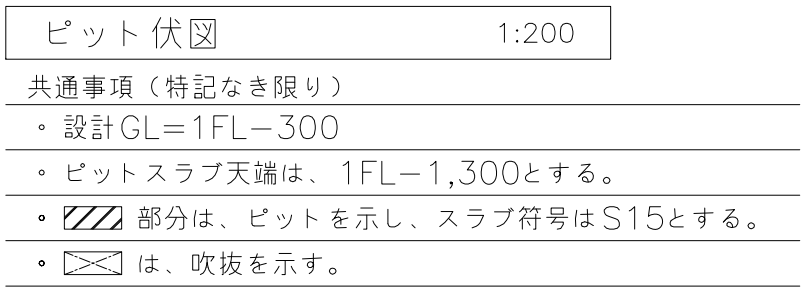
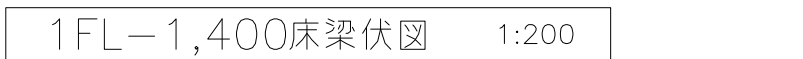
・◎は、試験杭を示す。

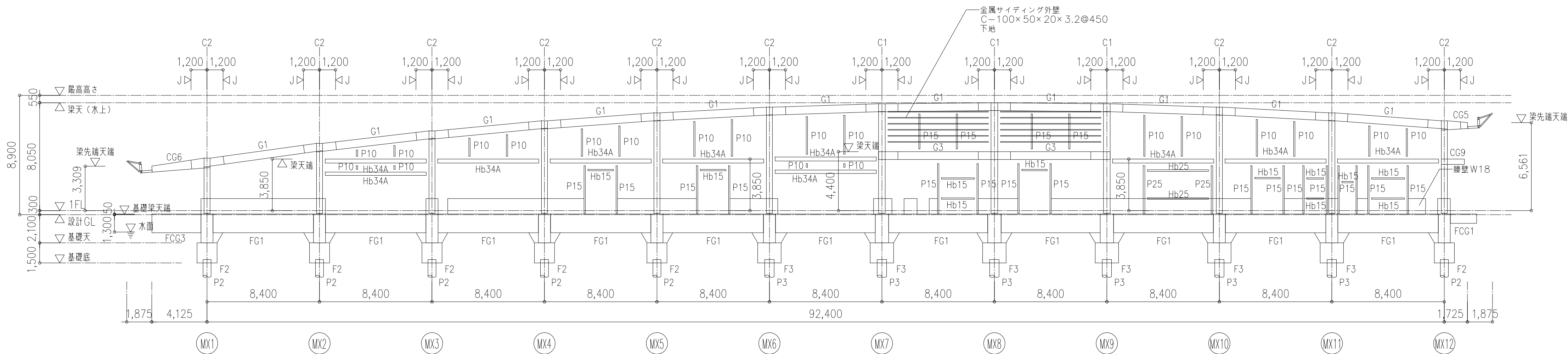
杭リスト（競技棟）

1.杭工法はHyper-MEGAI法（ $\omega=1.23$ ）とする。 2.腐食しろは2mmとする。 3.鋼管強度SKK490とする。

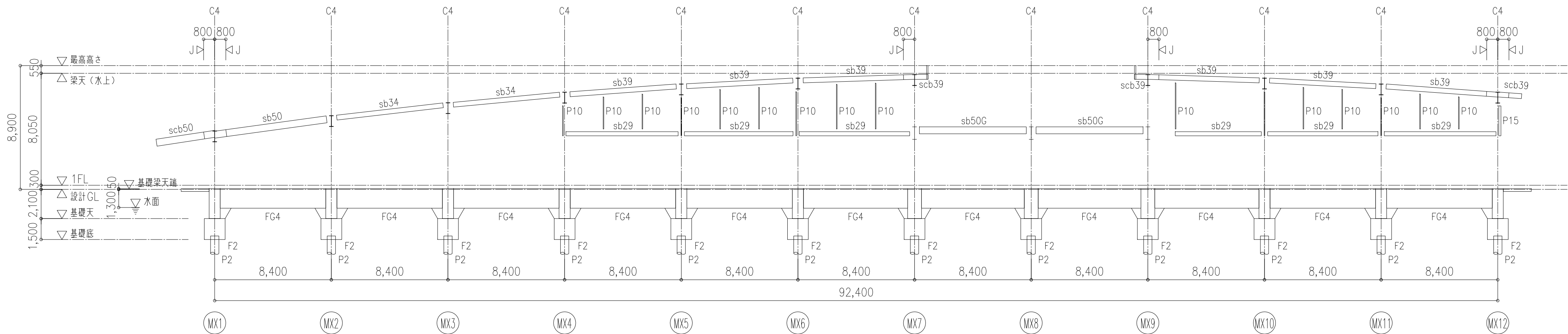
符 号	杭 種		軸 部 径 (mm)	節 部 径 (mm)	上杭長さ (m)	下杭長さ (m)	全 長 (m)	長期支持力 (kN)	杭頭補強筋	杭頭補強筋強度	本 数
	上 杭	下 杭									
P1	105 PHC C種	105 節付PHC A種	500	650	12.0	10.0	22.0	1600	9-D19(バイルスタッド)	SD345	6
P2	105 SC (490) t16	105 節付PHC C種	600	750	12.0	10.0	22.0	2100	18-D38	SD390	54
P3	105 SC (490) t12	105 節付PHC C種	700	900	12.0	10.0	22.0	2850	19-D38	SD390	6

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
12	B	建築工事	A3→1: 400 A1→1: 200
		競技棟 伏図(1)	
		安井建築設計事務所	

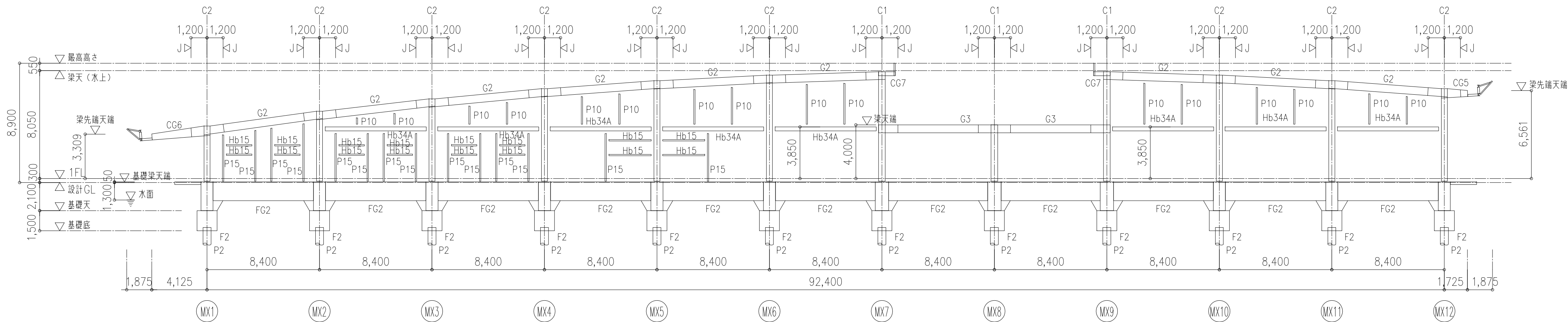




(MX2) 通り軸組図 1:200



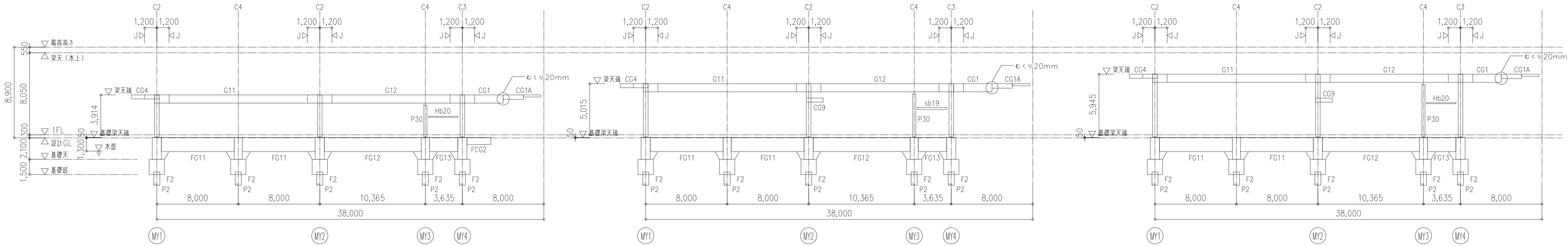
(MY1) 通り軸組図 1:200



(MY1) 通り軸組図 1:200

共通事項（特記なき限り）
* J印は、鉄骨継手位置を示す。
* 日尺下端は、基礎梁天端+50とする。
* 水面レベルは変動する為参考値。

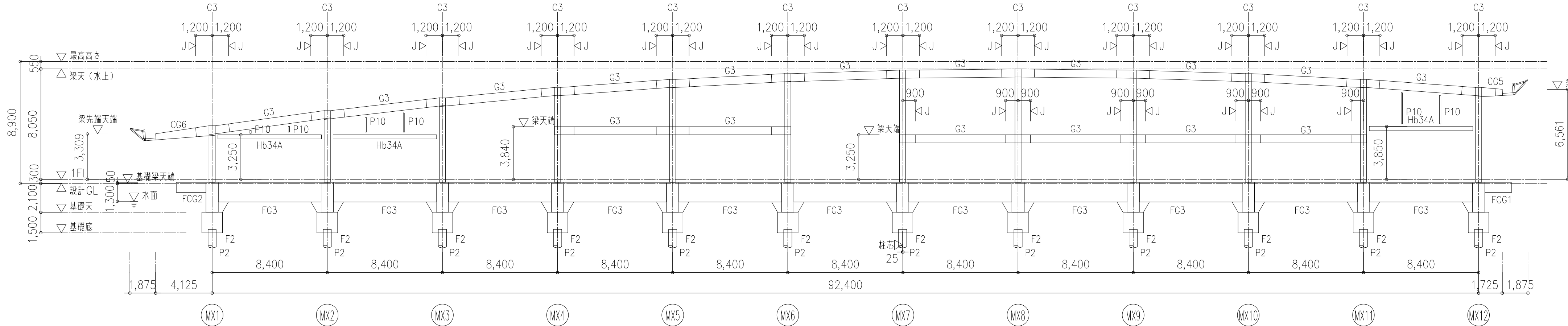
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 栗谷 朋也	津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
B	建築工事	A3→1:400 A1→1:200
15	競技棟 軸組図(1)	
安井建築設計事務所		



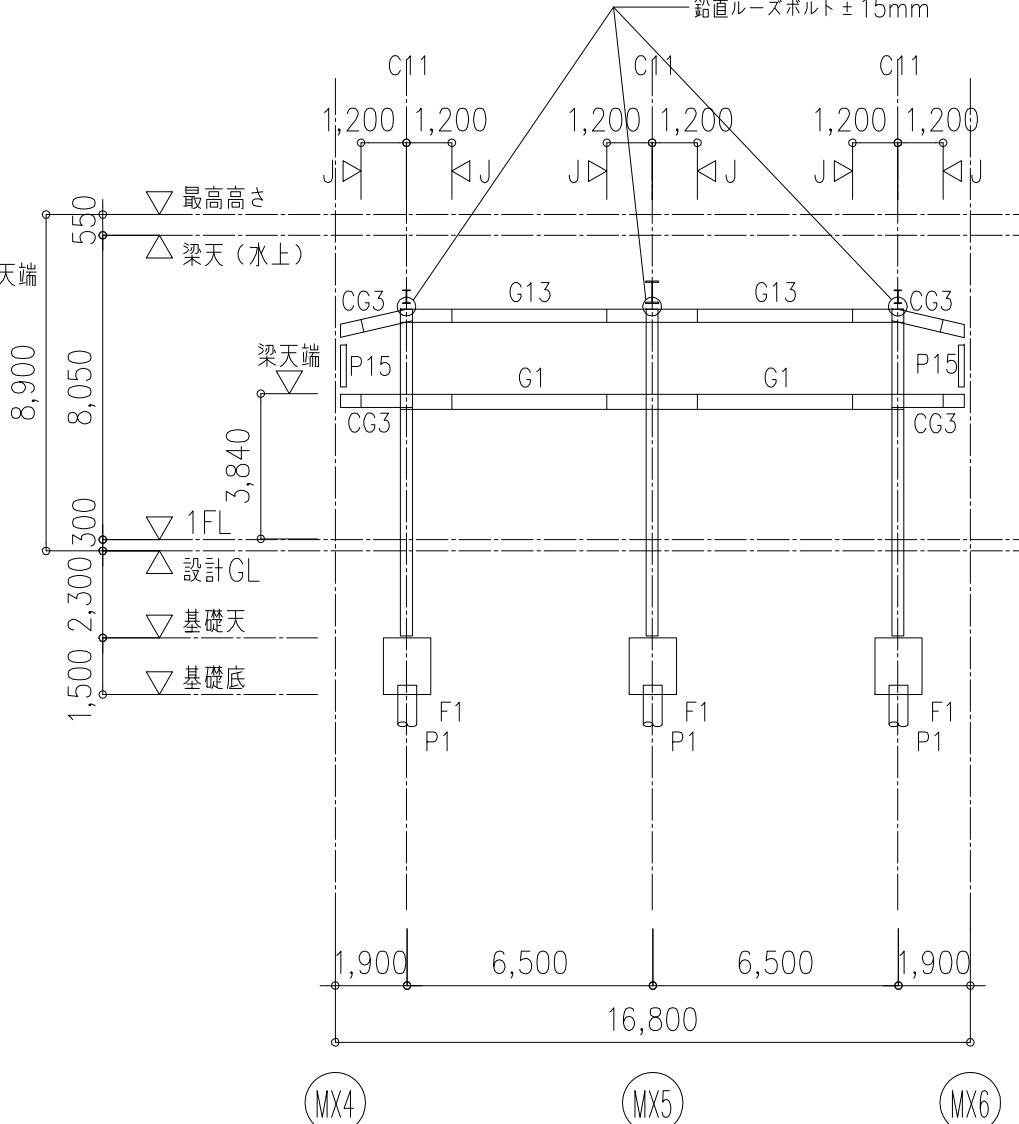
(MX1) 通り軸組図 1:200

(MX2) 通り軸組図 1:200

(MX3) 通り軸組図 1:200

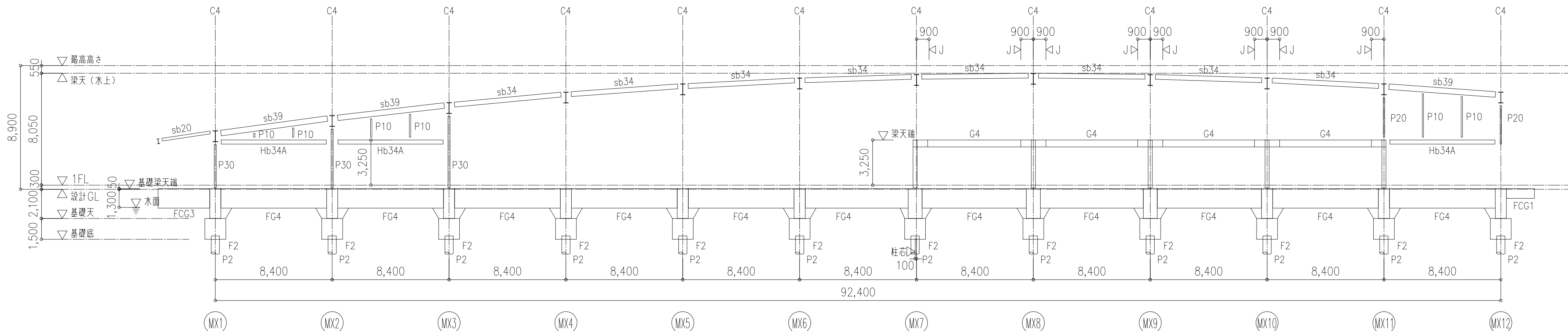


(MY4) 通り軸組図 1:200



(MY4) + 1,950 通り軸組図 1:200

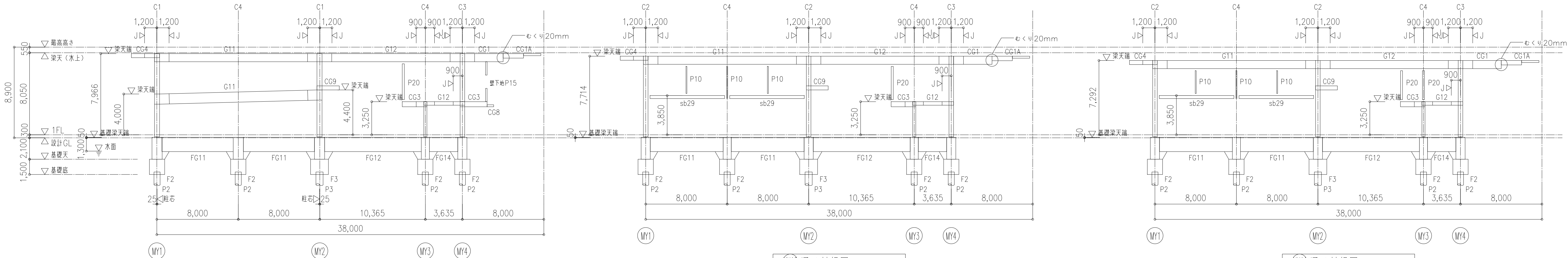
(MY4) + 5,250 通り軸組図 1:200



(MY3) 通り軸組図 1:200

共通事項（特記なき限り）
* J印は、鉄骨継手位置を示す。
* 尺下端は、基礎梁天端+50とする。
* 水面レベルは変動する為参考値。

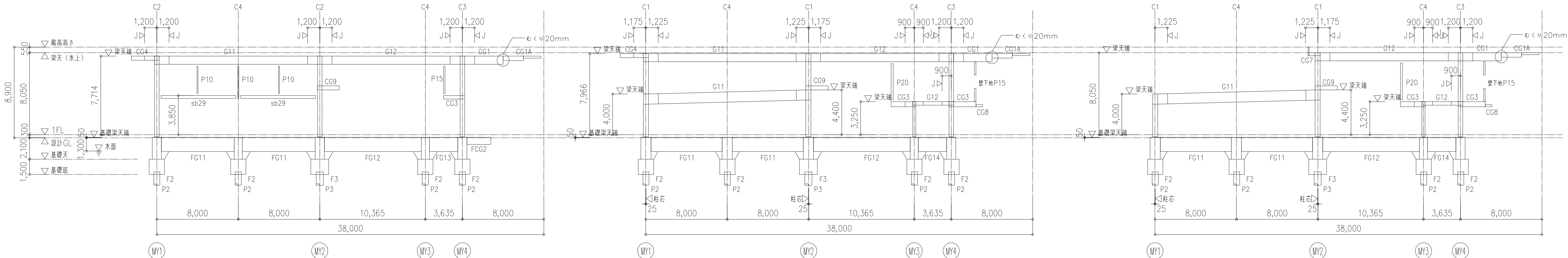
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 栗谷 朋也		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
B	建築工事	A3→1: 400 A1→1: 200	
16	競技棟 軸組図(2)		
安井建築設計事務所			



(MX9) 通り軸組図 1:200

(MX10) 通り軸組図 1:200

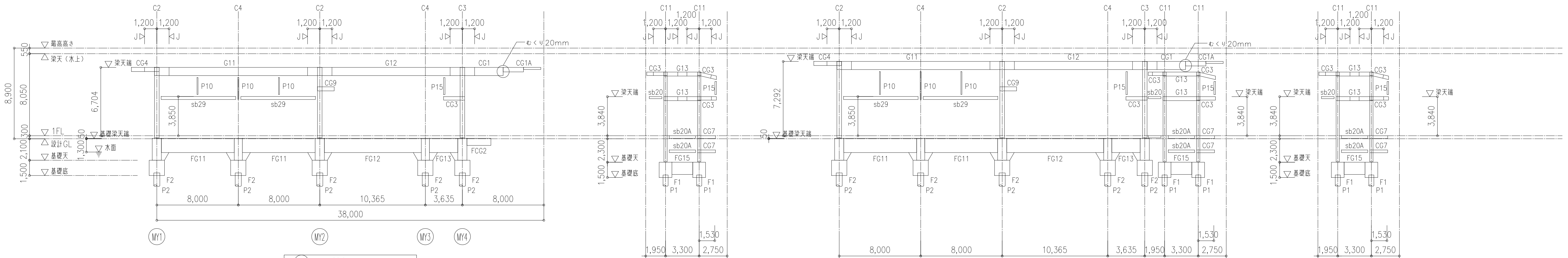
(MX1) 通り軸組図 1:200



(MX6) 通り軸組図 1:200

(MX7) 通り軸組図 1:200

(MX8) 通り軸組図 1:200



(MX4) 通り軸組図 1:200

(MX4) +1,900通り軸組図 1:200

(MX5) 通り軸組図 1:200

(MX5) +6,500通り軸組図 1:200

共通事項（特記なき限り）
・ J印は、鉄骨継手位置を示す。
・ B印下端は、基礎梁天端+50とする。
・ 水面レベルは変動する為参考値。

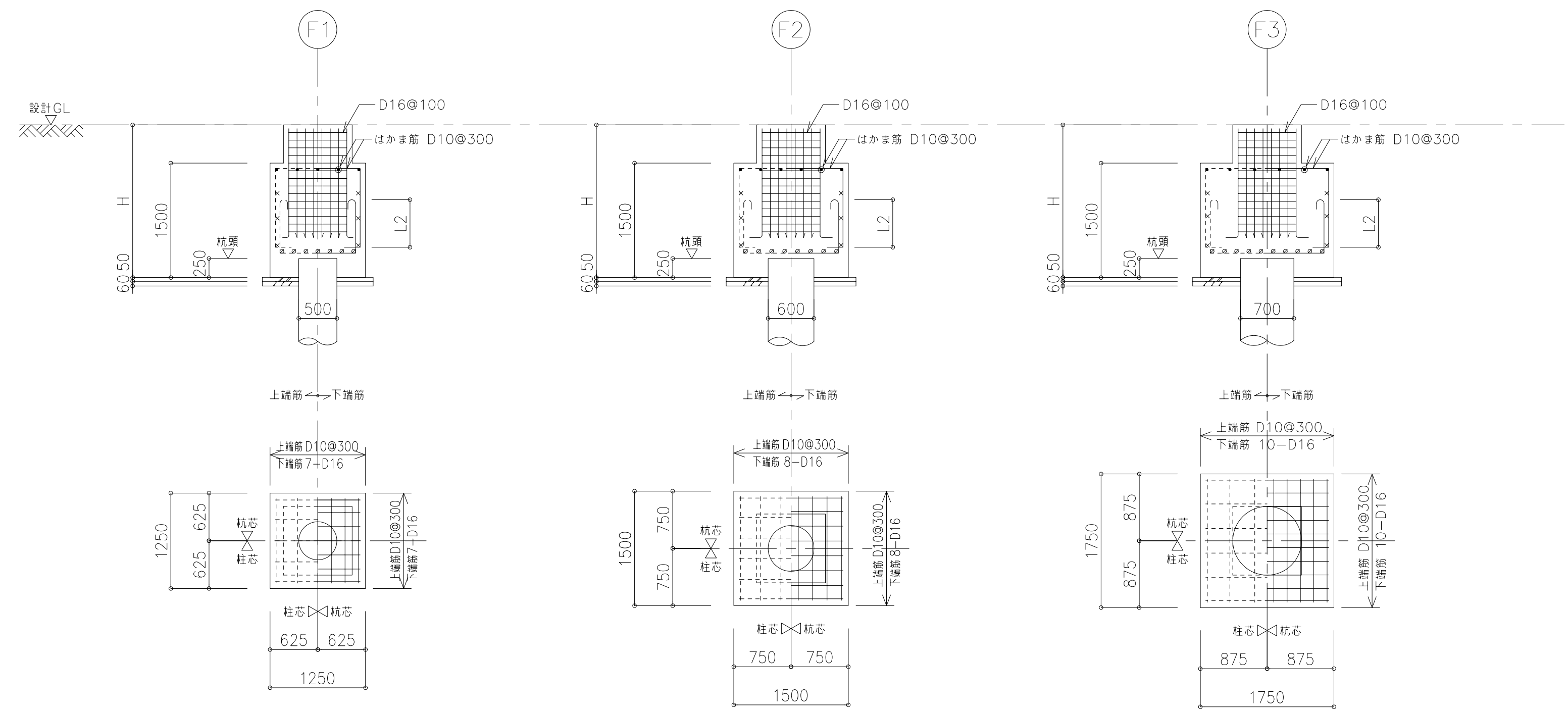
<代表設計者> 一般建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一般建築士 国土交通大臣登録 構造設計一般建築士第2161号 第153086号 築谷 朋也		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
B		建築工事	A3→1: 400 A1→1: 200
17		競技棟 軸組図(3)	
		安井建築設計事務所	



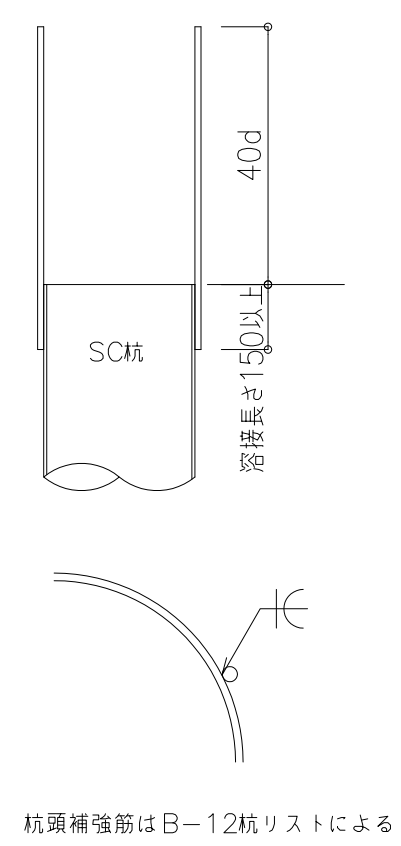
- ・ J印は、鉄骨継手位置を示す。
- ・ B印下端は、基礎梁天端+50とする。
- ・ 水面レベルは変動する為参考値。

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第236513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 築谷 朋也	津市モーターボート競走場競技棟等新築等他の工事 B 建築工事 18 競技棟 軸組図(4)	A3×1:400 A1×1:200
安井建築設計事務所		

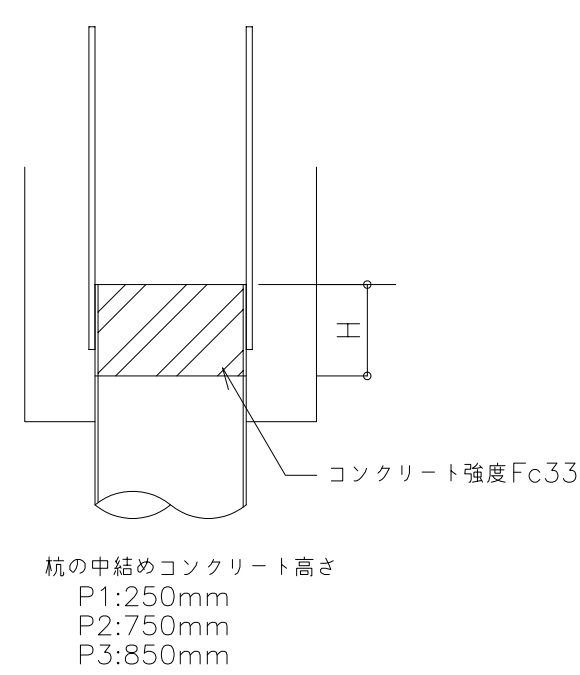
基礎リスト	1:50	共通事項（特記なき限り）
		・基礎深さHは、基礎伏図による。
		・基礎底地業は、捨てコンクリート⑦50、砕石⑦60とする。



杭頭補強筋要領図

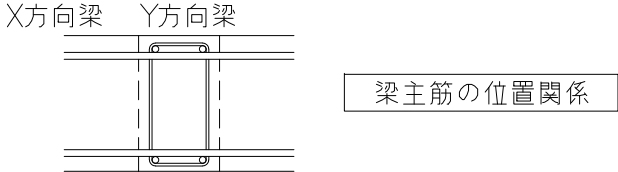


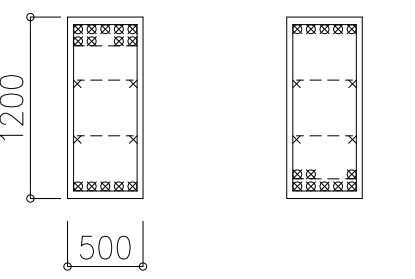
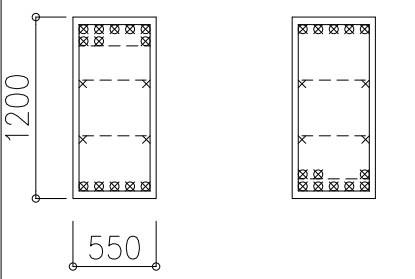
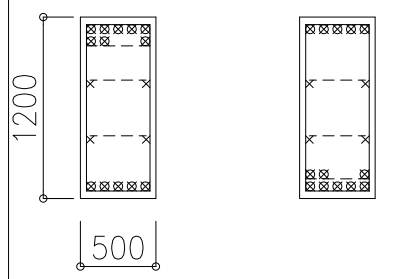
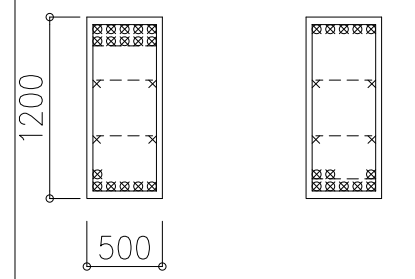
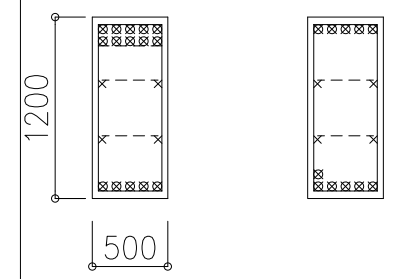
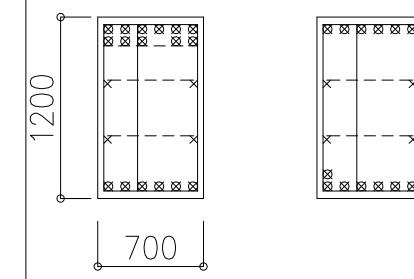
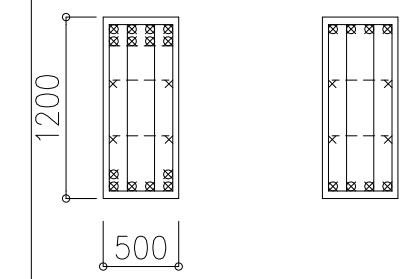
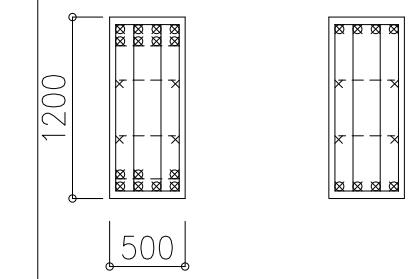
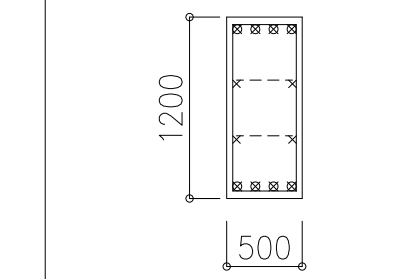
杭の中詰めコンクリート

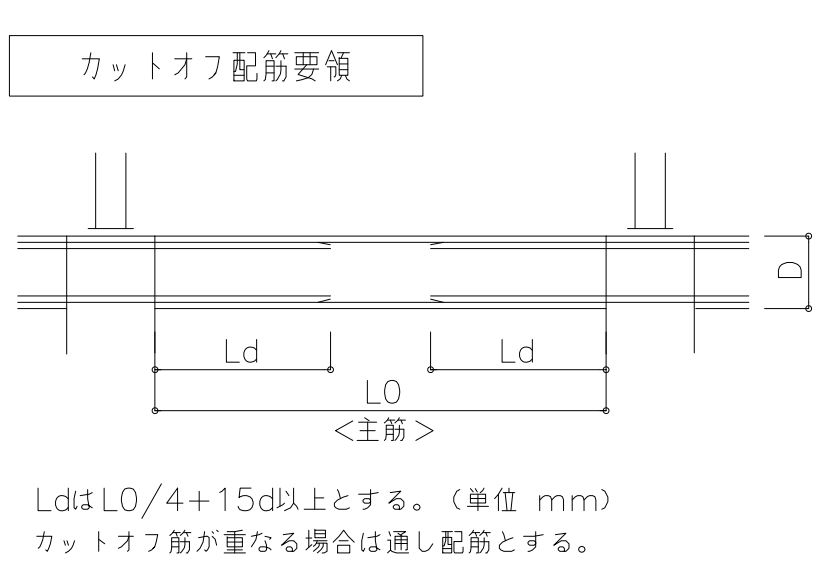


<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 繁谷 朋也	津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事		
	B	建築工事	A3→1:100 A1→1:50
	19	競技棟 基礎リスト	
	安井建築設計事務所		

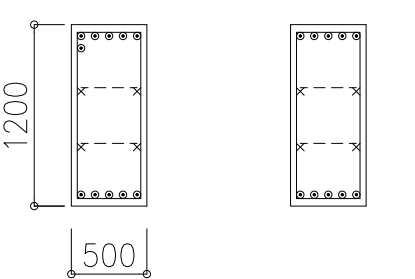
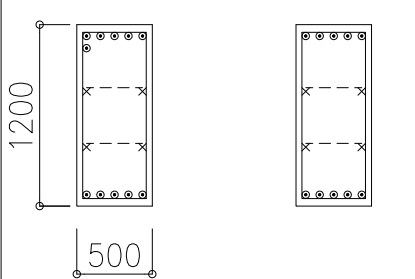
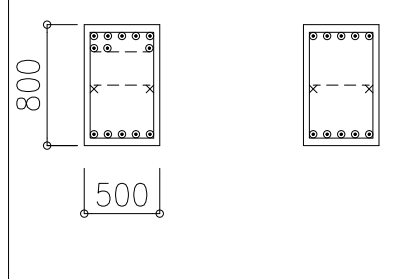
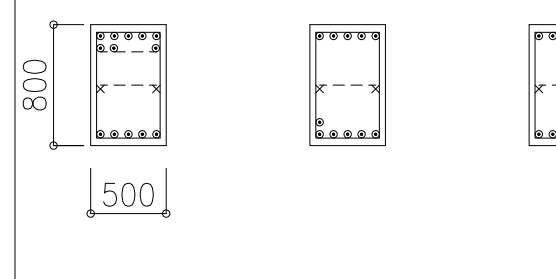
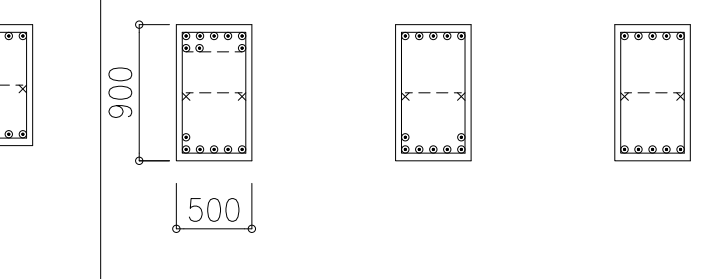
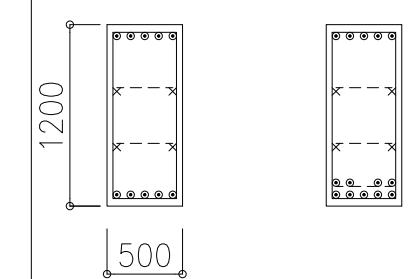
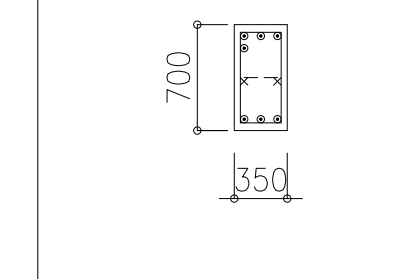
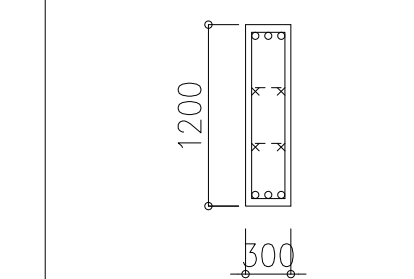
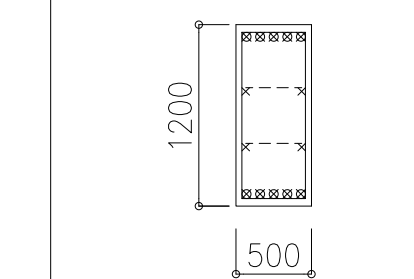
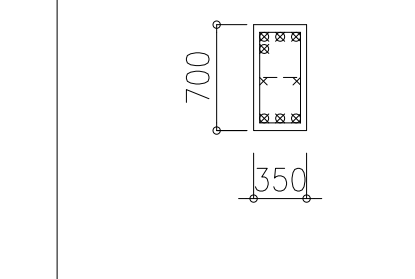
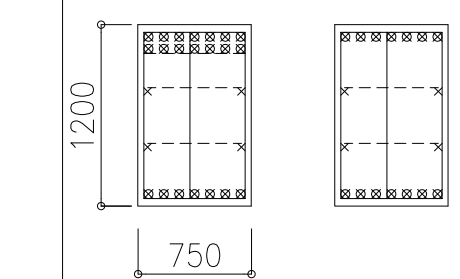
大梁 リスト		1:50
共通事項（特記なき限り）		
・ 幅止筋は D10@1000以内とする。		
・ 鉄筋材質は、D10～D16：SD295A，D19～D25：SD345，D29：SD390		



符 号	FG1		FG2		FG3		FG4		FG11		FG12		FG13		FG14		FG15
位 置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面
断 面																	
上 端 筋	9-D29	5-D29	8-D29	5-D29	8-D29	5-D29	10-D29	5-D29	10-D29	5-D29	11-D29	6-D29	8-D29	4-D29	8-D29	4-D29	4-D29
下 端 筋	5-D29	8-D29	5-D29	8-D29	5-D29	8-D29	6-D29	8-D29	5-D29	6-D29	6-D29	7-D29	6-D29	4-D29	7-D29	4-D29	4-D29
スタースプ	2-D16 @100		2-D16 @150		2-D16 @150		2-D16 @100		2-D16 @100		3-D16 @150		4-D13 @100		4-D16 @100		2-D13 @100
腰 筋	4-D13		4-D13		4-D13		4-D13		4-D13		4-D13		4-D13		4-D13		4-D13
カットオフ長さ	2950		2600		2600		3400		3400		2850		2950		2950		
備 考																	



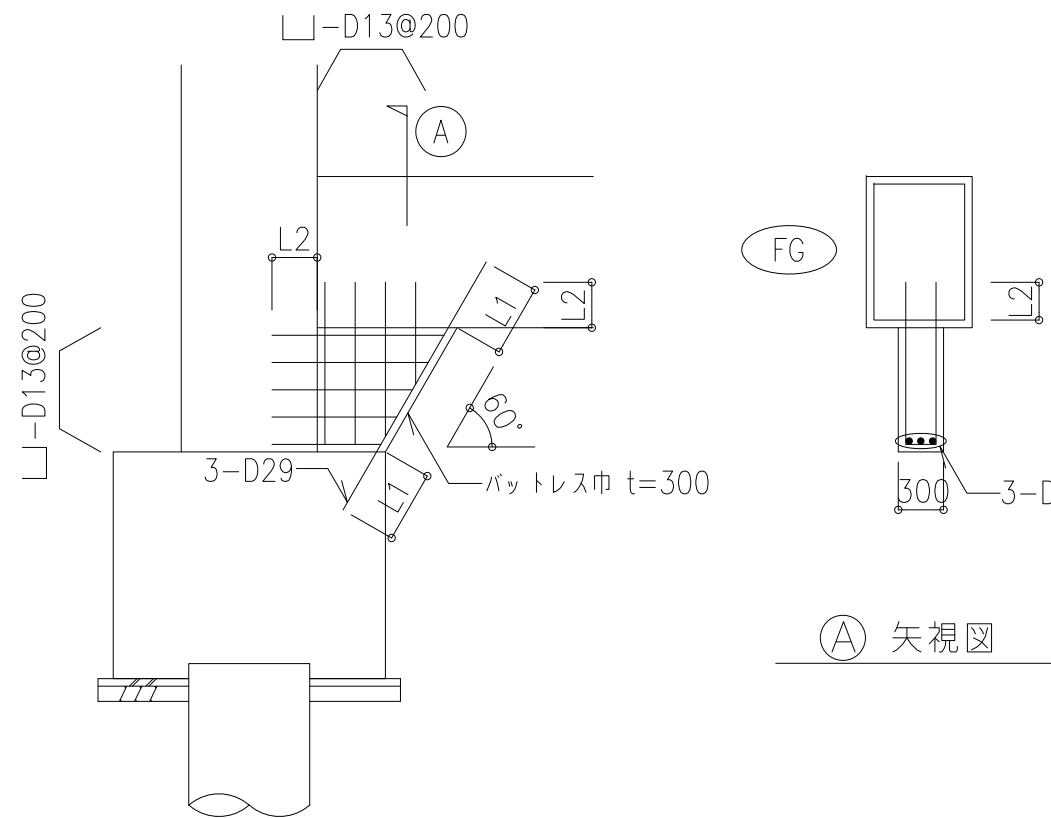
基礎小梁・片持梁リスト 1:50		共通事項（特記なき限り）
		・ 幅止筋は D10@1000以内とする。
		・ 鉄筋材質は、D10～D16：SD295A，D19～D25：SD345，D29：SD390

符 号	FB1		FB1A		FB2		FB2A			FB2B			FB3		FB4・CB1	FB5	FCG1	FCG2	FCG3	
位 置	端部	中央	連続端	中央・他端	端部	中央	連続端	中央	他端	連続端	中央	他端	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	元端	先端
断 面																				
上 端 筋	6-D25	5-D25	6-D25	5-D25	8-D25	5-D25	8-D25	5-D25	5-D25	8-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	3-D22	5-D29	4-D29	14-D29	7-D29
下 端 筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	5-D25	6-D25	7-D25	5-D25	5-D25	9-D25	3-D25	3-D22	5-D29	3-D29	7-D29	7-D29
スタースプ	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @150			2-D13 @100			2-D13 @200		2-D10 @200	2-D10 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	3-D13 @200	
腰 筋	4-D13		4-D13		2-D13		2-D13			2-D13			4-D13		2-D13	4-D13	4-D13	2-D13	4-D13	
カットオフ長さ																				
備 考																				

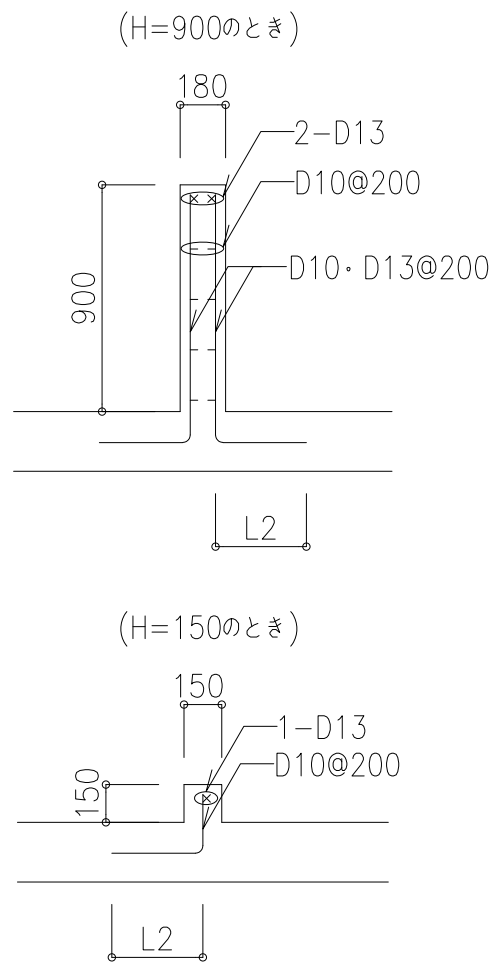
床版リスト		共通事項（特記なき限り）
		・ 直押え部分は、スラブ天端増打 ㊦ 10とする。
		・ 土に接するスラブ地盤は、捨てコンクリート ㊦ 50、砂利 ㊦ 60とする。
		・ 鉄筋継手は 重ね継手 とする。

符 号	版 厚	位 置	短辺方向配筋 （主筋方向）	長辺方向配筋 （配力筋方向）	備 考 1	備 考 2
DS15	150	上端筋 下端筋	D10・D13 @200 D10・D13 @200	D10 @200 D10 @200	モチアミ配筋 フラットデッキ t=1.2	
S15	150	上端筋 下端筋	D10・D13 @200 D10 @200	D10 @200 D10 @200	モチアミ配筋	
S15A	150	上端筋 下端筋	D13 @150 D10・D13 @150	D13 @150 D10・D13 @150	モチアミ配筋	
S18	180	上端筋 下端筋	D10・D13 @150 D10 @150	D10 @200 D10 @200	モチアミ配筋	
S18A	180	上端筋 下端筋	D10・D13 @200 D10 @200	D10 @200 D10 @200	モチアミ配筋	
S18B	180	上端筋 下端筋	D13 @150 D10・D13 @150	D10・D13 @200 D10 @200	モチアミ配筋	
S20	200	上端筋 下端筋	D13 @150 D10・D13 @150	D10・D13 @200 D10 @200	モチアミ配筋	
CS20	200～170	上端筋 下端筋	D13 @100 D10・D13 @100	D10 @200 D10 @200	モチアミ配筋	

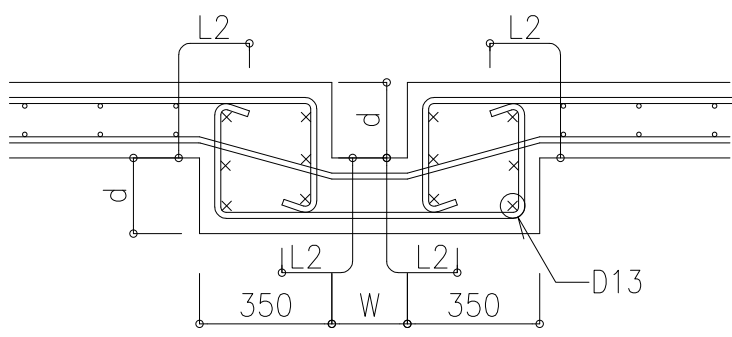
基礎梁バットレス配筋 1:50



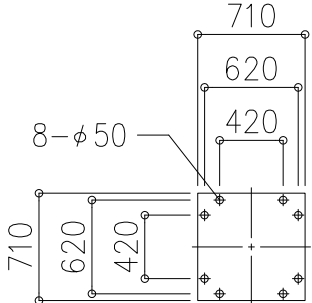
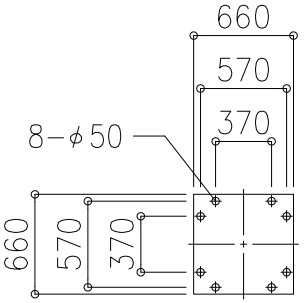
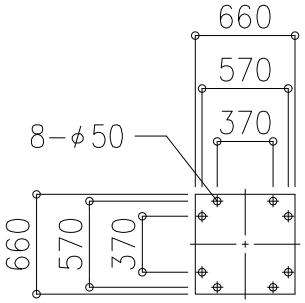
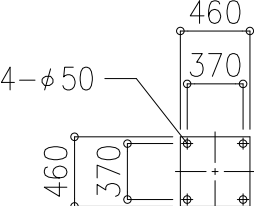
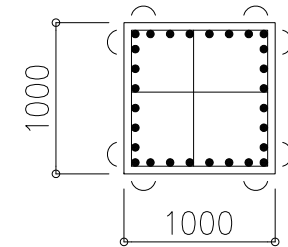
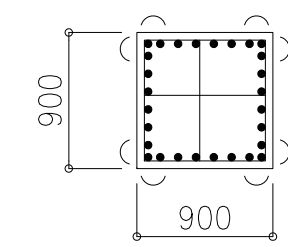
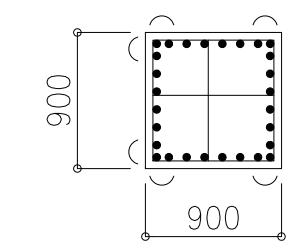
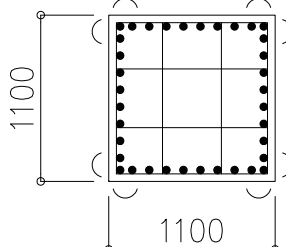
腰壁配筋 1:30



側溝配筋 1:20



<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
20	B	建築工事	A3→1:100 A1→1:50
		競技棟 RC部材リスト	
安井建築設計事務所			

柱リスト		1:50	共通事項（特記なき限り） ・鉄骨材質は、BCR295、ダイヤフラムはSN490Cとする。 ・柱脚は、大臣認定を取得している露出型固定柱脚工法とする。			・鉄筋材質は、D16以下:SD295A，D25:SD345，D29:SD390とする。 ・  は、寄せ筋を示す。	
階	符号	C1	C2	C3	C4	C11	
2		□-500x500x22	□-450x450x19	□-450x450x19	—	○-318.5x9(STK400)	
1		同 上	同 上	同 上	□-300x300x12	同 上	
B		—	—	—	—	同 上	
柱 脚							
		ハイベースNEO EB500-8-36	ハイベースNEO EB450-8-36	ハイベースNEO EB450-8-36	ハイベースNEO EB300-4-36		
柱 型							
		主 筋 28-D29 フープ 3-D16@100	主 筋 28-D29 フープ 3-D16@100	主 筋 28-D29 フープ 3-D16@100	主 筋 36-D29 フープ 4-D16@100		
備 考				(溶融亜鉛メッキ処理)	(溶融亜鉛メッキ処理)		

鉄骨大梁リスト	共通事項（特記なき限り）	
	・鉄骨材質は、SN490Bとする。	
	・伏図で示した範囲の部材は、垂鉛メッキ処理とする。	

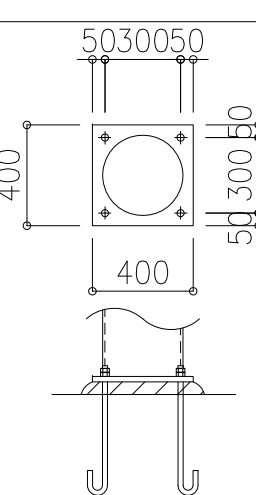
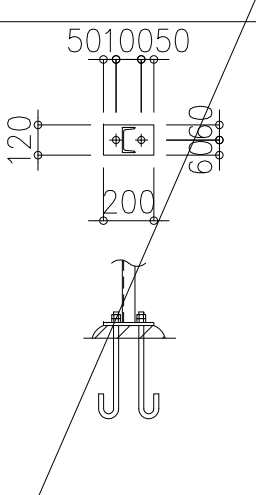
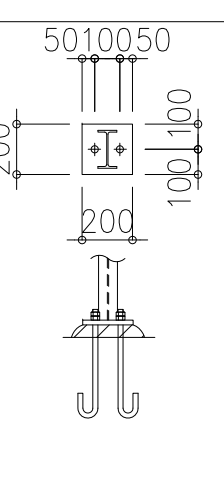
階	G1		G2		G3		G4	
R	全断面	H-588x300x12x20	全断面	H-588x300x12x20	全断面	H-588x300x12x20	全断面	—
2+2,400	全断面	—	全断面	—	全断面	—	全断面	—
2	全断面	H-390x300x10x16	全断面	—	全断面	H-588x300x12x20	全断面	H-500x200x10x16

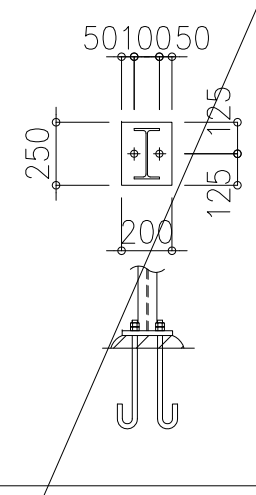
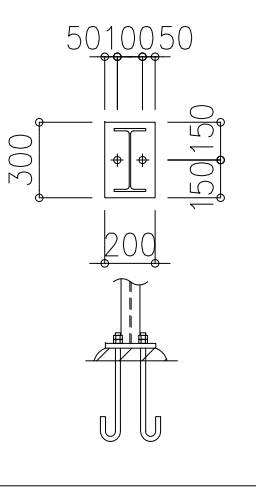
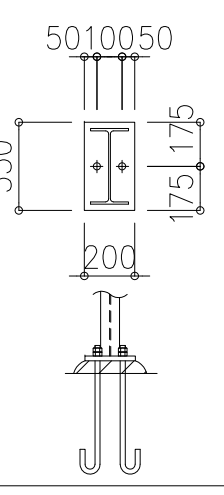
階	G11		G12		G13	
R	全断面	H-800x300x14x26	全断面	H-800x300x14x26	全断面	—
2+2,400	全断面	—	全断面	—	全断面	H-350x175x7x11
2	全断面	H-900x300x19x32	全断面	H-340x250x9x14	全断面	H-390x300x10x16

鉄骨継手リスト	共通事項（特記なき限り）	
	・伏図で示した範囲の部材は、溶融垂鉛メッキとし、高力ボルトはF8Tとする。	
	・剛接合継手は、SCSS-H97による。	
		・ボルトは高力ボルト（HTB）F10Tとする。
		・添板強度は母材と同等とする。

部 材	位 置	材 質	フランジ			ウェブ			仕口（ピン接合部）			備 考
			SR(外)	SR(内)	H.T.B	SR	H.T.B	@P2	GR・SR	H.T.B	@P2	
H-198x99x4.5x7	全断面	SM400B	SR- 16x99x290	—	2x2-M16	2SR- 6x140x170	2x2-M20	60	—	—	-	
H-200x100x5.5x8	全断面	SM400B	SR-12x100x410	—	3x2-M16	2SR- 6x140x290	2x2-M16	60	—	—	-	(F8T)
H-200x200x8x12	全断面	SN490B	SR- 9x200x410	2SR- 9x80x410	3x2-M20	2SR- 6x140x350	2x2-M20	60	—	—	-	(F8T)
H-250x125x6x9	全断面	SN490B	SR-12x125x530	—	4x2-M16	2SR- 6x170x290	2x2-M16	90	—	—	-	
H-300x150x6.5x9	全断面	SN400B	SR- 9x150x290	2SR- 9x60x290	2x2-M20	2SR- 6x200x170	2x1-M20	120	—	—	-	
H-340x250x9x14	全断面	SN400B	SR-12x250x530	2SR-12x100x530	4x2-M20	2SR- 9x200x290	3x2-M20	60	—	—	-	
	全断面	SN490B	SR- 9x250x650	2SR- 9x100x650	5x2-M20	2SR- 9x200x410	3x3-M20	60	—	—	-	(F8T)
H-346x174x6x9	全断面	SM400B	SR- 9x175x290	2SR- 9x70x290	2x2-M20	2SR- 6x260x170	3x1-M20	90	—	—	-	
H-350x175x7x11	全断面	SN490B	SR- 9x175x410	2SR- 9x70x410	3x2-M20	2SR- 6x260x290	3x2-M20	90	—	—	-	(F8T)
H-390x300x10x16	全断面	SN490B	SR-12x300x530	2SR-12x110x530	5x2-M20	2SR- 9x260x290	3x2-M20	90	—	—	-	
H-396x199x7x11	全断面	SM400B	SR- 9x200x410	2SR- 9x80x410	3x2-M20	2SR- 9x260x170	4x1-M20	60	—	—	-	
H-500x200x10x16	全断面	SN490B	SR-12x200x650	2SR- 12x80x650	5x2-M20	2SR- 9x380x290	6x2-M20	60	—	—	-	(F8T)
	全断面	SN400B	SR-12x200x410	2SR- 12x80x410	3x2-M20	2SR- 9x320x170	5x1-M20	60	—	—	-	
H-588x300x12x20	全断面	SN490B	SR-12x300x890	2SR-16x110x890	9x2-M20	2SR-12x440x290	7x2-M20	60	—	—	-	(F8T)
	全断面	SN490B	SR-12x300x710	2SR-16x110x710	7x2-M20	2SR-12x380x290	6x2-M20	60	—	—	-	
H-800x300x14x26	全断面	SN490B	SR-19x300x1070	2SR-19x110x1070	11x2-M20	2SR-12x560x410	9x3-M20	60	—	—	-	(F8T)
	全断面	SN490B	SR-19x300x890	2SR-19x110x890	9x2-M20	2SR-12x560x290	9x2-M20	60	—	—	-	
H-900x300x19x32	全断面	SN490B	SR-19x300x980	2SR-22x110x980	10x2-M20	2SR-12x740x290	12x2-M20	60	—	—	-	

柱脚リスト		1:30	共通事項（特記なき限り） ・無収縮モルタル厚さ50共通 ・A.BOLT全てダブルナット締めフック付き、SS400	
-------	--	------	--	--

符 号	C11	P10	P15
断 面			
	ベースプレート B.PL-400x400x22(SS400) アンカーボルト A.BOLT 4-M20(L=400,ABR400)	B.PL-200x120x16(SS400) A.BOLT 2-M16(L=320)	B.PL-200x200x19(SS400) A.BOLT 2-M16(L=320)

符 号	P20	P25	P30
断 面			
	B.PL-200x250x19(SS400) A.BOLT 2-M16(L=320)	B.PL-200x300x19(SS400) A.BOLT 2-M16(L=320)	B.PL-200x350x19(SS400) A.BOLT 2-M20(L=400)

鉄骨部材リスト		共通事項（特記なき限り） ・ボルトは、高力ボルト（HTB）S10Tとし、アンカーボルトはSS400とする。 ・伏図で示した範囲の部材は、溶融垂鉛メッキとし、高力ボルトはF8Tとする。		・アンカーボルト（長さL=20d）は、二重ナット締め、フック付とする。 ・溶接部は同強度以上のSMもしくはSN材を用いること	
---------	--	---	--	---	--

符 号	部 材	材 質	接合部		備 考
			GR	H.T.B	
sb10	H-100 x 50 x 5 x 7	SS400	GR- 6	1x2-M16	小梁接合部要領は特記なき限り下図(小梁継手要領図)による
sb15	H-150 x 75 x 5 x 7	SS400	GR- 6	1x2-M16	横使い
sb19,scb19	H-198 x 99 x 4.5 x 7	SS400	GR- 6	2x1-M16	※剛接部はSM400Bとする
sb20,scb20	H-200 x100 x 5.5 x 8	SS400	GR- 6	2x1-M16	※剛接部はSN400Bとする
sb20A	H-200 x200 x 8 x 12	SS400	GR- 9	2x1-M16	
sb25,scb25	H-250 x125 x 6 x 9	SS400	GR- 9	3x1-M20	
sb25G	H-250 x125 x 6 x 9	SS400	GR- 9	3x2-M20	
sb29	H-298 x149 x 5.5 x 8	SS400	GR- 6	3x1-M20	
sb30,scb30	H-300 x150 x 6.5 x 9	SS400	GR- 9	3x1-M20	※剛接部はSN400Bとする
sb34,scb34	H-346 x174 x 6 x 9	SS400	GR- 9	3x1-M20	※剛接部はSM400Bとする
sb35,scb35	H-350 x175 x 7 x 11	SS400	GR- 9	3x1-M20	
sb39,scb39	H-396 x199 x 7 x 11	SS400	GR- 9	4x1-M20	※剛接部はSM400Bとする
sb40	H-400 x200 x 8 x 13	SS400	GR- 9	4x1-M20	
sb50,scb50	H-500 x200 x10 x 16	SS400	GR-12	5x1-M20	※剛接部はSN400Bとする
sb50G	H-500 x200 x10 x 16	SS400	GR-12	5x2-M20	
Hb15	H-150 x 75 x 5 x 7	SS400	GR- 6	1x2-M16	横使い
Hb20	H-200 x100 x 5.5 x 8	SS400	GR- 6	2x1-M16	横使い
Hb25	H-250 x125 x 6 x 9	SS400	GR- 9	3x1-M20	横使い
Hb30	H-300 x150 x 6.5 x 9	SS400	GR- 9	3x1-M20	横使い
Hb34	H-346 x174 x 6 x 9	SS400	GR- 9	3x1-M20	横使い
Hb34A	H-340 x250 x 9 x 14	SS400	GR-12	3x1-M20	横使い

CG1	H-800 x350 x19 x32	SN490B	—	—	
CG1A	H-440 x300 x11 x18	SN490B	—	—	先端 H-300x150x6.5x9(SN490B)
CG3	H-340 x250 x 9 x 14	SN490B	—	—	
CG4	H-250 x125 x 6 x 9	SN490B	—	—	
CG5	BH-350~300 x175 x 7 x 11	SN490B	—	—	先端せい 300 継手は H-350x175x7x11のものによる
CG6	BH-600~350 x200 x 11 x 17	SN490B	—	—	先端せい 350
CG7	H-200 x200 x 8 x 12	SN490B	—	—	
CG8	H-198 x 99 x 4.5 x 7	SM400B	—	—	
CG9	H-350 x175 x 7 x 11	SN490B	—	—	

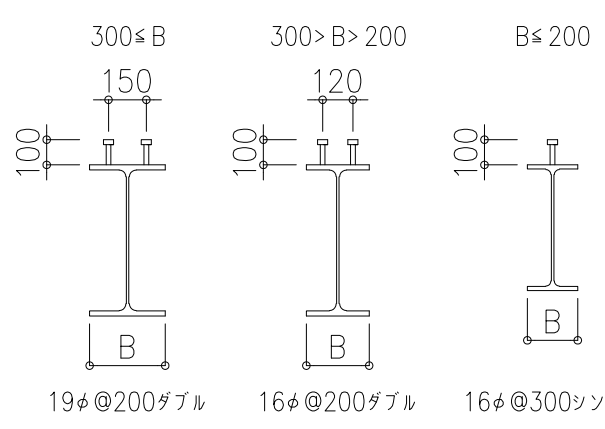
P10	t-100 x 50 x 5 x 7.5	SS400	GR- 6	2x1-M16	
P15	H-150 x 75 x 5 x 7	SS400	GR- 6	2x1-M16	
P20	H-200 x100 x 5.5 x 8	SS400	GR- 6	2x1-M16	
P25	H-250 x125 x 6 x 9	SS400	GR- 9	3x1-M20	
P30	H-300 x150 x 6.5 x 9	SS400	GR- 9	3x1-M20	

T1	t-200 x 80 x 7.5 x 11	SS400	GR- 9	2x4-M20	
T2	t-300 x 90 x10 x15.5	SS400	GR-12	3x4-M20	
T3	t-100 x 50 x 5 x 7.5	SS400	GR- 6	1x2-M16	
T4	t-125 x 65 x 6 x 8	SS400	GR- 9	1x2-M20	
Hv1	L-75x75x9	SS400	GR- 9	2-M16	
Hv2	1-M16	SS400	GR- 6	1-M16	ターンバックル付き

KS1	PL-300x16	SS400	GR-16	2-M16	階段サカサ 溶融垂鉛メッキ
KS2	PL-300x16	SS400	GR-16	2-M16	階段サカサ 溶融垂鉛メッキ
天井受材1	C-125x50x20x2.3	SSC400	GR- 6	2-M12	中ボルト 溶融垂鉛メッキ
天井受材2	C-100x50x20x2.3	SSC400	GR- 6	2-M12	中ボルト 溶融垂鉛メッキ

梁上スタッドジベル要領

(注) コンクリート床を受ける鉄骨梁共通

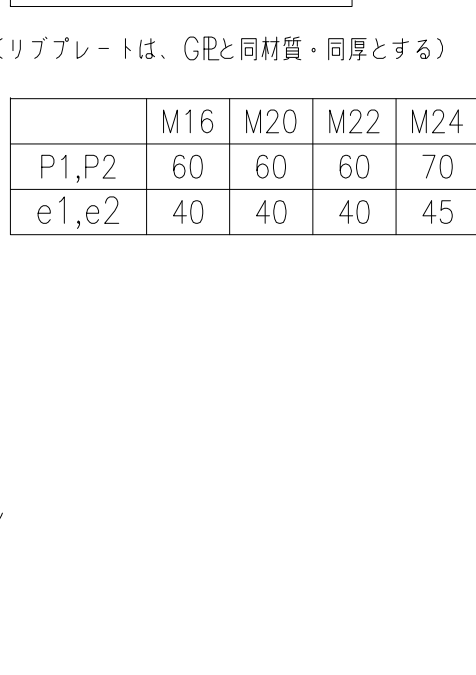


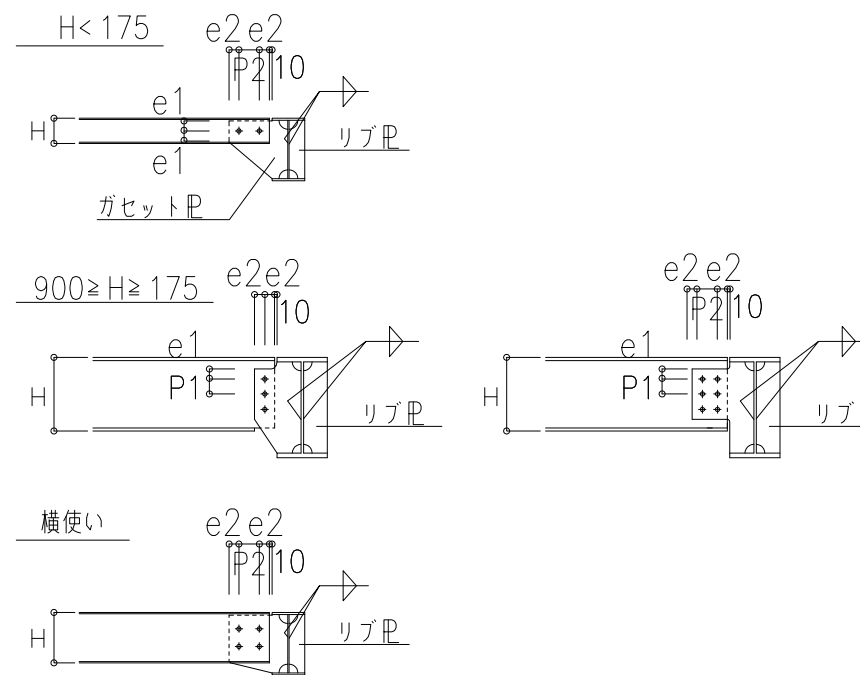
19φ@200ダブル 16φ@200ダブル 16φ@300シングル

小梁継手要領図

(リブプレートは、GRと同材質・同厚とする)

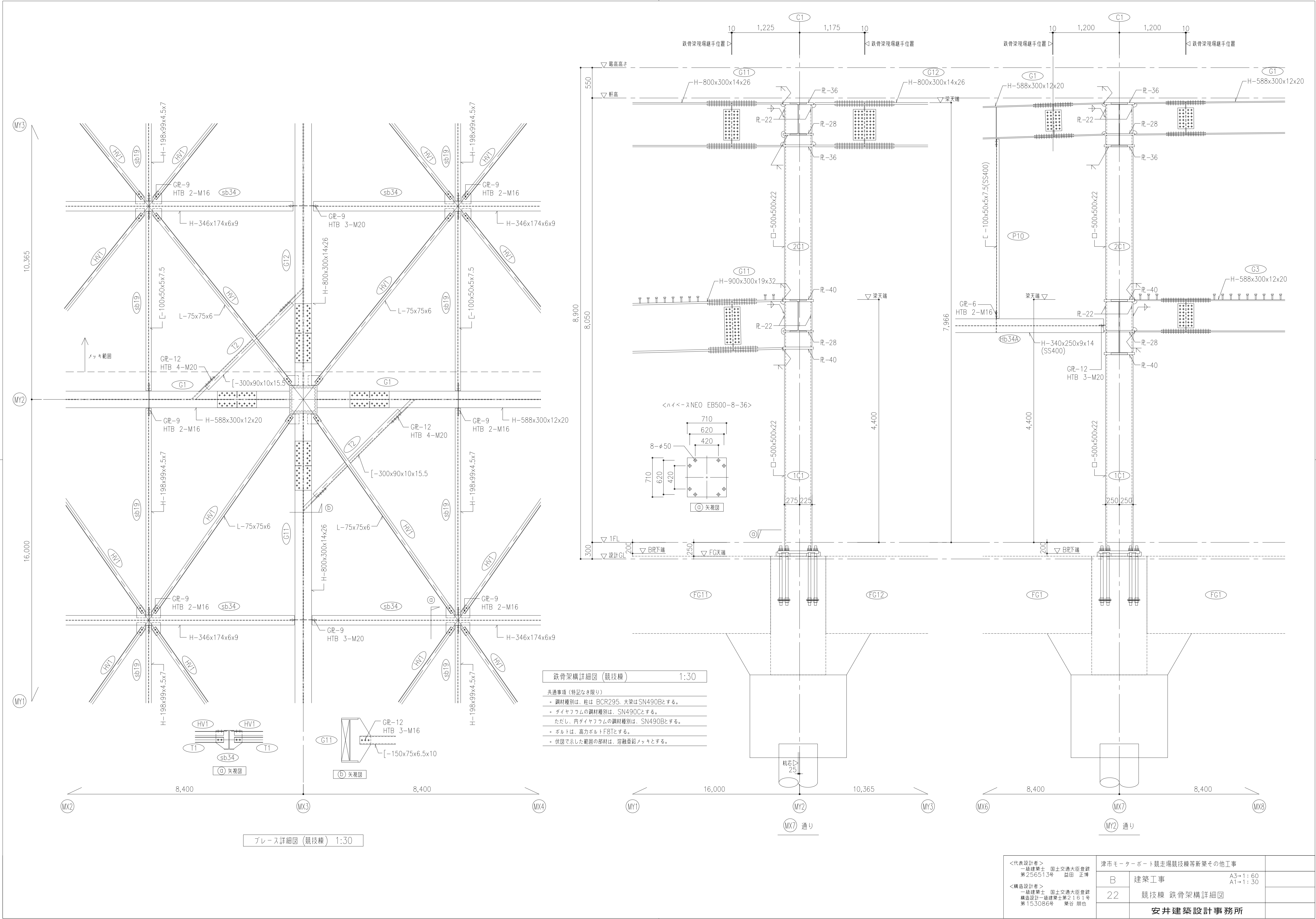
	M16	M20	M22	M24
P1,P2	60	60	60	70
e1,e2	40	40	40	45

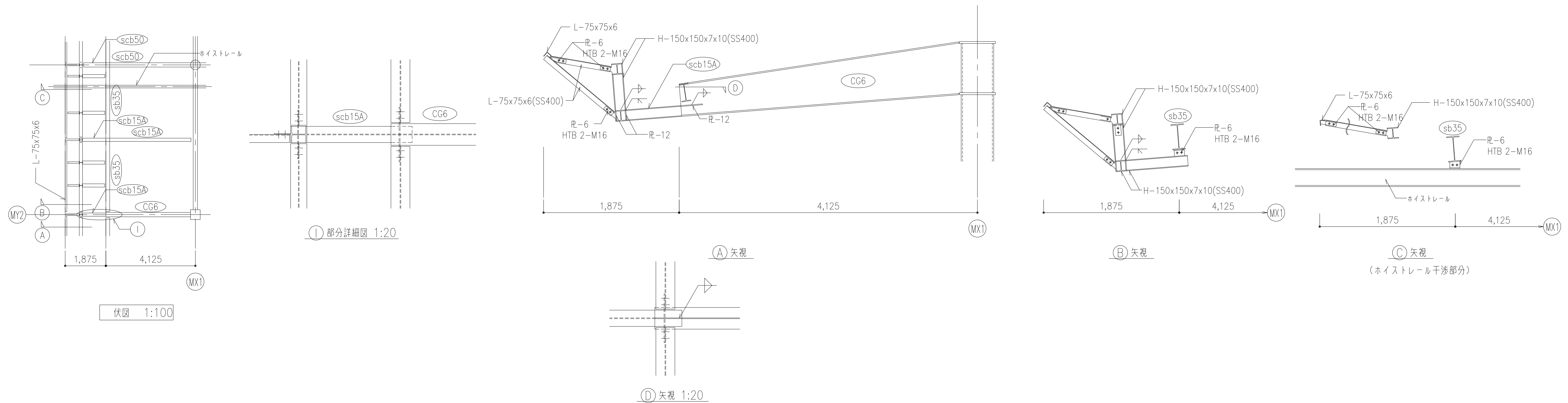




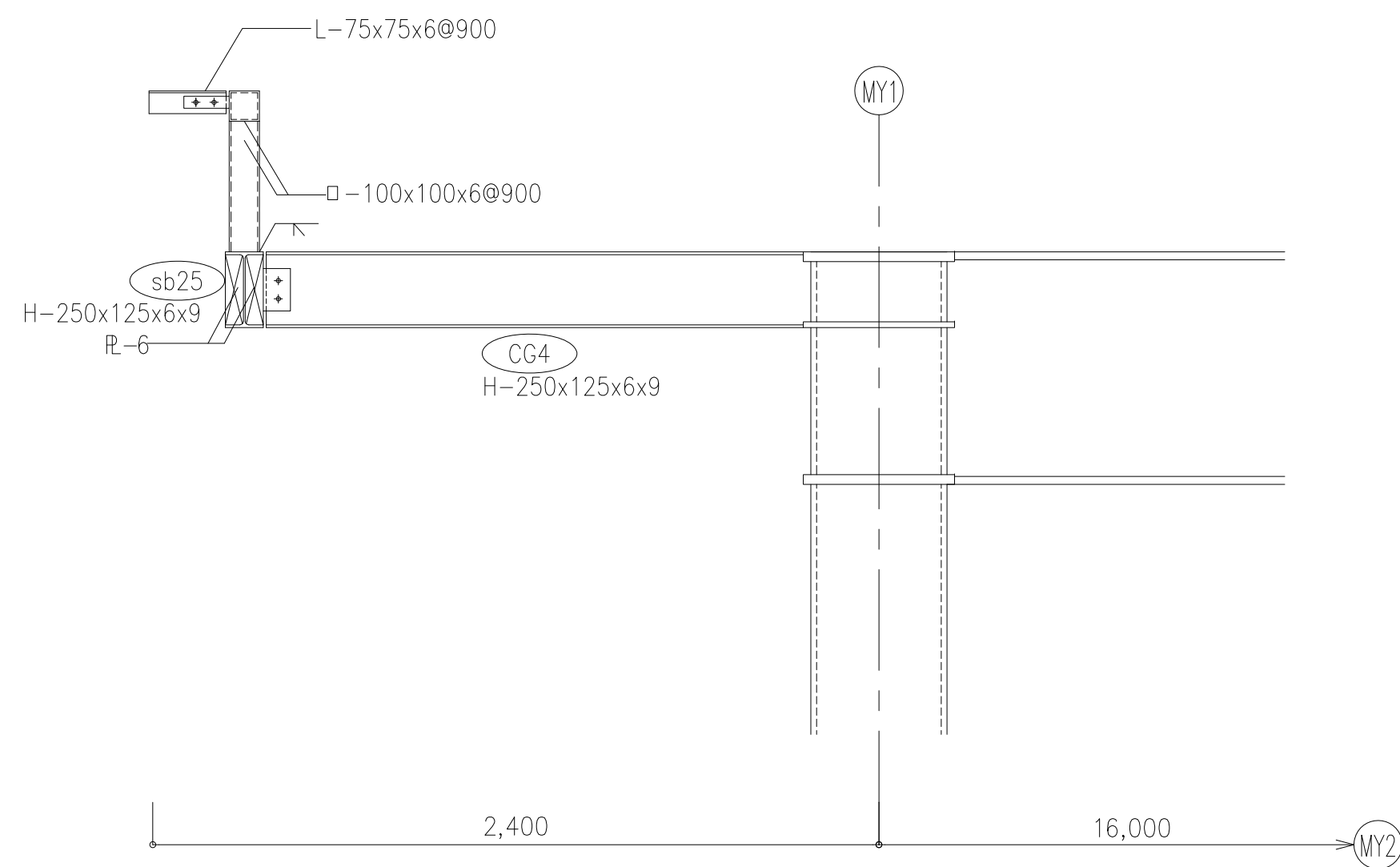
横使い

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
B	建築工事	A3→1:100 A1→1:50	
21	競技棟 鉄骨部材リスト		
安井建築設計事務所			

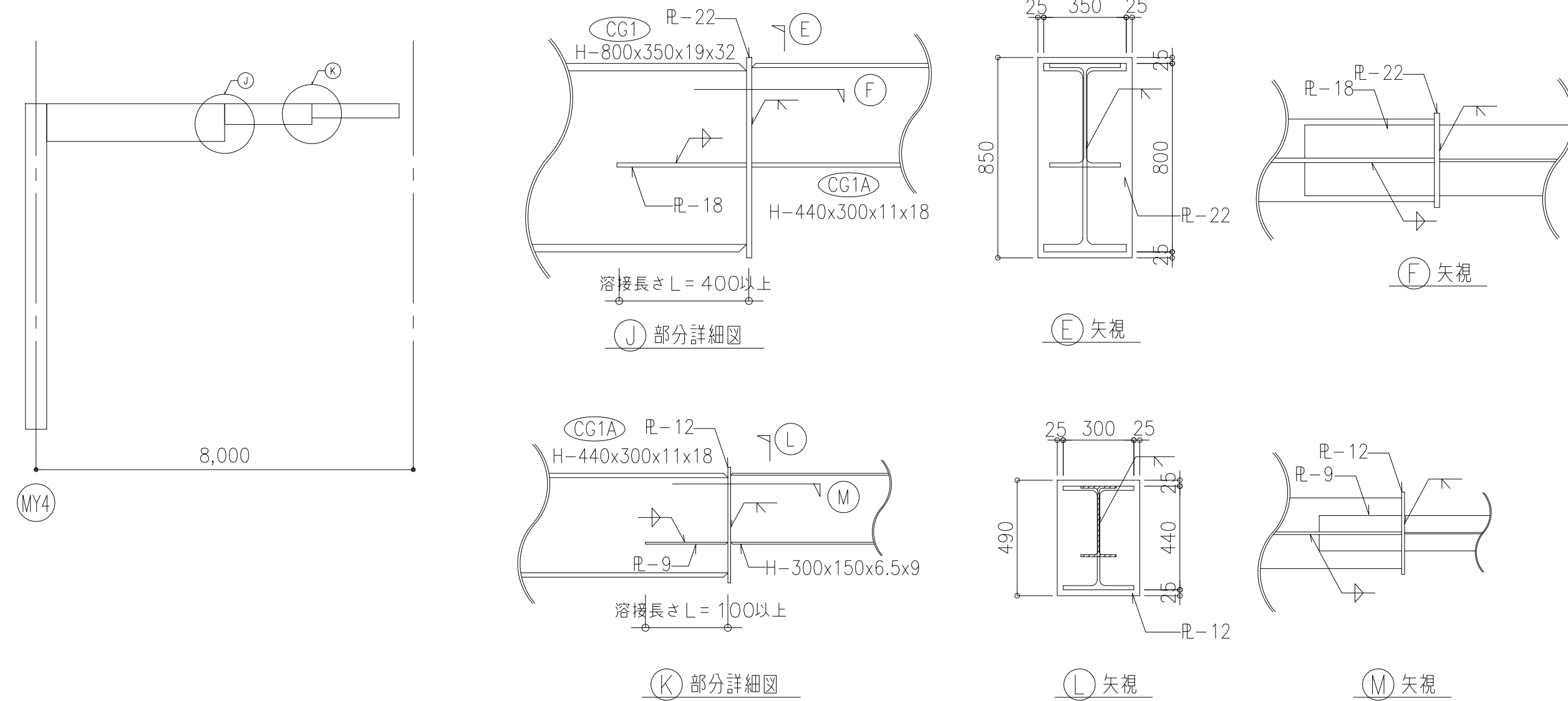




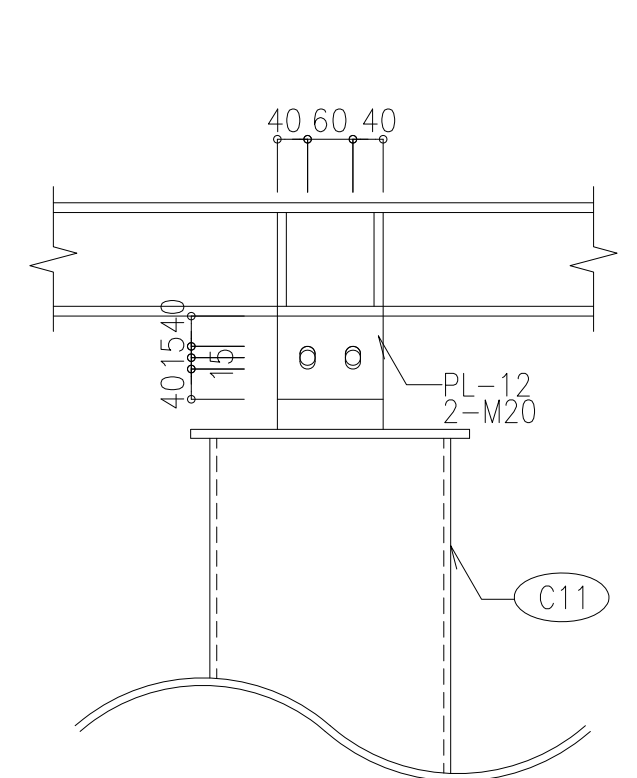
(MY1) 通り R 階片持ち先端立ち上がり詳細図 1:20



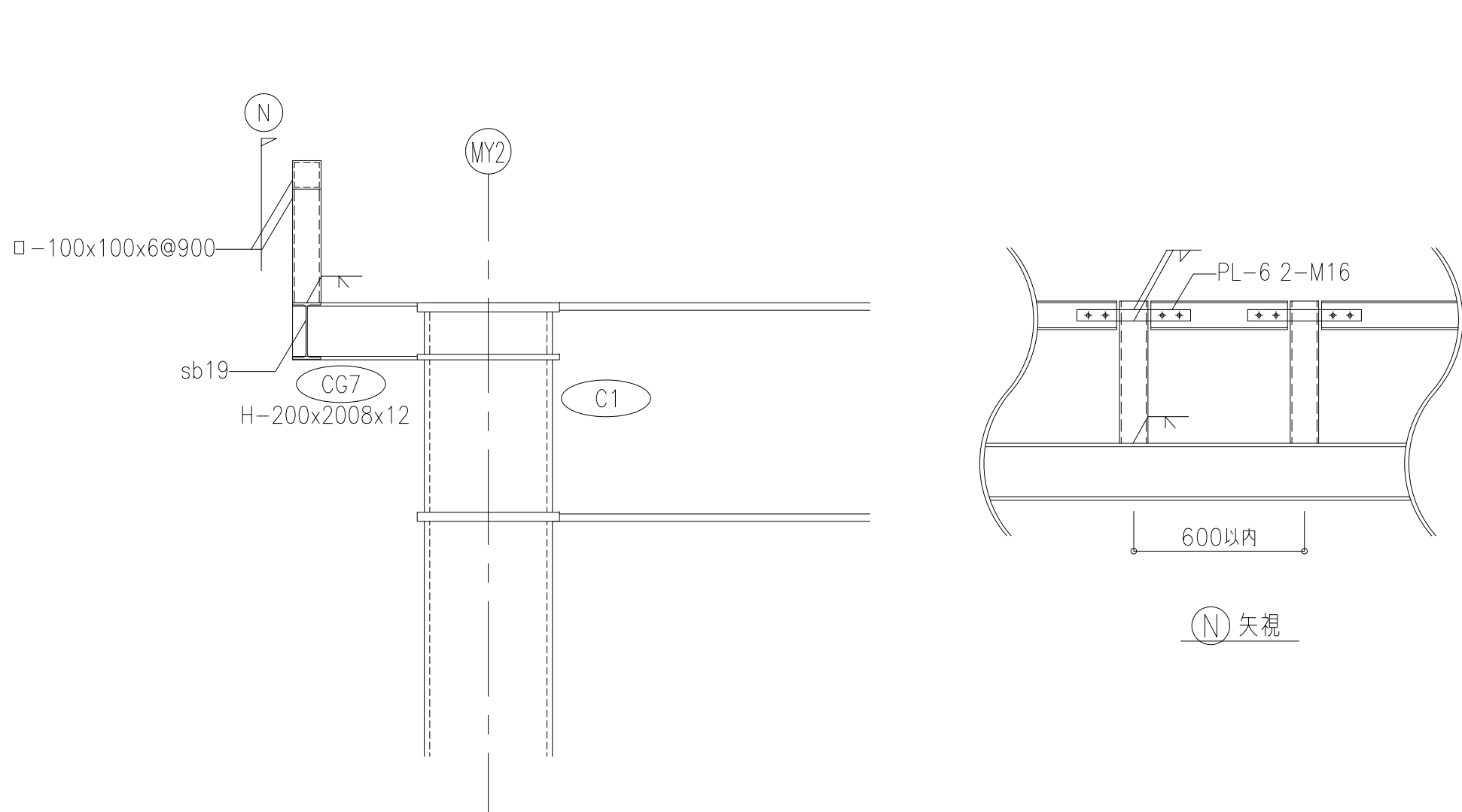
CG1,CG1A片持ち梁接続部分詳細図 1:20



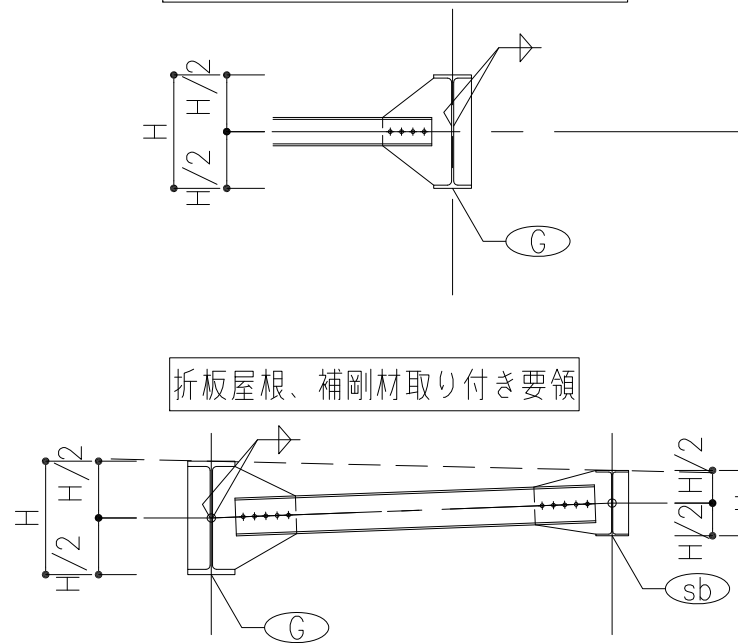
ルーズホール取付要領図 1:10



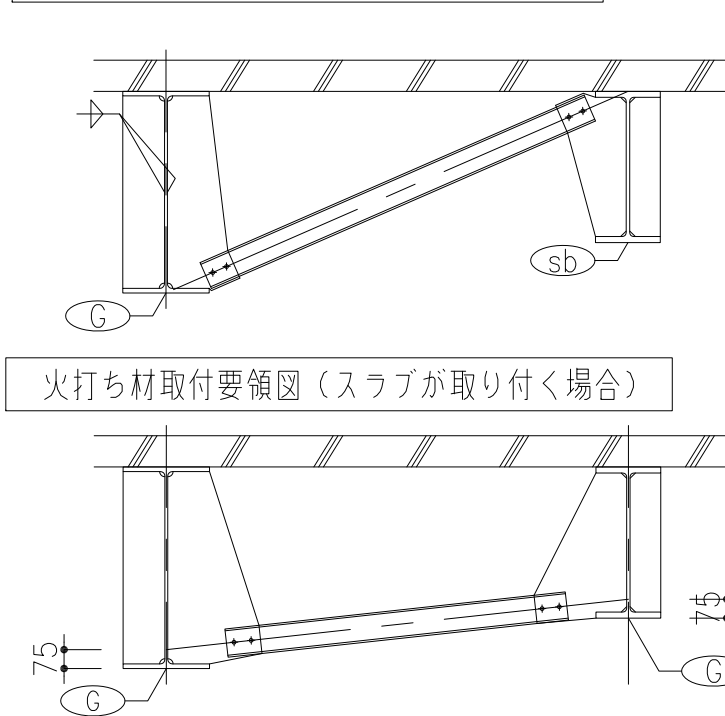
(MY2),(MX7),(MX9) 通り片持ち先端立ち上がり詳細図 1:20



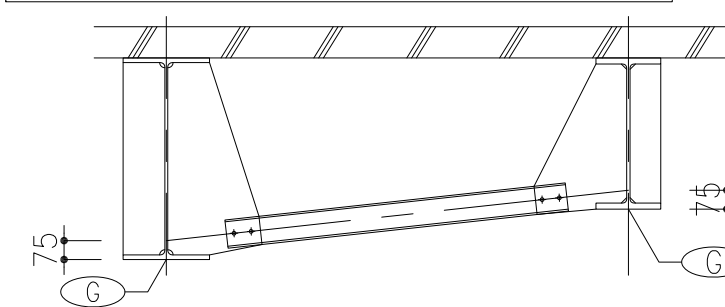
折板屋根、火打ち材取り付け要領



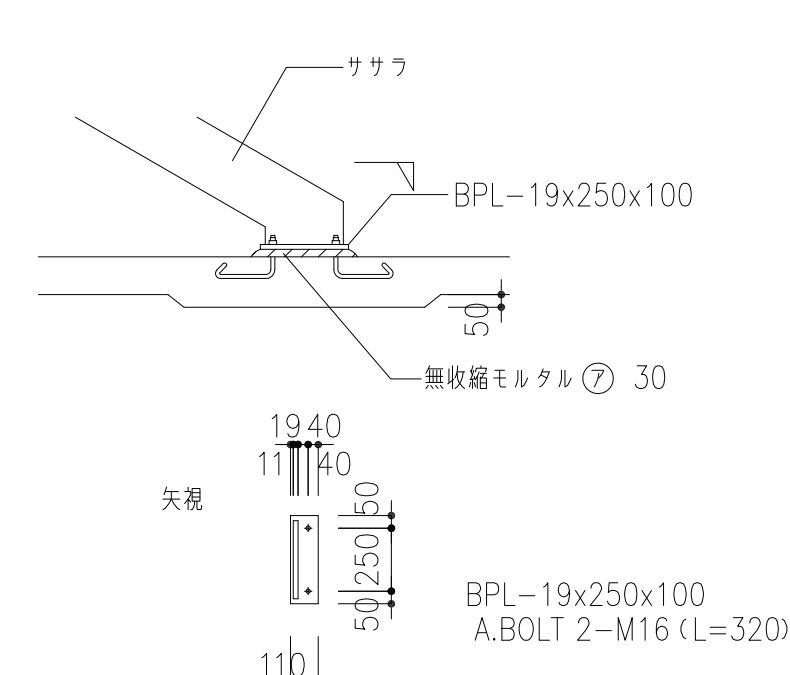
補剛材取付要領図（スラブが取り付く場合）



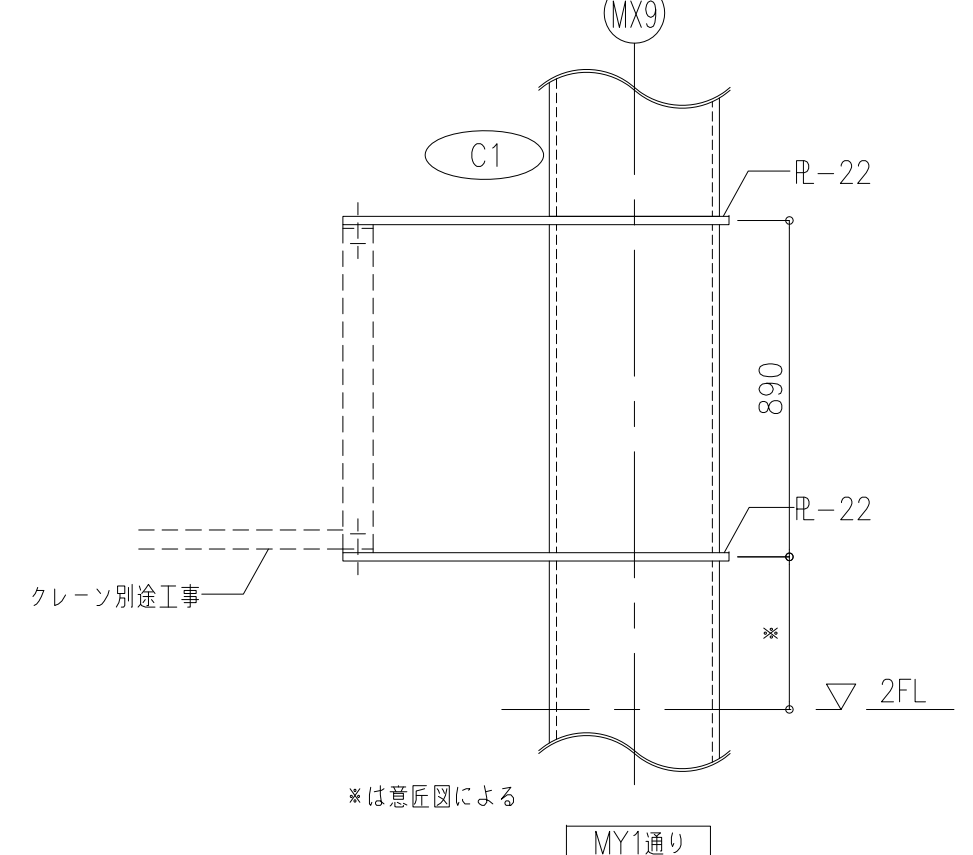
火打ち材取付要領図（スラブが取り付く場合）

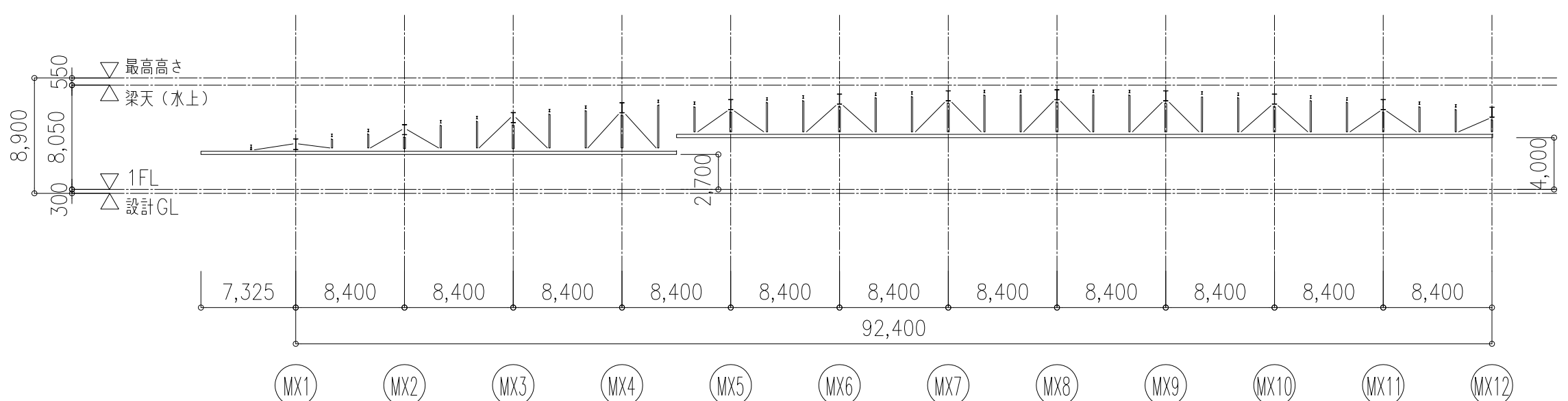
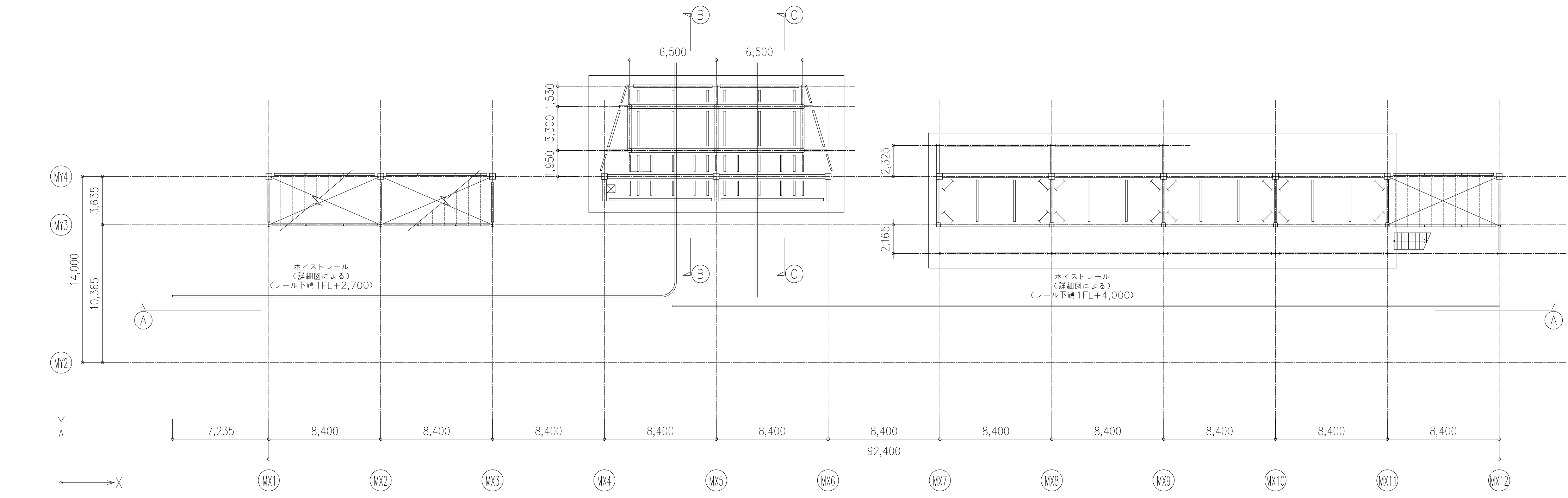


鉄骨階段脚部要領図 1:30

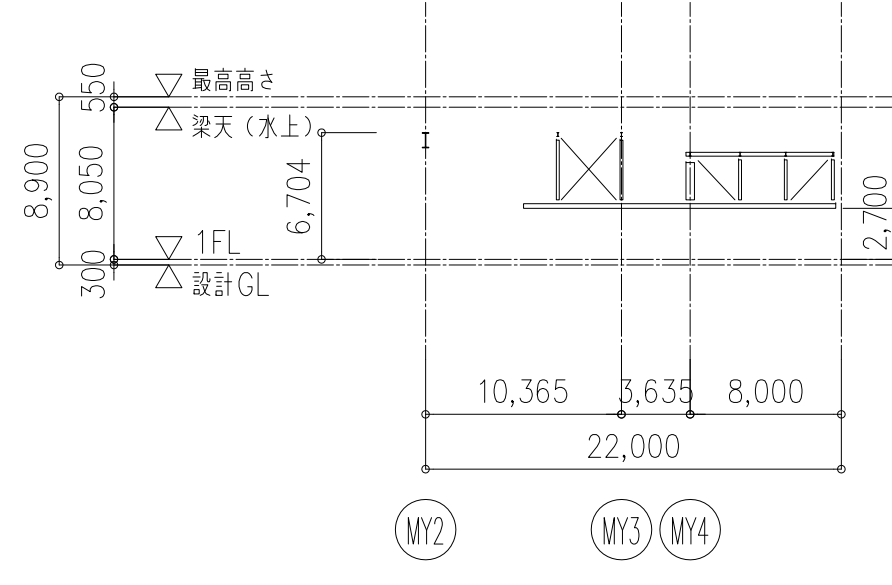


ジブクレーン接合PL要領図 1:20

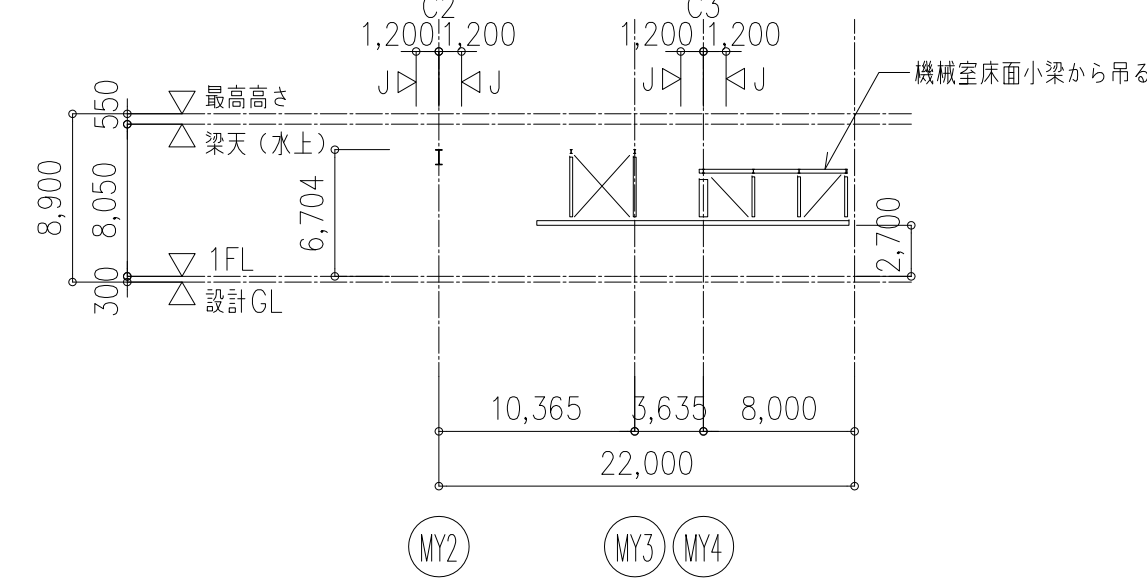




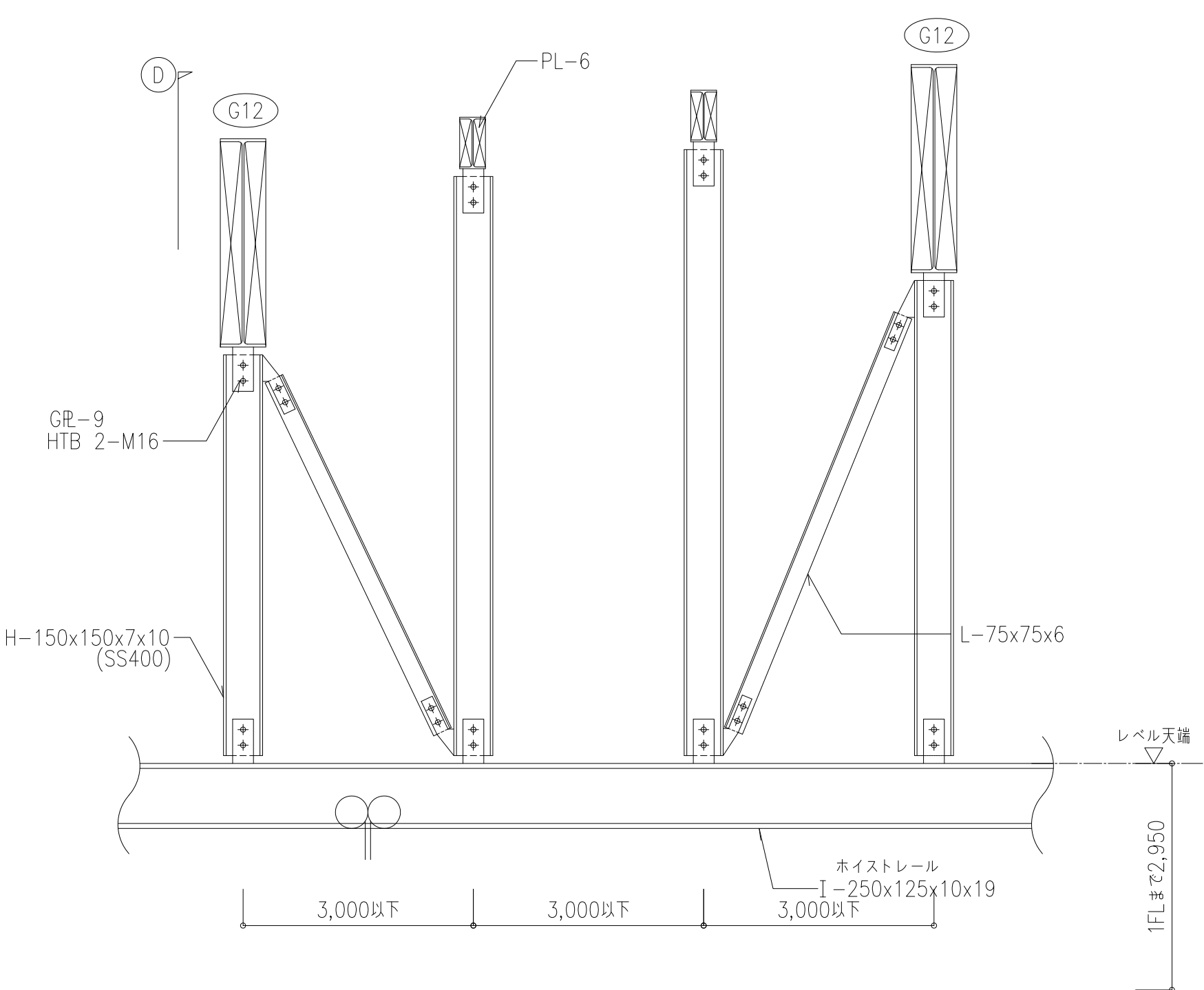
(A) 矢視図 1:400



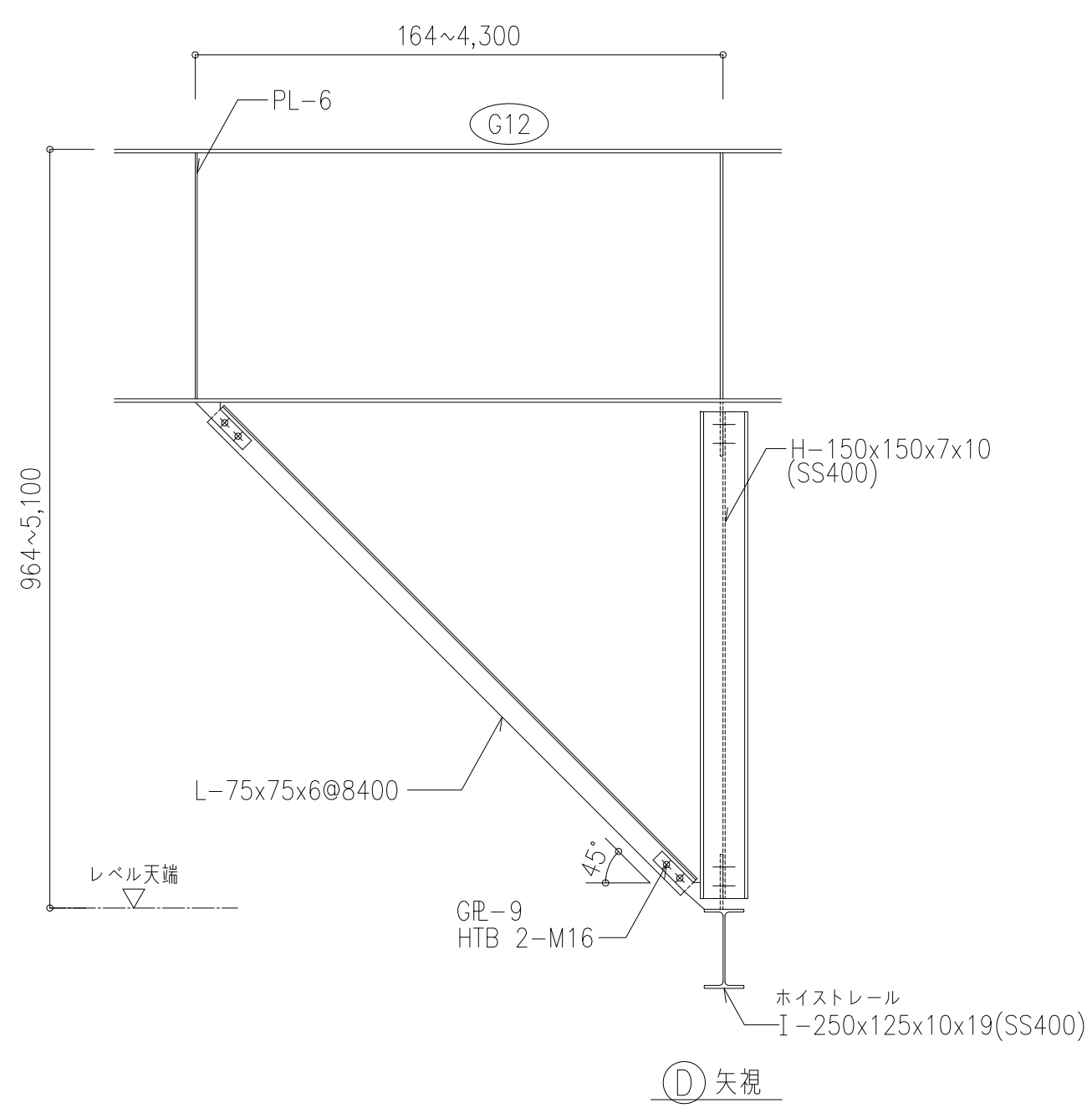
(B) 矢視図 1:400



(C) 矢視図 1:400



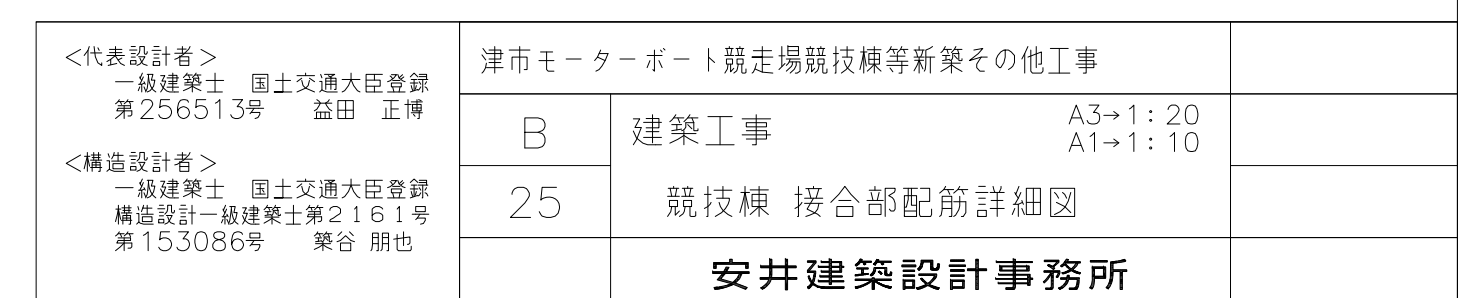
ホイストレール詳細図 1:20

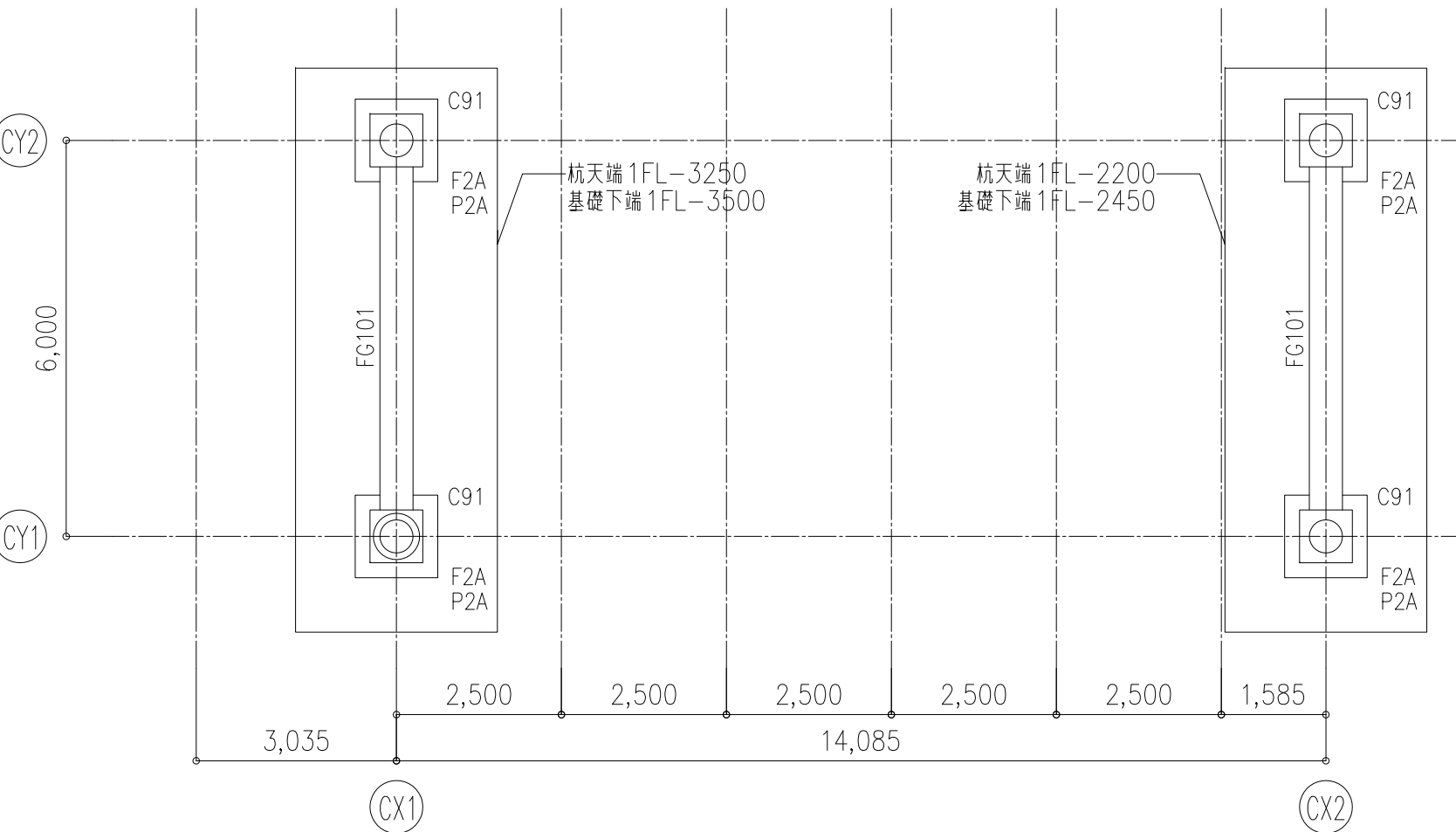


(D) 矢視

共通事項（特記なき限り）
・ホイストレール部材は全て、溶融垂鉛メッキとする。

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 繁谷 朋也		B	建築工事 A3→1:800 A1→1:400
		24	競技棟 雑詳細図-2
		安井建築設計事務所	

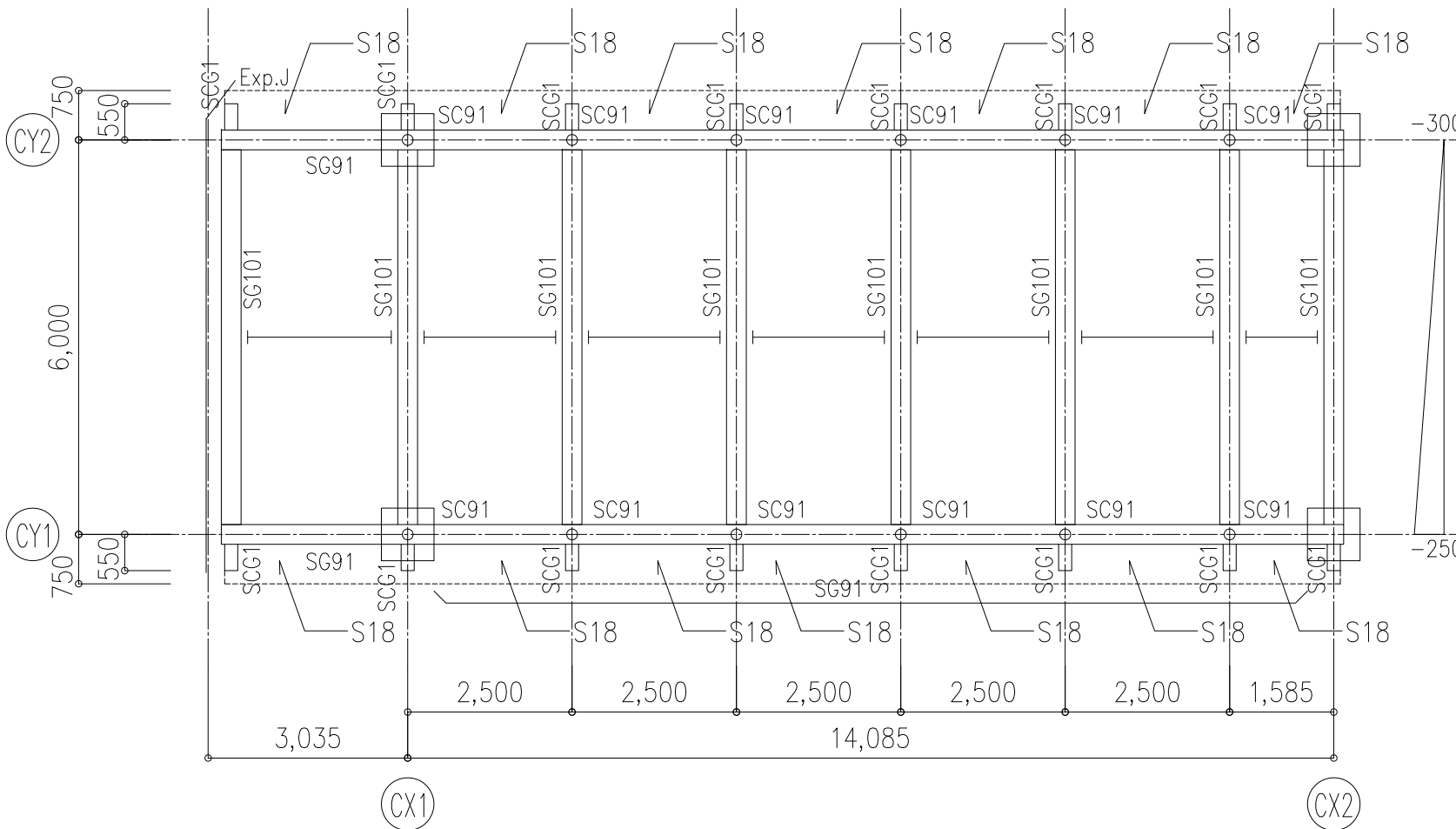




杭・基礎伏図(渡り廊下) 1:100

共通事項(特記なき限り)

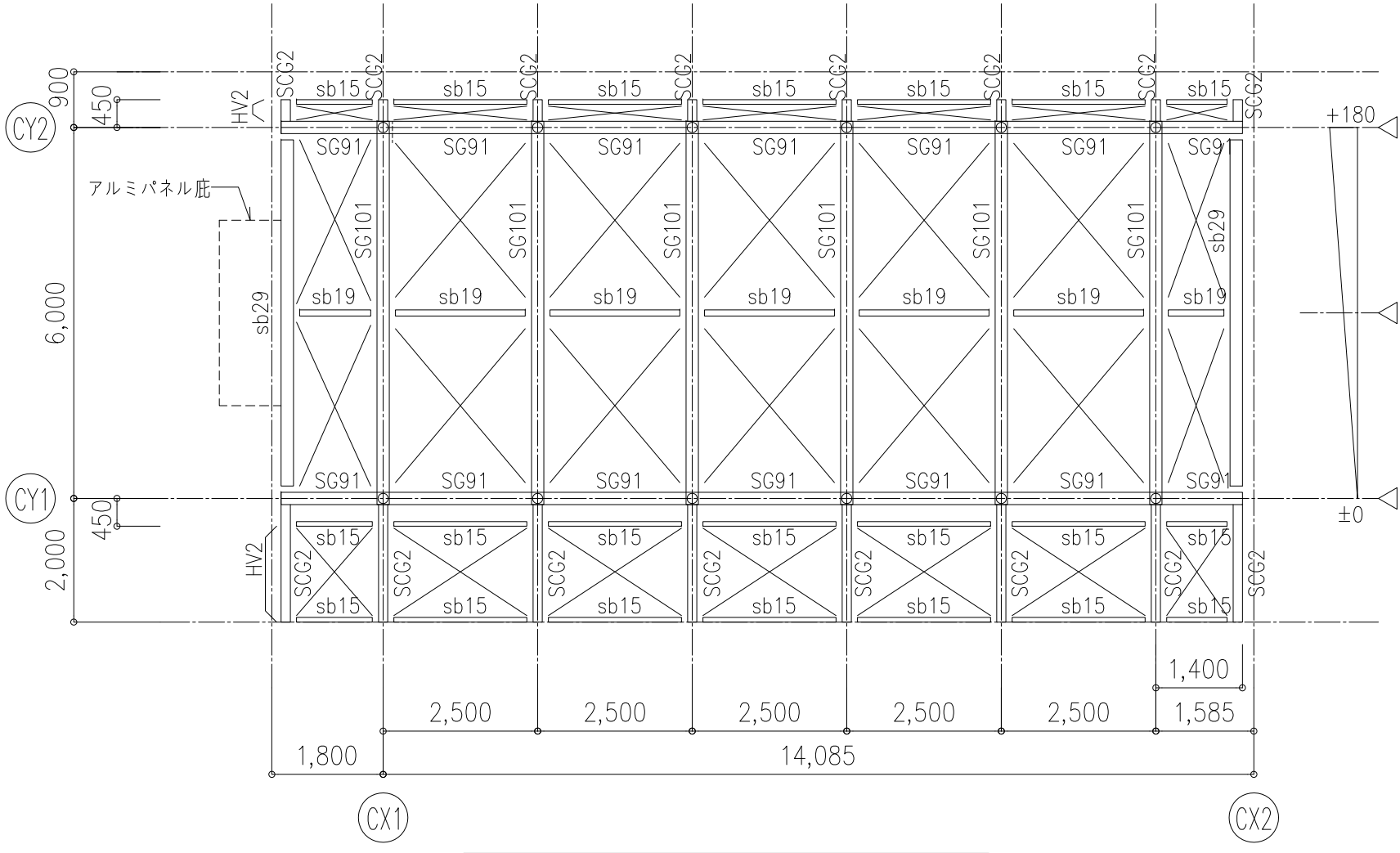
- 設計GL=TP+0.9
- 設計GL=1FL-300
- 基礎梁天端レベルは、1FL-1050とする。
- ◎印は試験杭を示す。



1階床梁伏図(渡り廊下) 1:100

共通事項(特記なき限り)

- 梁天端レベルは、図中による。
- スラブは、S18とする。
- ト-Hは、T1とする。



1階床梁伏図(渡り廊下) 1:100

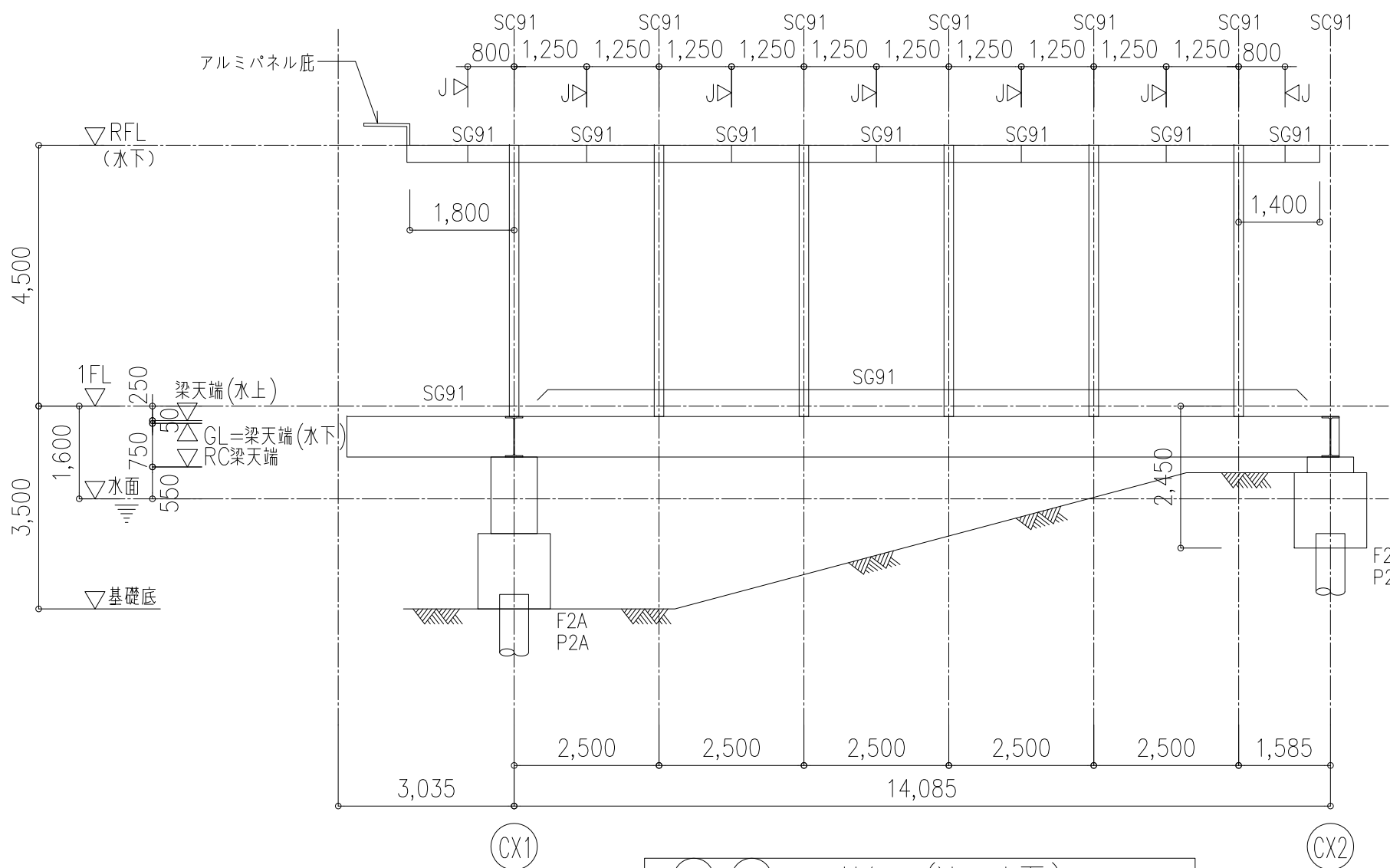
共通事項(特記なき限り)

- 梁天端レベルは、図中による。
- 水平ブレースは、Hv1とする。
- △は母屋部材配置位置とする。

杭リスト(渡り廊下)

・杭工法はHyper-MEGAI法(ω=1.23)とする。

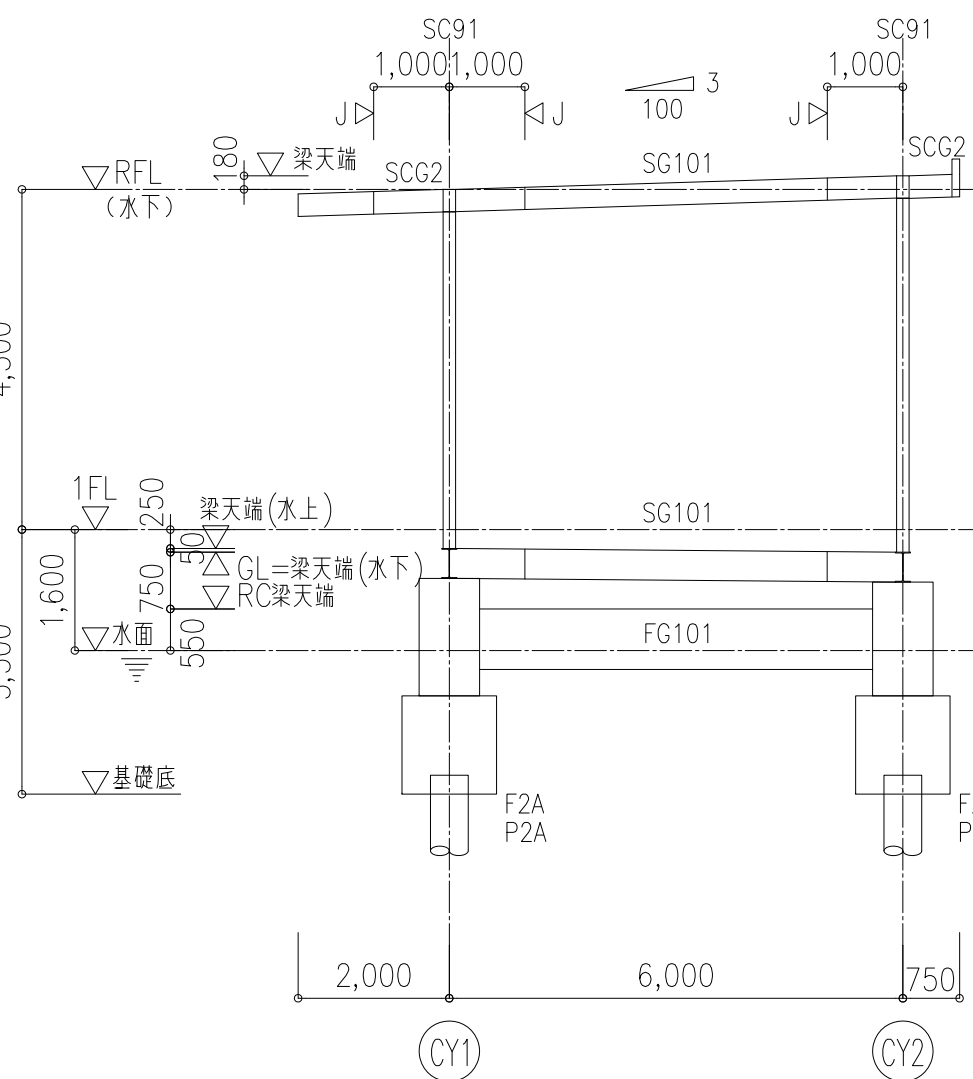
符 号	杭 種		軸 部 径 (mm)	上杭長さ (m)	下杭長さ (m)	全 長 (m)	長期支持力 (kN)	杭頭補強筋 (パイロスタッド)強度SD345	本 数
	上 杭	下 杭							
P2A	PHCB種	PHCA種	600	5.0	8.0	13.0	700	10-D16 (パイロスタッド)強度SD345	4



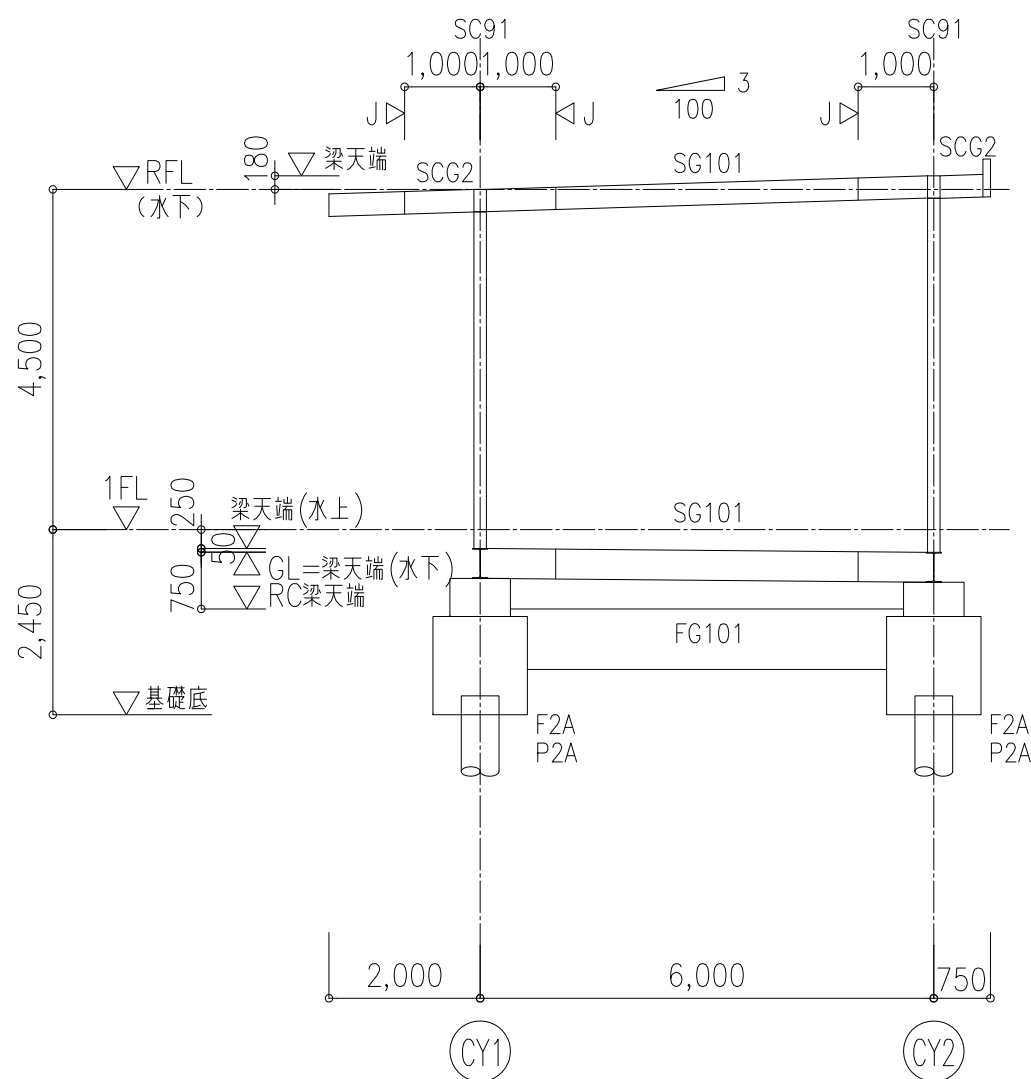
(CY1) (CY2) 通り軸組図(渡り廊下) 1:100

共通事項(特記なき限り)

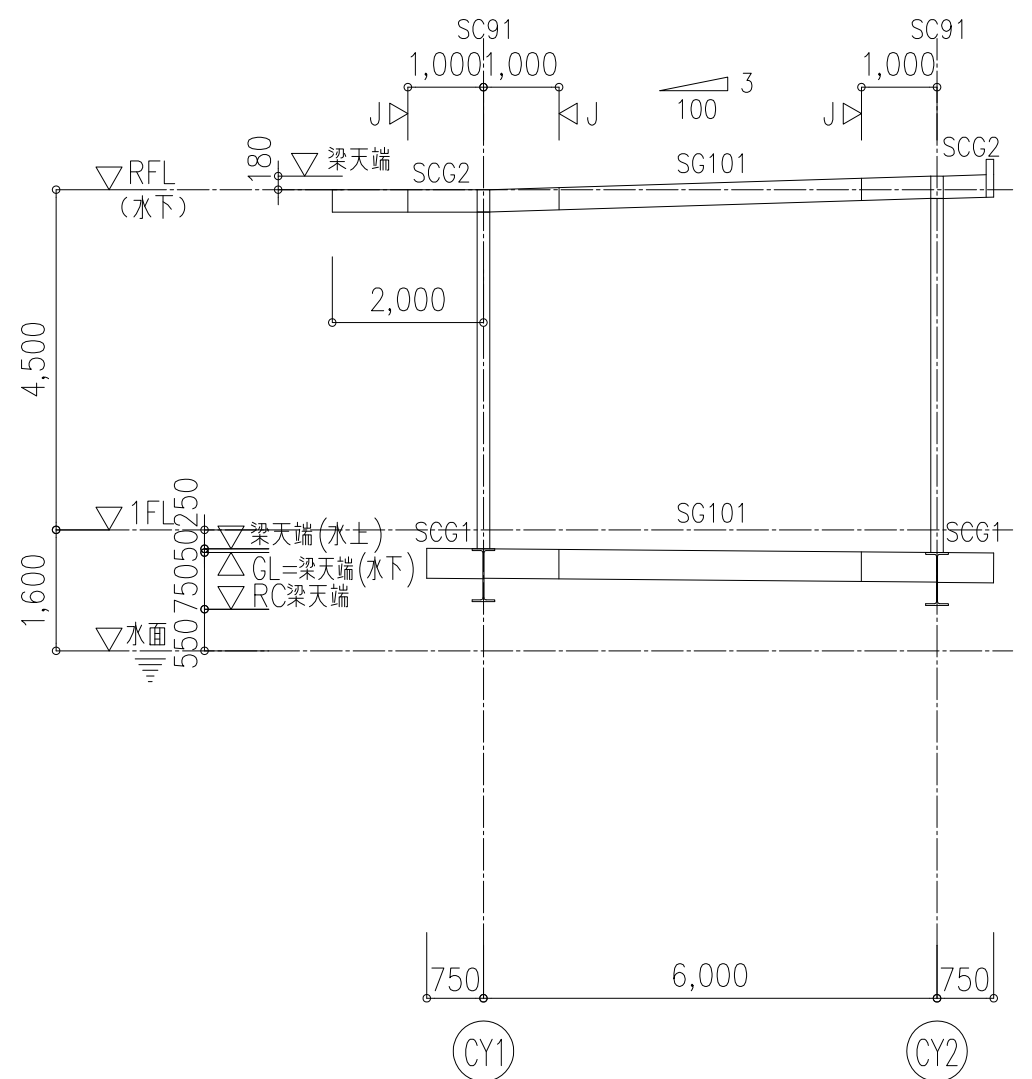
- 水面レベルは変動する為参考値。



(CX1) 通り軸組図(渡り廊下) 1:100



(CX2) 通り軸組図(渡り廊下) 1:100



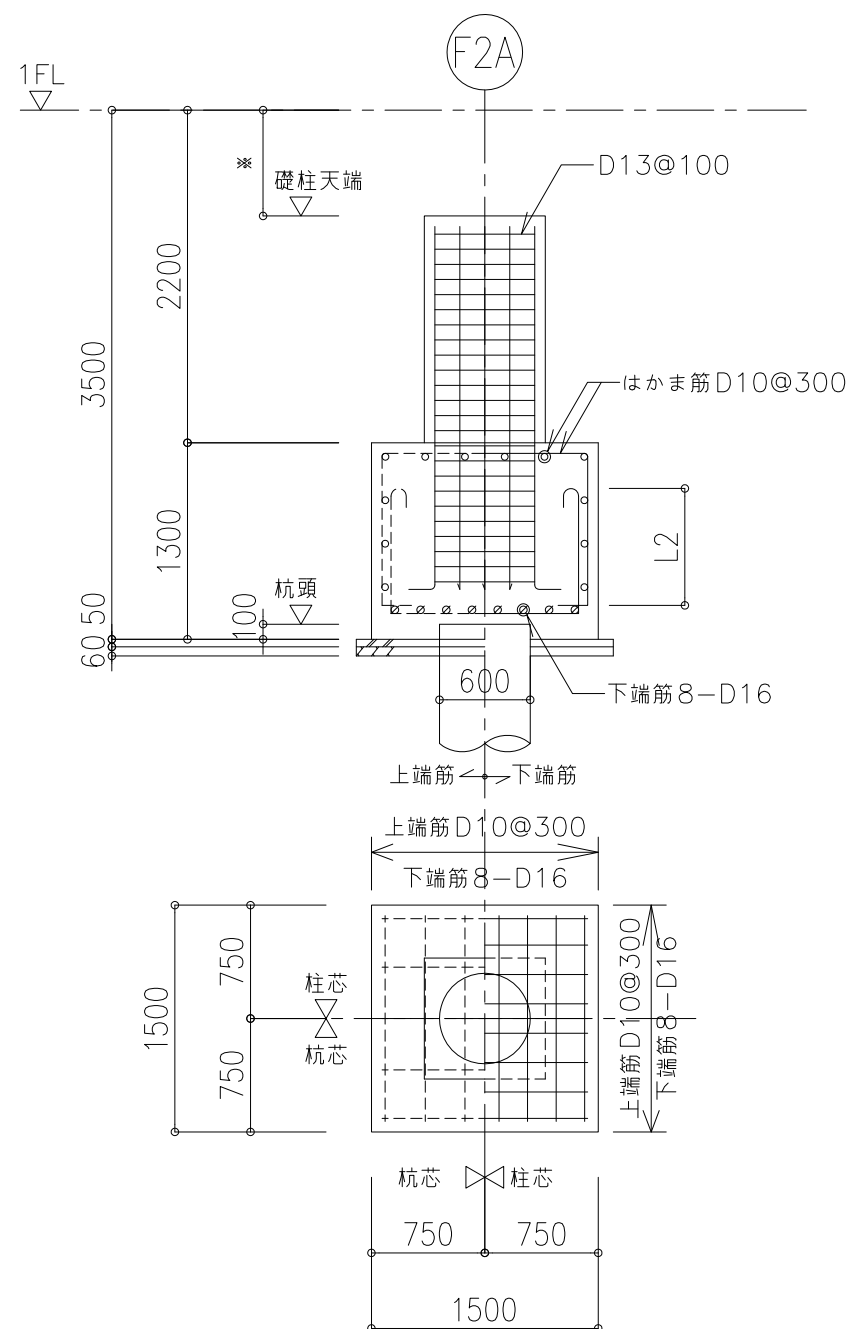
(CX1)-(CX2) 間各通り軸組図(渡り廊下) 1:100

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
26	B	建築工事	A3→1:200 A1→1:100
		渡り廊下 伏図・軸組図	
安井建築設計事務所			

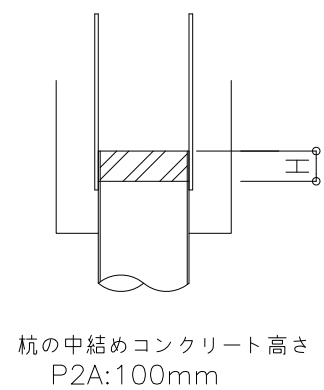
基礎リスト	1:50
-------	------

共通事項（特記なき限り）

- ・基礎底地業は、捨てコンクリートア50、碎石ア60とする。
- ・※寸法は水上側で1000水下側で1050とする。



杭の中詰めコンクリート



基礎梁リスト 1:50

符 号	FG101
位 置	全断面
断 面	
B × D	500 × 900
上 排 筋	5-D25
下 排 筋	5-D25
STP	□-D13 @200
腰 筋	2-D10

鉄骨柱リスト 1:50

階 符 号	SC91
1	$\phi - 165.2 \times 11.0$ (STKN400)
F	800x800
柱 脚	
主 筋	16-D25
フ ー プ	2-D13@100
ベースプレート	PL-300×300×19 (SN400B)
接合ボルト	4-M22 (F8T)
備 考	

鉄骨大梁リスト

階	SG91		SG101	
R	全断面	H-294x200x8x12	全断面	H-294x200x8x12
1	全断面	H-700x300x16x32	全断面	H-400x200x8x13

鉄骨部材リスト

符 号	部 材	材 質	接合部		備 考
			G肥	H.T.B	
sb15	H-150 x 75 x 5 x 7	SS400	GPL-6	2-M16	
sb19	H-198 x 99 x 4 ⁵ x 7	SS400	GPL-9	2-M16	
sb29	H-294 x200 x 8 x 12	SS400	GPL-9	4-M20	
SCG1	H-400 x200 x 8 x 13	SN490B	—	—	先鋒小ロプレートふきぎPL-6
SCG2	H-294 x200 x 8 x 12	SN490B	—	—	
T1	[- 125 x 65 x 6 x 8	SS400	GPL-9	2-M16	
Hv1	1-M16	SS400	GPL-6	1-M16	
Hv2	1-M12	SS400	GPL-6	1-M12	
母屋	C-100x50x20x2.3	SSC400	GPL-6	2-M12	

鉄骨継手リスト

部 材	位 置	材 質	フ ラ ン ジ			ウ ェ ブ			備 考
			SR (外)	SR (内)	H.T.B	SR	H.T.B	@P2	
H-294x200x8x13	全断面	SN490B	SR- 9x200x530	2SR- 9x80x530	4x2-M20	2SR- 9x200x290	3x2-M20	60	
H-400x200x8x13	全断面	SN490B	SR- 9x199x530	2SR- 9x80x530	4x2-M20	2SR- 9x260x290	4x2-M20	60	
H-700x300x16x32	全断面	SN490B	SR-16x300x980	2SR-19x110x980	10x2-M20	2SR- 9x560x290	9x2-M20	60	

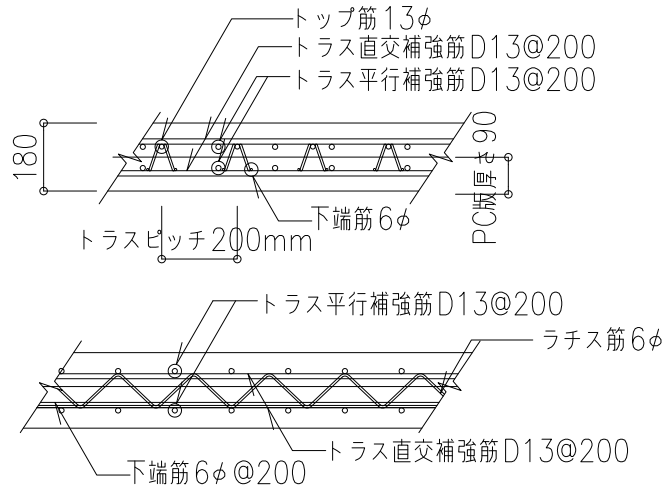
床版リスト 1:50

共通事項（特記なき限り）

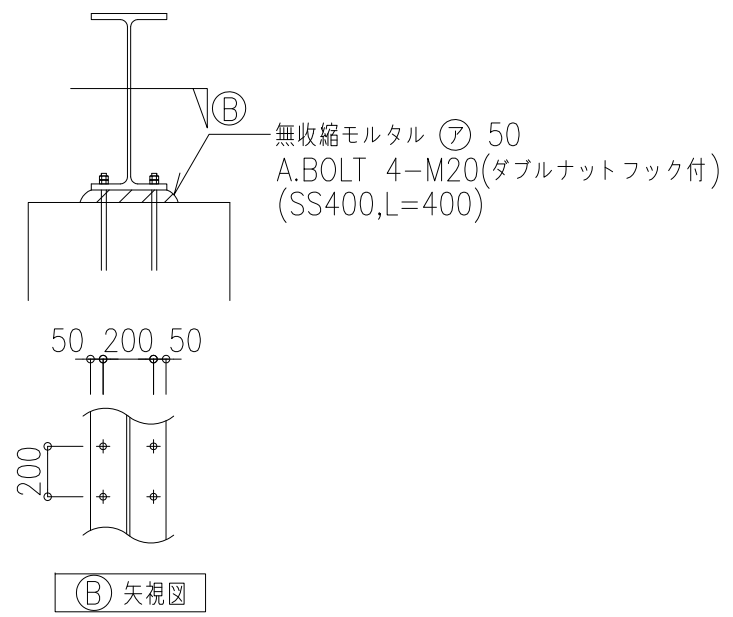
- ・ 直押え部分は、スラブ天端増打 ㊦ 10とする。

符 号	版 厚	位 置	短辺方向配筋 (主筋方向)	長辺方向配筋 (配筋方向)	備 考
S18	180	上端筋	—	—	配筋は断面図による
		下端筋	—	—	

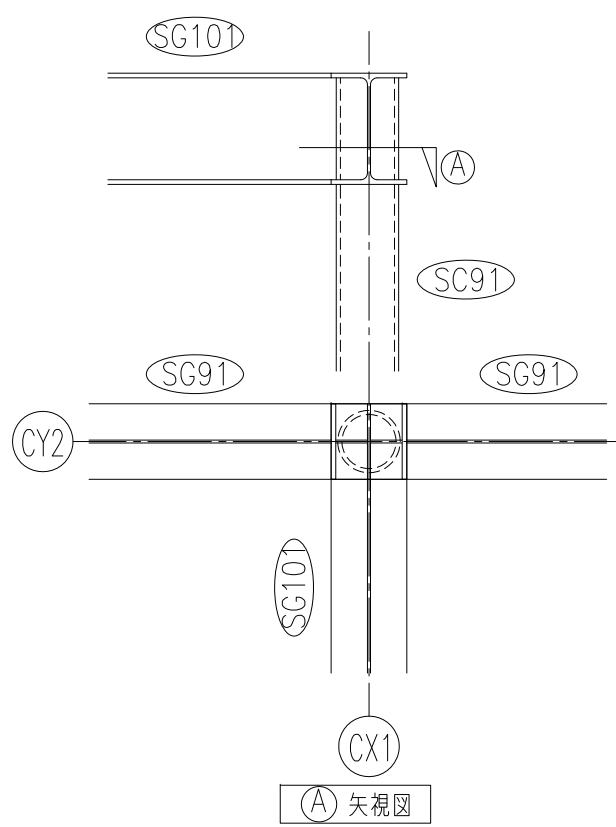
スラブ断面



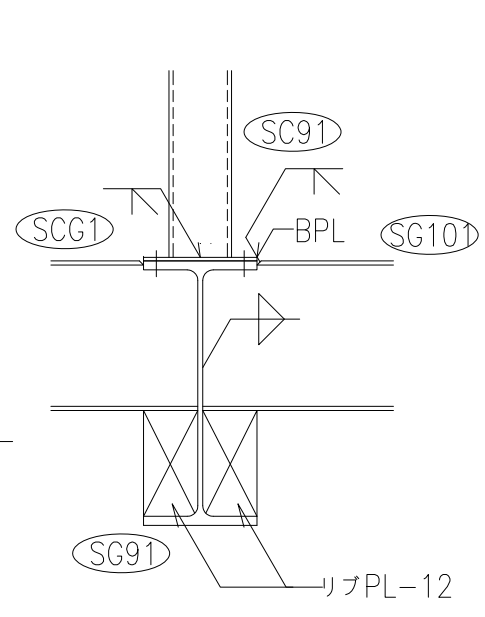
SG91接合部詳細図 1:30



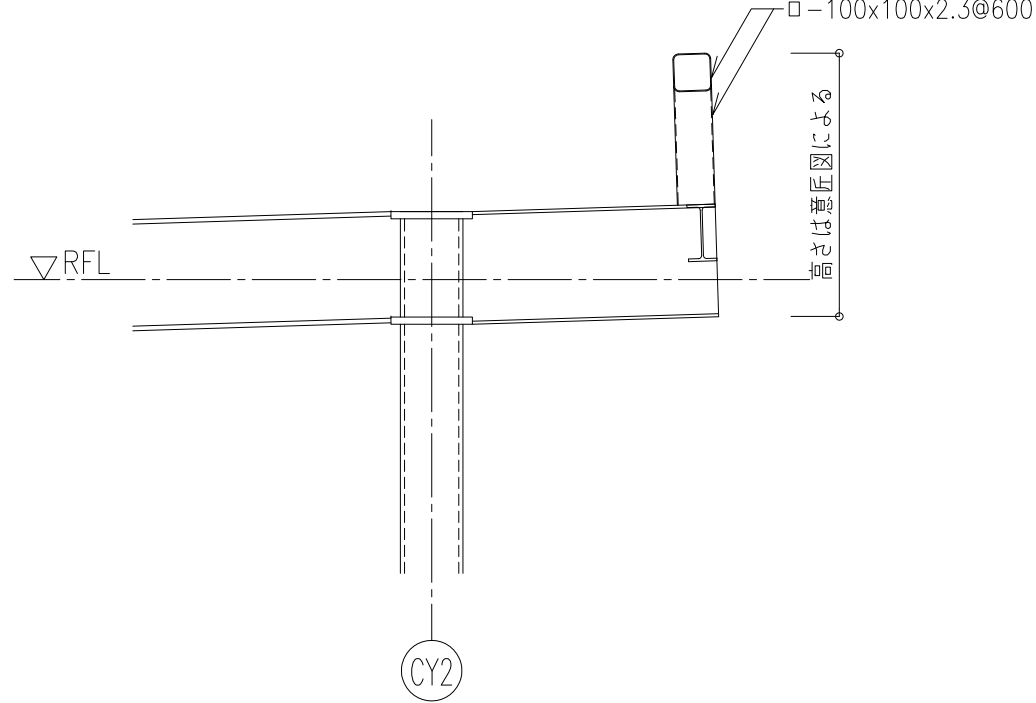
梁剛接部分詳細図 1:20



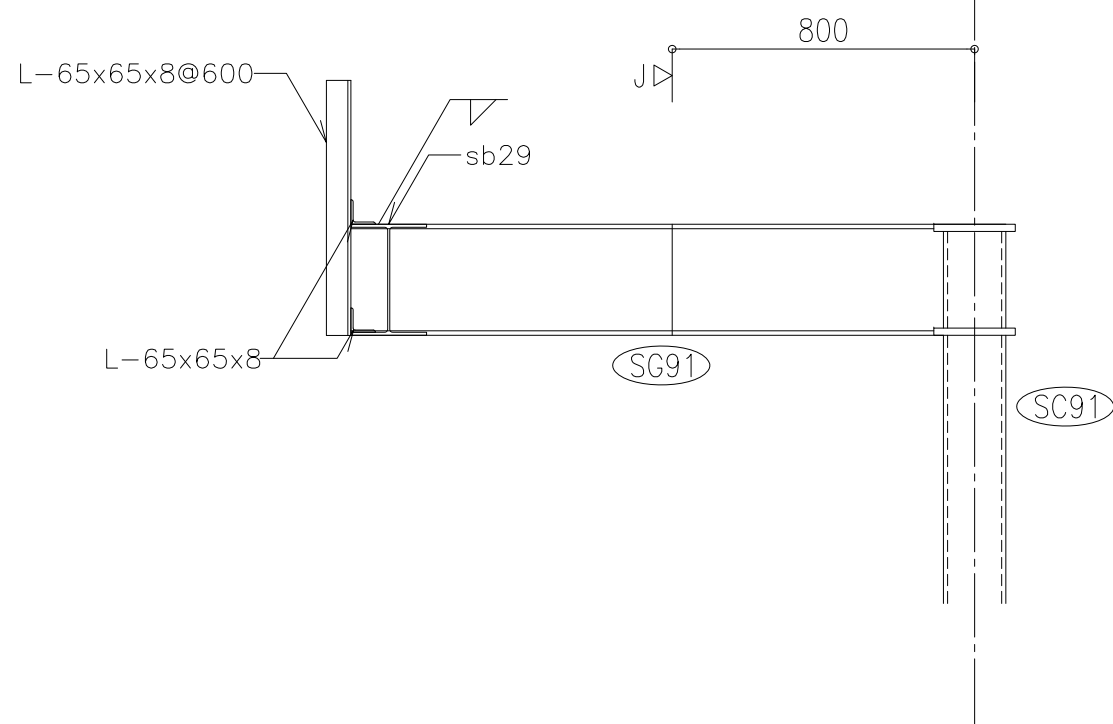
SC91柱脚部詳細図 1:20



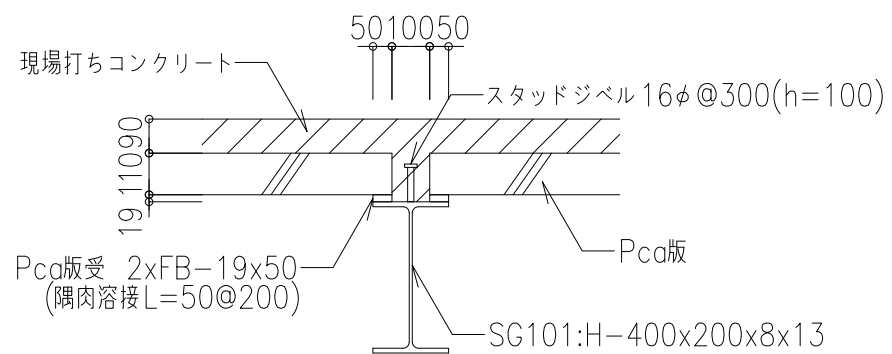
SCG2片持ち梁、先端立ち上がり詳細図 1:20



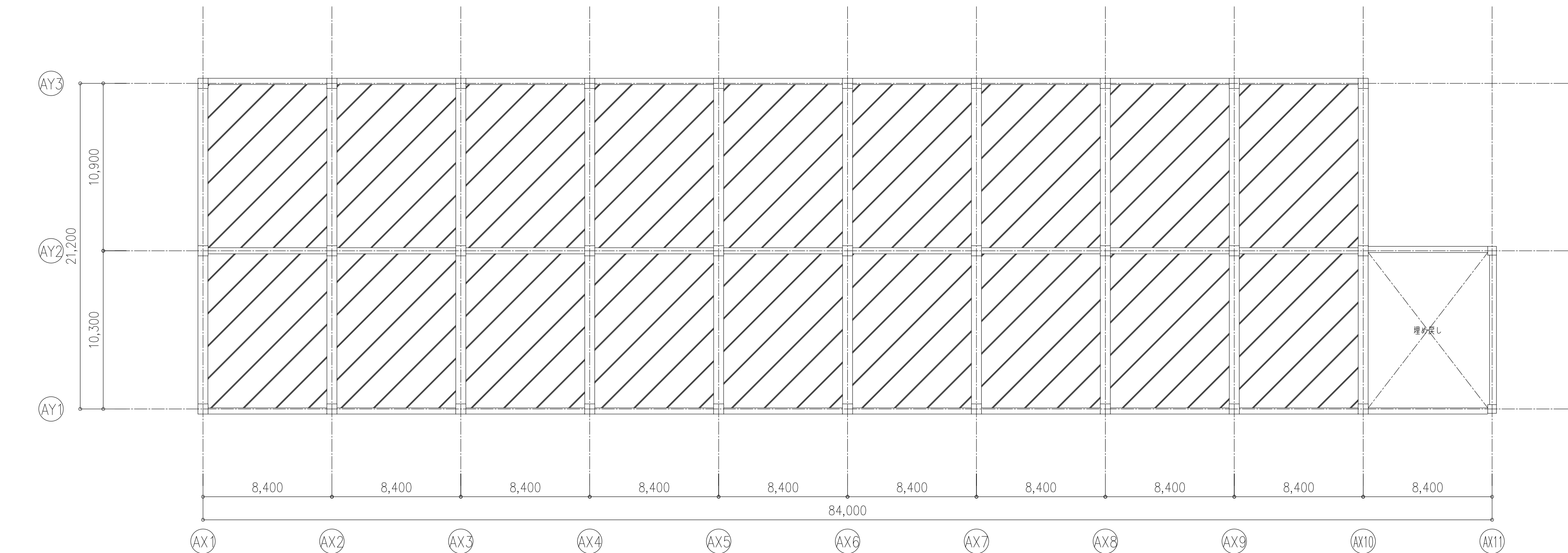
アルミパネル底詳細 S=1:20



Pca版受詳細図 1:20

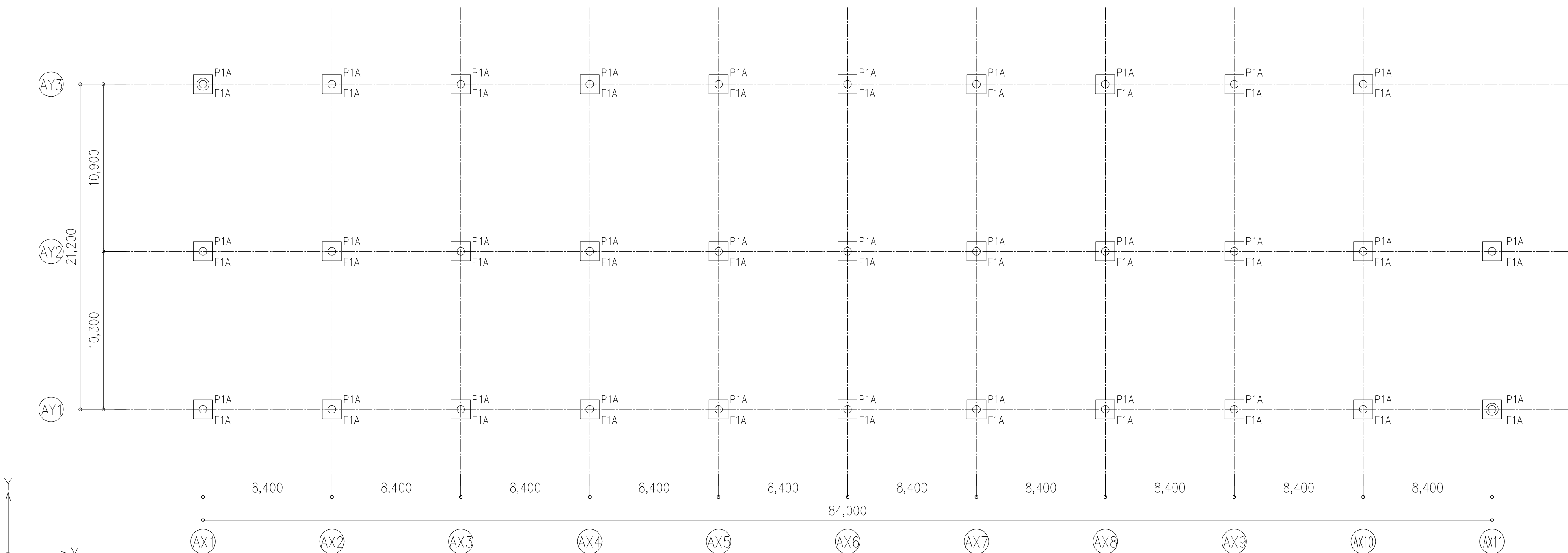


＜代表設計者＞ 結城建築士 第256513号 畠田 正博	津市モーターポート競走場競技場等新築その他工事	
＜構造設計者＞ 結城建築士 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 梁谷 明也	B 建築工事	A3→1:100 A1→1:50
	27 渡り廊下 部材リスト	
安井建築設計事務所		



ピット伏図(選手管理棟) 1:200

- 共通事項(特記なき限り)
- 設計GL=1FL+200
 - ハッチ部分は、捨てコンピットを示す。



杭・基礎伏図(選手管理棟) 1:200

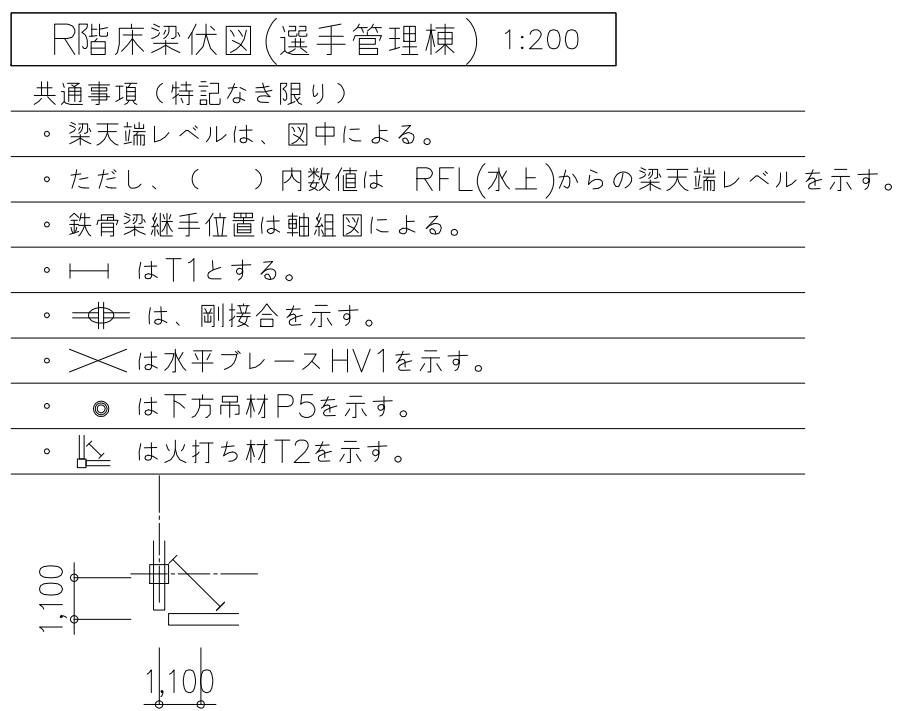
- 共通事項(特記なき限り)
- 設計GL=TP+0.90
 - 杭頭はGL-1.55mとする。
 - 基礎底はGL-1.80mとする。
 - 杭芯=基礎芯=柱芯とする。
 - ◎印は試験杭を示す。

杭リスト(選手管理棟)

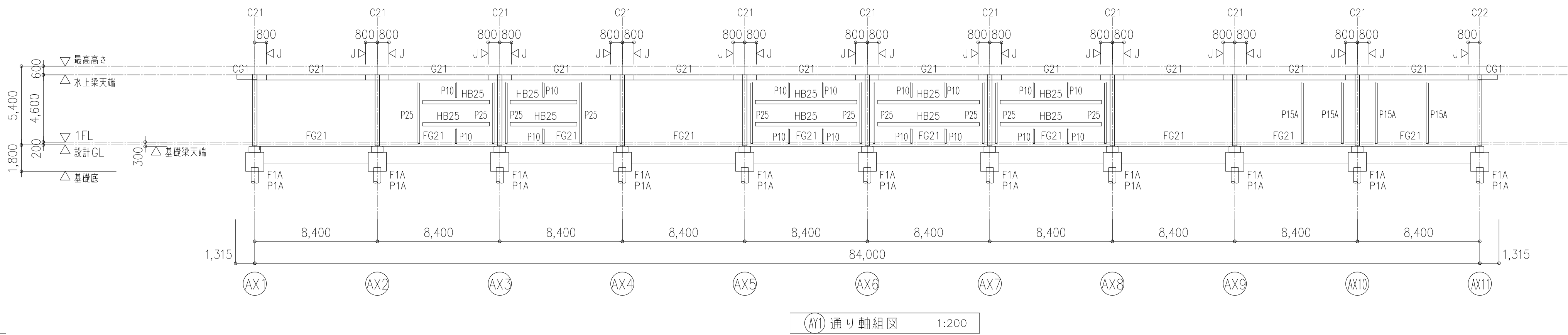
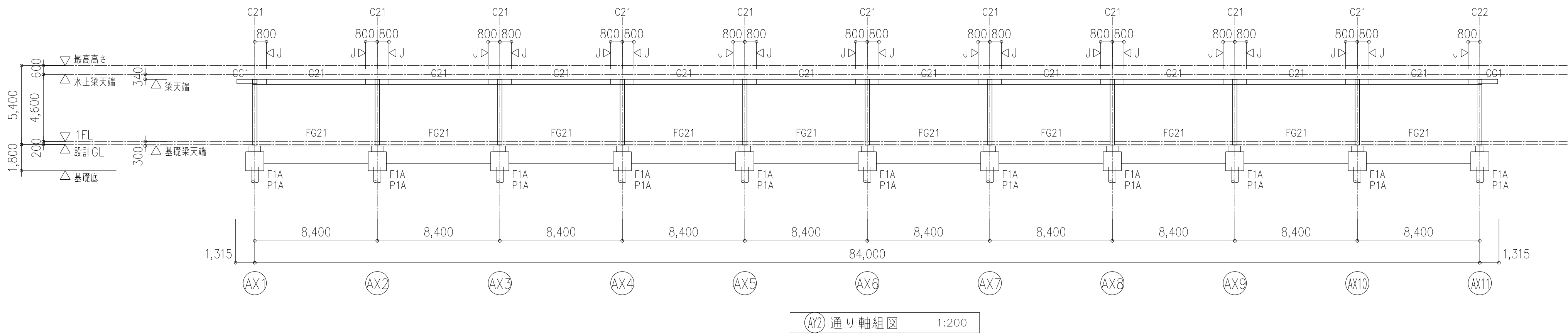
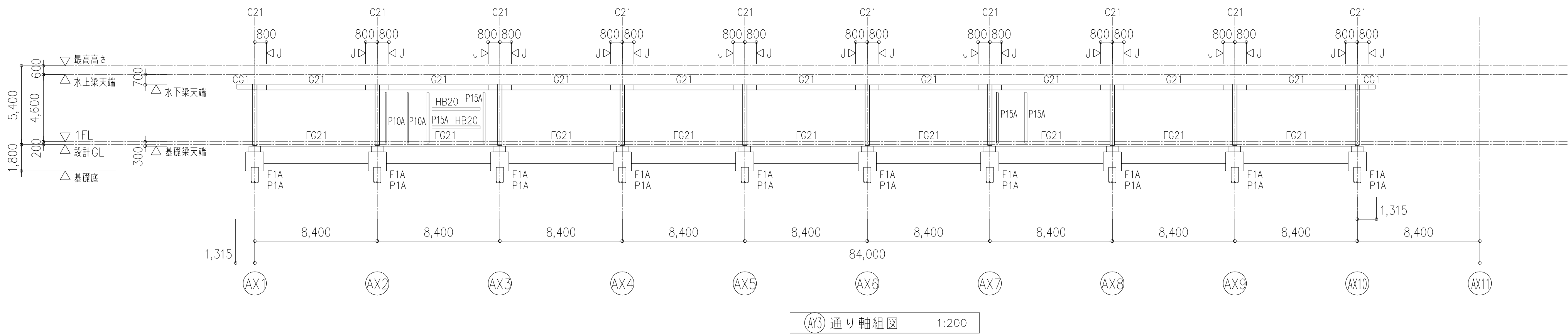
・杭工法はHyper-MEGAI法($\omega=1.23$)とする。

符 号	杭 種		軸 部 径 (mm)	節 部 径 (mm)	上杭長さ (m)	下杭長さ (m)	全 長 (m)	長期支持力 (kN)	杭頭補強筋	本 数	備 考
	上 杭	下 杭									
P1A	105 SC (490) t9	105 節付PHC C	500	650	11.0	11.0	22.0	1800	19-D25 強度SD345	32	拡大掘削部長8.0m (鋼管強度SKK490)

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 基田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事		
		B	建築工事	A3→1:400 A1→1:200
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 築谷 朋也		28	選手管理棟 伏図(1)	
		安井建築設計事務所		



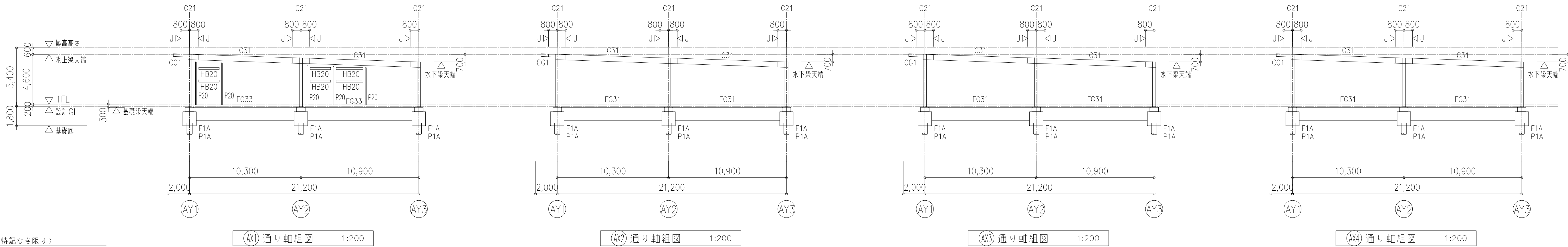
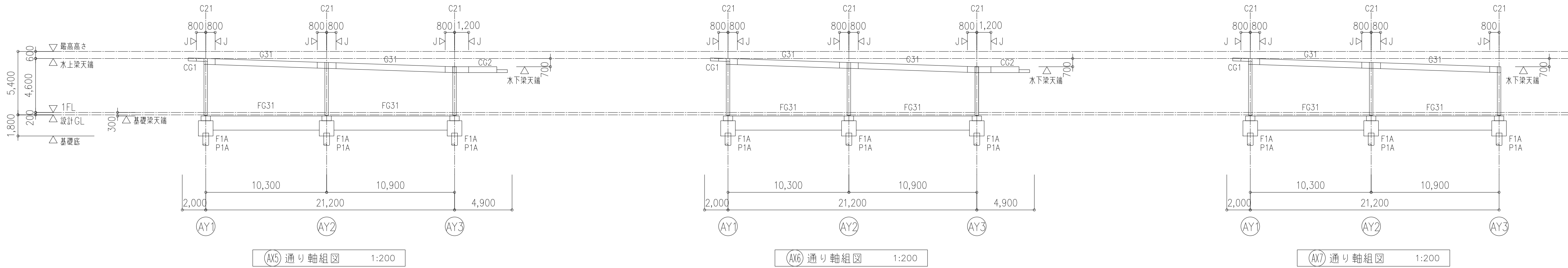
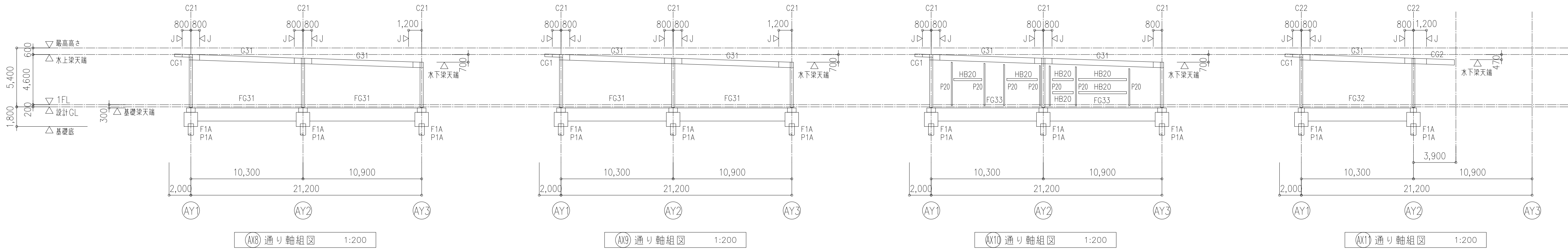
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 塚谷 剛也	津市モーターポート競走場競技棟等新築その他工事		
	B	建築工事	A3→1:400 A1→1:200
	29	選手管理棟 伏図(2)	
安井建築設計事務所			



共通事項（特記なき限り）

- ・ J印は、鉄骨継手位置を示す。
- ・ B凡下端は、基礎梁天端+50とする。

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 柴谷 朋也	津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
30	B	建築工事 A3→1:400 A1→1:200
	選手管理棟	軸組図(1)
安井建築設計事務所		



共通事項（特記なき限り）

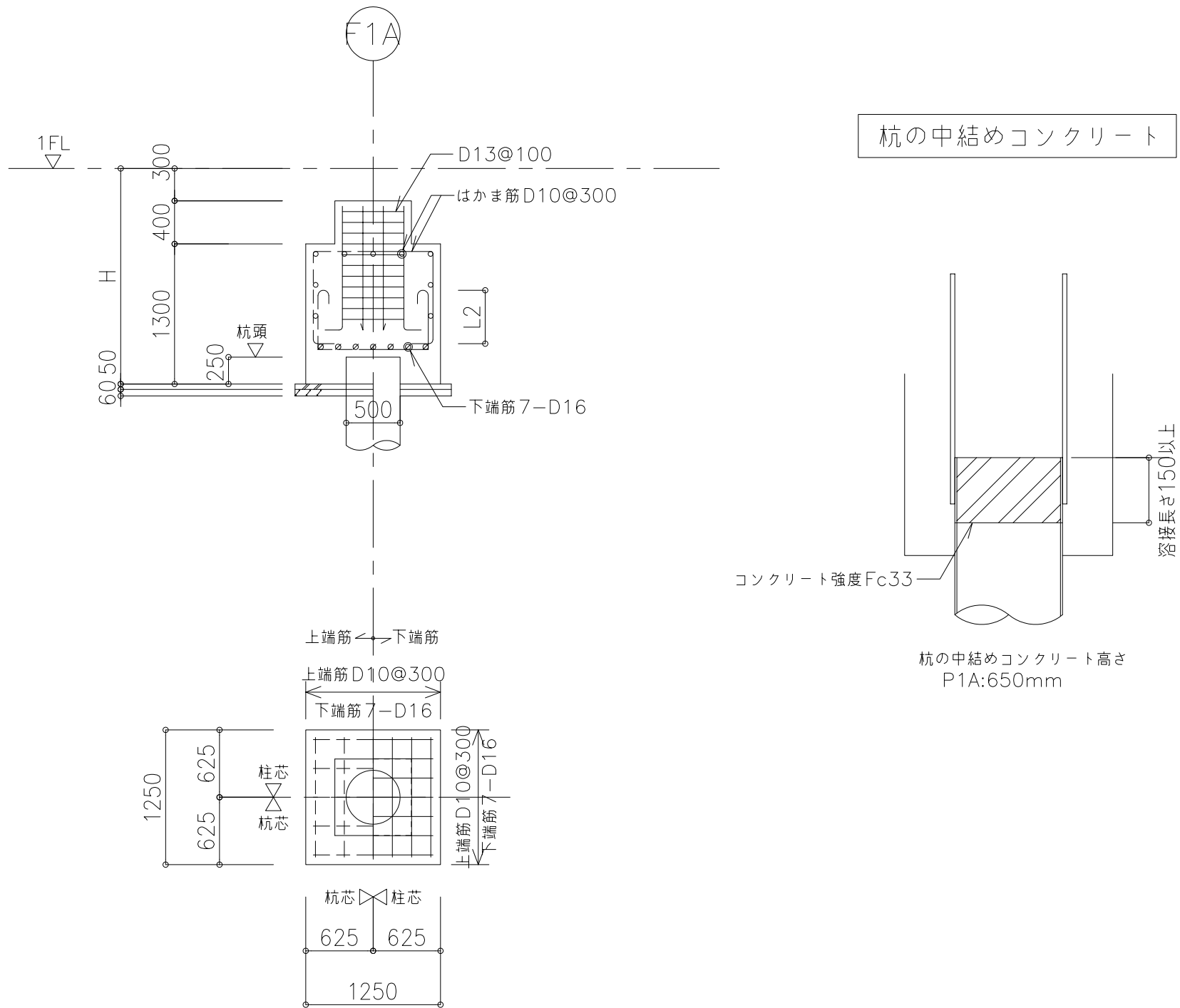
- * J印は、鉄骨継手位置を示す。
- * B尺下端は、基礎梁天端+50とする。

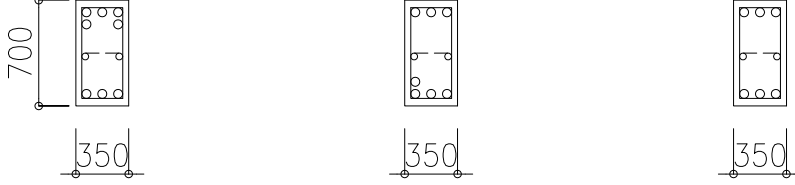
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 栗谷 朋也	B	建築工事	A3→1:400 A1→1:200
	31	選手管理棟 軸組図(2)	
安井建築設計事務所			

基礎リスト	1:50	共通事項（特記なき限り）
		・基礎深さHは、基礎伏図による。
		・基礎底地業は、捨てコンクリート ㊦ 50、砕石 ㊦ 60とする。

RC小梁リスト	1:50
---------	------

共通事項（特記なき限り）
・幅止筋はD10@1000以内とする。
・鉄筋材質は、D10～D16：SD295A，D19～D25：SD345, D29：SD390



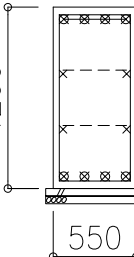
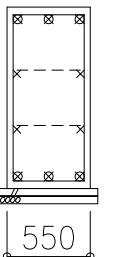
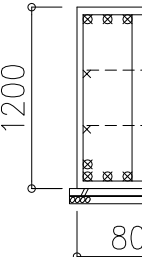
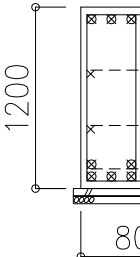
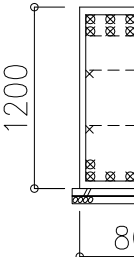
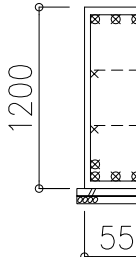
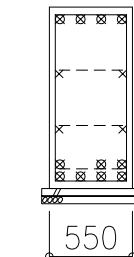
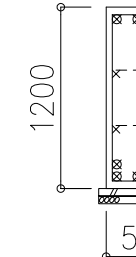
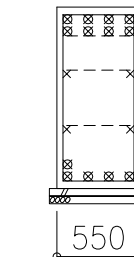
符 号	B1		B1A		
位 置	端部	中央	連続端	中央	他端
断 面					
上 端 筋	5-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22
下 端 筋	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	3-D22
スターアップ	2-D10 @200		2-D10 @200		
腰 筋	2-D10		2-D10		
備 考					

床版リスト	1:50	共通事項（特記なき限り）
		・直押え部分は、スラブ天端増打 ㊦ 10とする。
		・土に接するスラブ地業は、捨てコンクリート ㊦ 50、砂利 ㊦ 60とする。

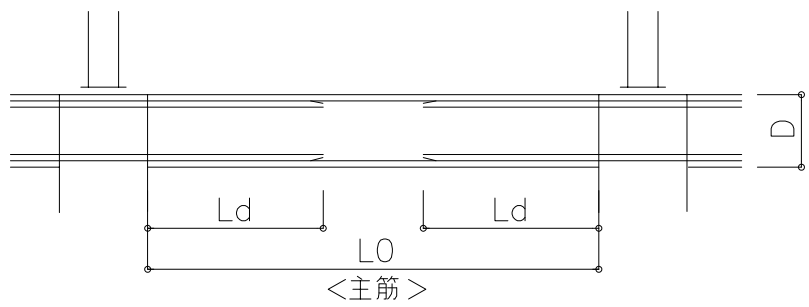
符 号	版 厚	位 置	短辺方向配筋 （主筋方向）	長辺方向配筋 （配力筋方向）	備 考
S15	150	上端筋 下端筋	D10・D13 @200 D10 @200	D10 @200 D10 @200	モチアミ配筋
S18B	180	上端筋 下端筋	D13 @200 D10・D13 @200	D10・D13 @200 D10 @200	モチアミ配筋

基礎梁リスト	1:50	共通事項（特記なき限り）
		・幅止筋はD10@1000以内とする。
		・鉄筋材質は、D10～D16：SD295A，D19～D25：SD345, D29：SD390 ・土に接する梁下地業は、捨てコンクリート ㊦ 50、砂利 ㊦ 60とする。



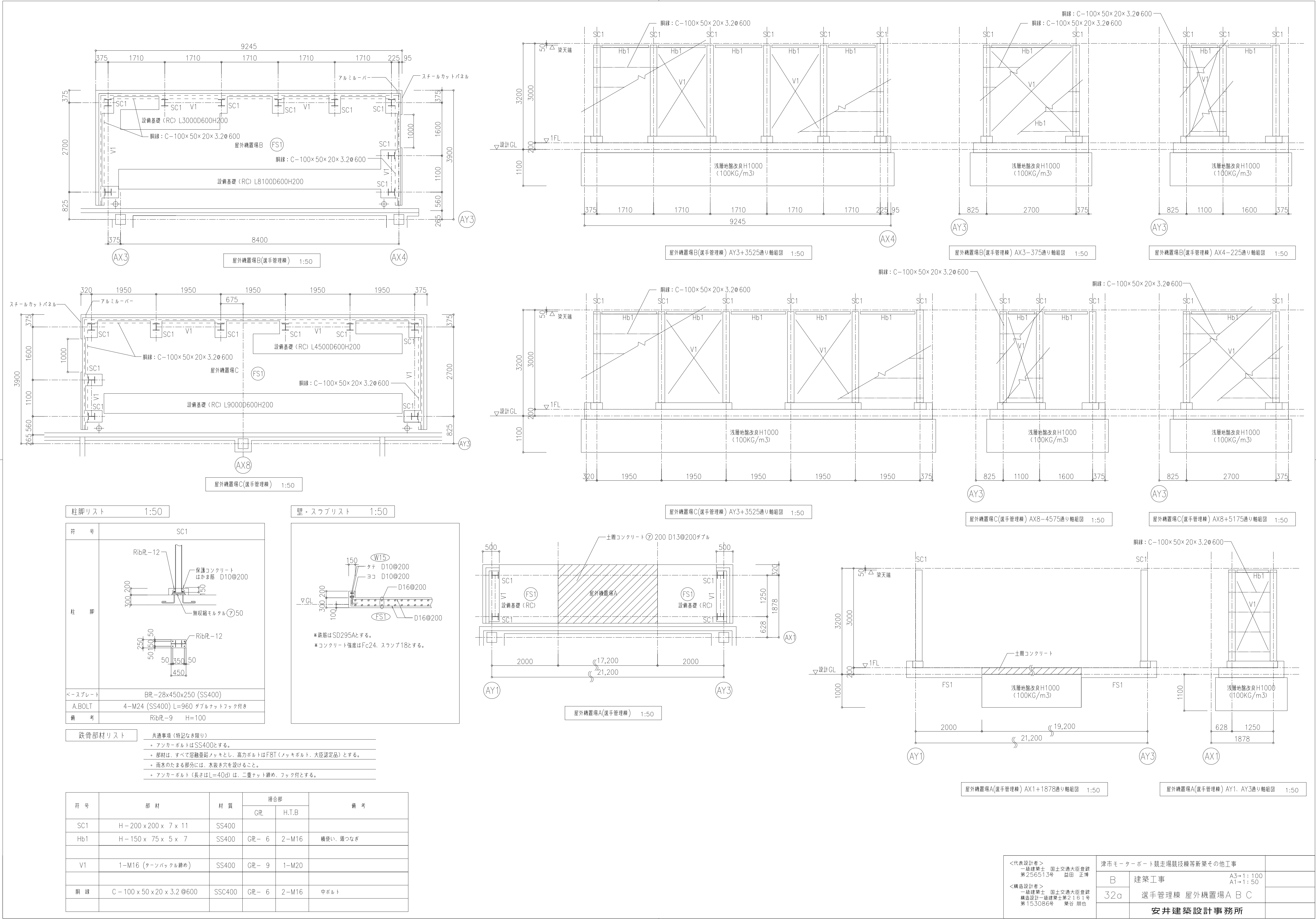
符 号	FG21		FG31			FG32		FG33		
位 置	端部	中央	AY1・AY3端	中央	AY2端	端部	中央	AY1・AY3端	中央	AY2端
断 面										
上 端 筋	4-D29	3-D29	6-D29	6-D29	12-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	8-D29
下 端 筋	4-D29	3-D29	8-D29	9-D29	8-D29	5-D29	7-D29	5-D29	6-D29	5-D29
スタースラップ	2-D13 @200		3-D13 @200			2-D13 @200		2-D13 @200		
腰 筋	4-D13		4-D13			4-D13		4-D13		
備 考										

カットオフ配筋要領



LdはL0/4+15d以上とする。（単位 mm）
カットオフ筋が重なる場合は通し配筋とする。

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 築谷 朋也	津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事		
	B	建築工事	A3→1:100 A1→1:50
	32	選手管理棟 RC部材リスト	
		安井建築設計事務所	



鉄骨柱リスト	1:50
共通事項（特記なき限り）	
・ 鉄骨材質は、BCR295、ダイヤファムはSN490Cとする。	
・ 柱脚は、大臣認定を取得している露出型固定柱脚工法とする。	

< 選手管理棟 >

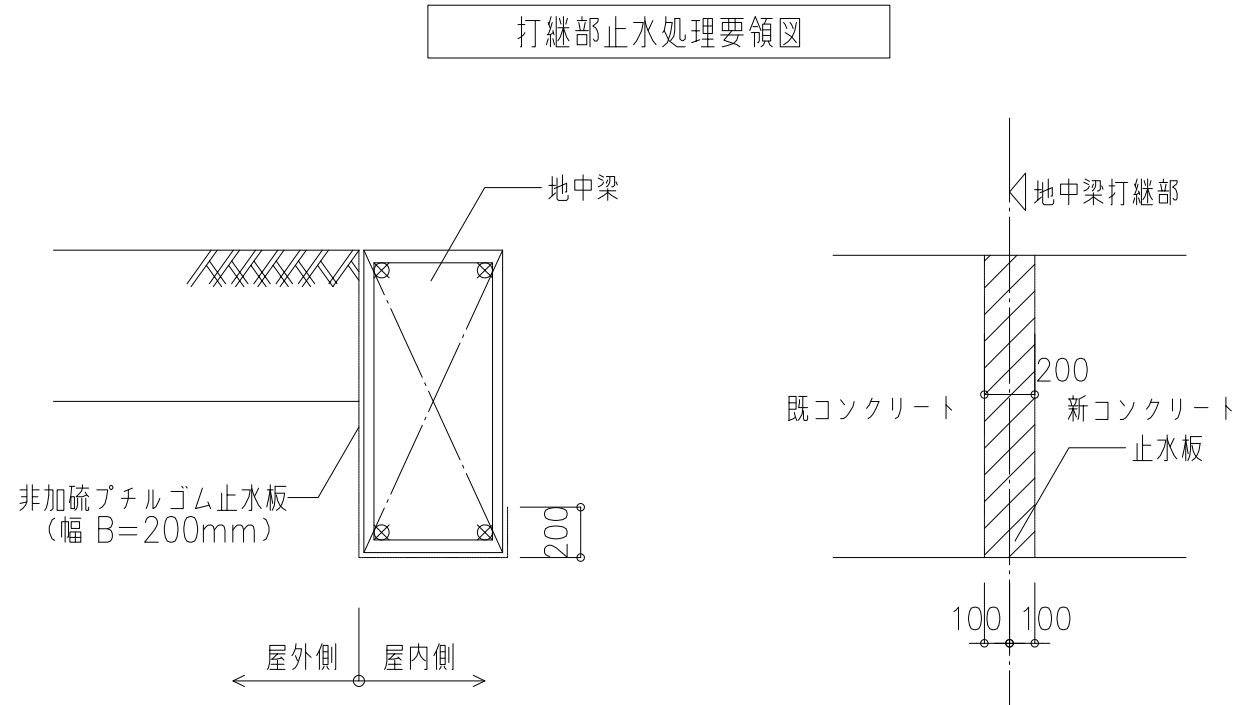
階	符号	C21	C22
1		□-300x300x12	○-267.4x6 (STK400)
柱 脚			
			柱材は溶融亜鉛メッキとする
		ハイベースNEO EB300-4-30	ハイベースNEO EM250-4-24
柱 型			
主 筋		12-D22	8-D22
フ ー プ		2-D13@100	2-D13@100
備 考			

鉄骨大梁リスト	共通事項（特記なき限り）
	・ 鉄骨材質は、SN490Bとする。

符号	G21		G31	
断面	全断面	H-350x175x7x11	全断面	H-500x200x10x16

鉄骨継手リスト	共通事項（特記なき限り）
	・ ボルトは、高力ボルト（HTB）F10Tとする。
	・ 剛接合継手は、SCSS-H97に準ずる。
	・ ピン接合部は鉄骨部材リストにあるものは鉄骨部材リストに倣う。
	・ 添板強度は母材と同強度とする。

部 材	位 置	材 質	フランジ			ウェブ			仕口（ピン接合部）			備 考
			SR(外)	SR(内)	H.T.B	SR	H.T.B	@P2	GR・SR	H.T.B	@P2	
H-150x75x5x7	全断面	SN400B	SR- 16x75x290	—	2x2-M16	2SR- 6x 80x290	1x2-M16	60	—	—	-	
H-340x250x9x14	全断面	SN400B	SR-12x250x530	2SR-12x100x530	4x2-M20	2SR- 9x200x290	3x2-M20	60	—	—	-	
H-350x175x7x11	全断面	SN400B	SR- 9x175x290	2SR- 9x70x290	2x2-M20	2SR- 6x260x170	3x1-M20	90	—	—	-	
H-350x175x7x11	全断面	SN490B	SR- 9x175x290	2SR- 9x70x290	2x2-M20	2SR- 6x260x170	3x1-M20	90	—	—	-	
H-500x200x10x16	全断面	SN490B	SR-12x200x530	2SR- 12x80x530	4x2-M20	2SR- 9x380x170	6x1-M20	60	GR-12・2SR-9	6x1-M20	60	



柱脚リスト	1:30
共通事項（特記なき限り）	
・ 無収縮モルタル厚さ50共通	
・ A.BOLT全てダブルナット締めフック付き、SS400	

符 号	P10	P10A	P15
断 面			
ベースプレート	B.PL-200x120x16(SS400)	B.PL-300x120x16(SS400)	B.PL-200x200x19(SS400)
アンカーボルト	A.BOLT 2-M16(L=320)	A.BOLT 2-M16(L=320)	A.BOLT 2-M16(L=320)

符 号	P15A	P20	P25
断 面			
ベースプレート	B.PL-200x200x19(SS400)	B.PL-200x250x19(SS400)	B.PL-200x300x19(SS400)
アンカーボルト	A.BOLT 2-M16(L=320)	A.BOLT 2-M16(L=320)	A.BOLT 2-M16(L=320)

鉄骨部材リスト	共通事項（特記なき限り）
	・ ボルトは、高力ボルト（HTB）S10Tとし、アンカーボルトはSS400とする。
	・ アンカーボルト（長さはL=20d）は、二重ナット締め、フック付とする。
	・ 溶接部は同強度以上のSMM材もしくはSN材を用いること。

符 号	部 材	材 質	接合部		備 考
			GR	H.T.B	
CG1	H-150 x 75 x 5 x 7	SN490B	—	—	小梁接合部要領は特記なき限り下図（小梁継手要領図）による
CG2	H-500 x200 x10 x16	SN490B	—	—	
sb10	H-100 x 50 x 5 x 7	SS400	GR- 6	1x2-M16	
sb10A	H-100 x100 x 6 x 8	SS400	GR- 9	1x2-M16	
scb10A	H-100 x100 x 6 x 8	SS400	GR- 9	1x2-M16	
sb10B	[-100 x 50 x 5 x7.5	SS400	GR- 6	1x2-M16	横使い
sb15	H-150 x 75 x 5 x 7	SS400	GR- 6	1x2-M16	e1=50 剛接部はSN400Bとする。
sb19	H-198 x 99 x4.5x 7	SS400	GR- 6	1x2-M16	
sb34A	H-340 x250 x 9 x14	SS400	GR-12	3x1-M20	
sb35	H-350 x175 x 7 x 11	SS400	GR- 9	3x1-M20	剛接部はSN400Bとする。
scb15	H-150 x 75 x 5 x 7	SN400B	—	—	
scb34A	H-340 x250 x 9 x14	SN400B	—	—	
scb35	H-350 x175 x 7 x 11	SN400B	—	—	剛接部はSN400Bとする。
T1	[-100 x 50 x 5 x 7.5	SS400	GR- 6	3x1-M16	
T2	[-150 x 75 x 6.5x10	SS400	GR- 9	4x1-M20	
Hv1	1-M16	SS400	GR- 6	1-M16	
P5	L- 50 x 50 x 6	SS400	GR- 9	1x2-M16	
P10	[-100 x 50 x 5 x 7.5	SS400	GR- 6	2x1-M20	
P10A	□-100 x100 x 6	STKR400	GR- 9	1x2-M16	
P15	H-150 x 75 x 5 x 7	SS400	GR- 6	1x2-M16	
P15A	H-150 x150 x 7 x10	SS400	GR- 9	1x2-M16	
P20	H-200 x100 x5.5x 8	SS400	GR- 6	2x1-M16	
P25	H-250 x125 x 6x 9	SS400	GR- 9	3x1-M16	
HB20	H-200 x100 x5.5x 8	SS400	GR- 6	2x1-M16	横使い
HB25	H-250 x125 x 6x 9	SS400	GR- 9	3x1-M16	横使い

折板屋根、火打ち材取り付要領

小梁継手要領図

（リブプレートは、GRと母材質・同厚とする）

	M16	M20	M22	M24
P1,P2	60	60	60	70
e1,e2	40	40	40	45

折板屋根、補剛材取り付き要領

(AX5)通り及び(AX6)通り庇先端詳細図

折板

周仕切壁頭止め鉄骨

[-100x50x5x7.5(横使い)

sb10B

小梁

<代表設計者>
一級建築士 国土交通大臣登録
第256513号 益田 正博

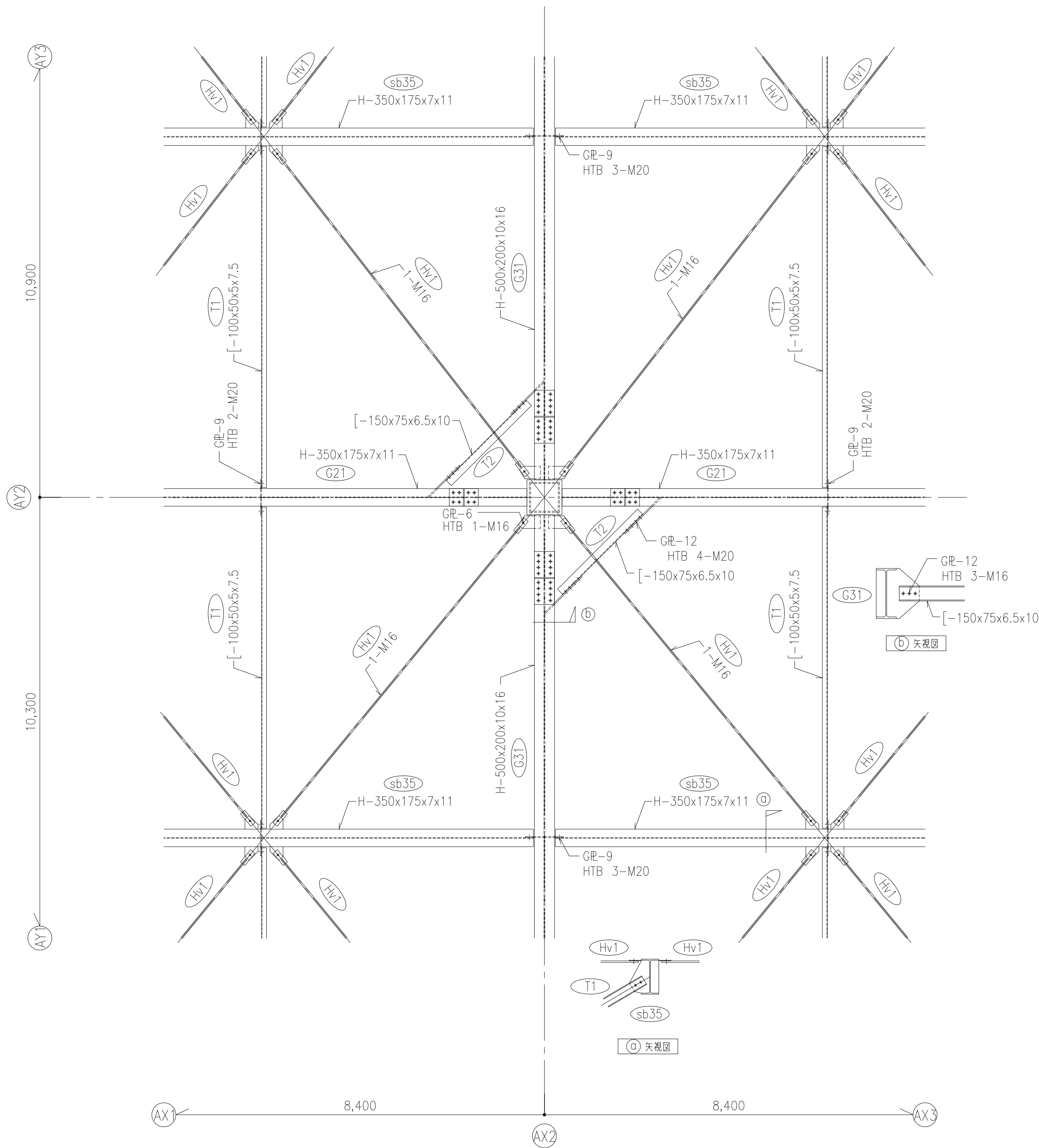
<構造設計者>
一級建築士 国土交通大臣登録
構造設計一級建築士第21611号
第153086号 築谷 朋也

津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事

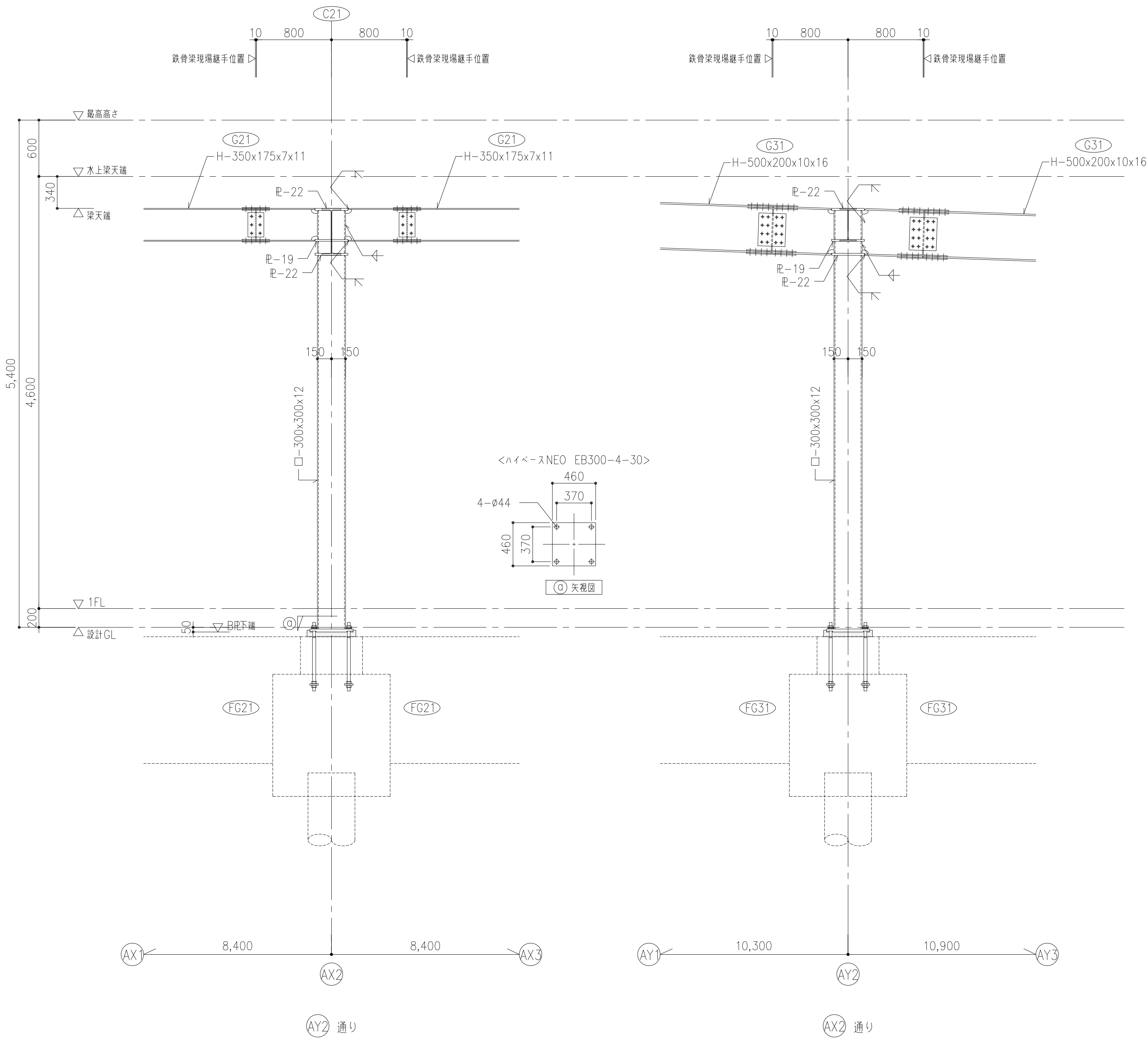
B 建築工事 A3→1: 100
A1→1: 50

3.3 選手管理棟 鉄骨部材リスト

安井建築設計事務所



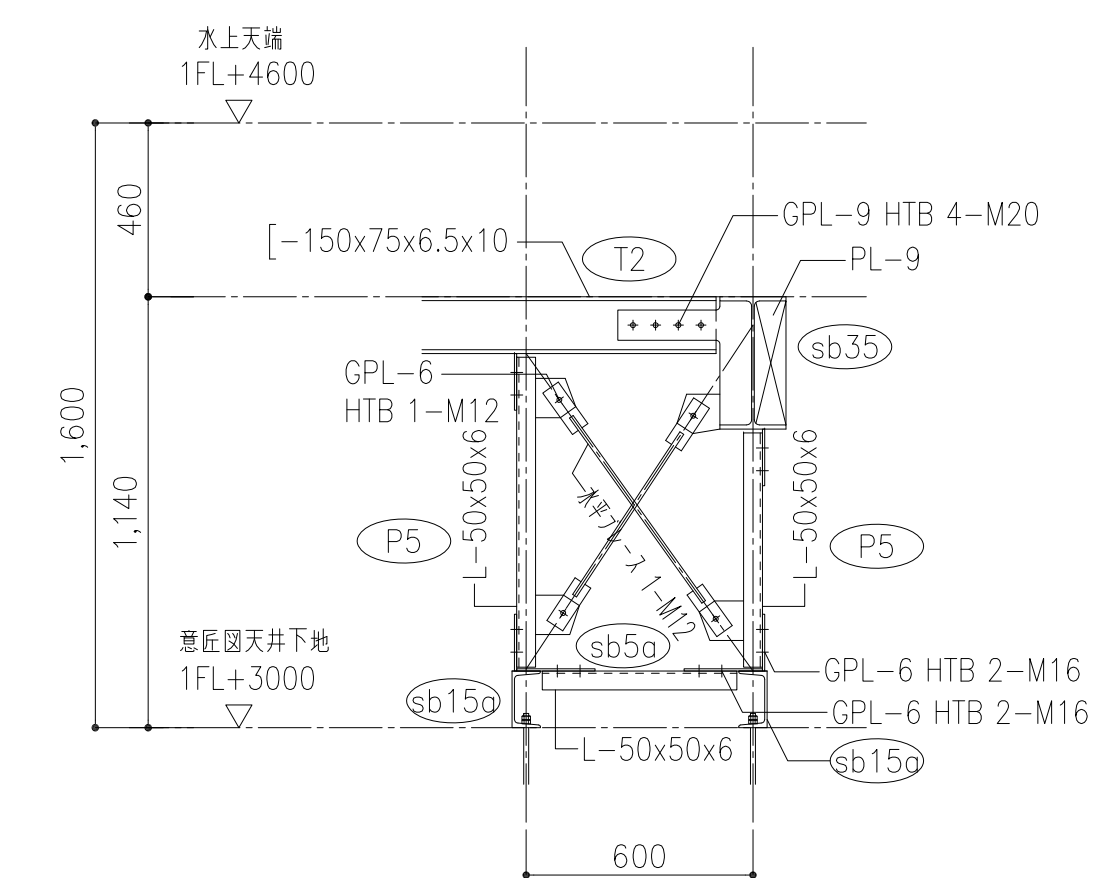
プレース詳細図 (選手管理棟) 1:30



鉄骨架構詳細図 (選手管理棟) 1:30

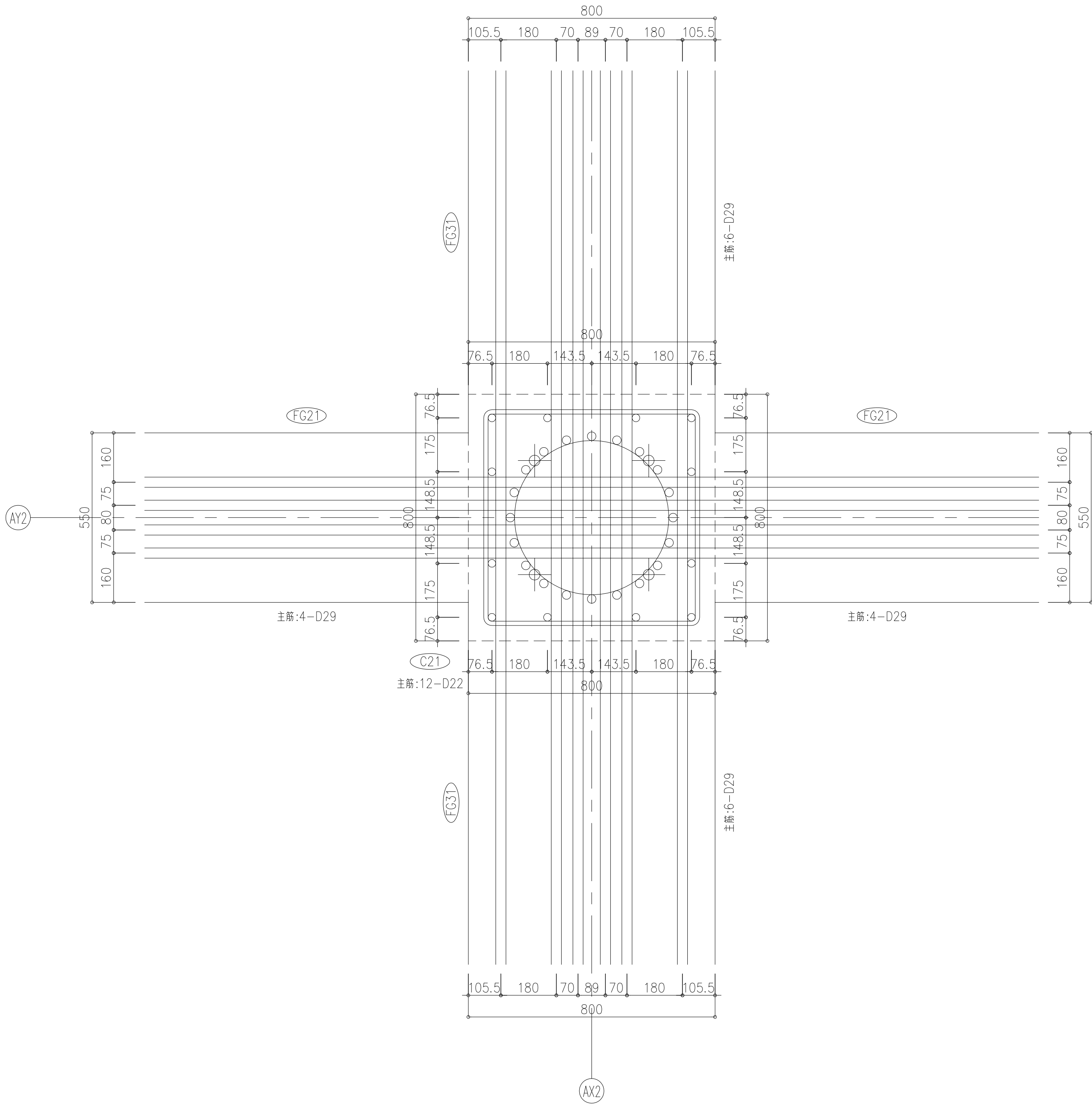
- 共通事項 (特記なき限り)
- 鋼材種別は、柱は BCR295、大梁は SN490Bとする。
 - ダイヤフラムの鋼材種別は、SN490Cとする。
 - ただし、内ダイヤフラムの鋼材種別は、SN490Bとする。
 - ボルトは、高力ボルト F8Tとする。

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
34	B	建築工事	A3→1: 60 A1→1: 30
	34	選手管理棟 鉄骨架構詳細図	
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 栗谷 朋也		安井建築設計事務所	

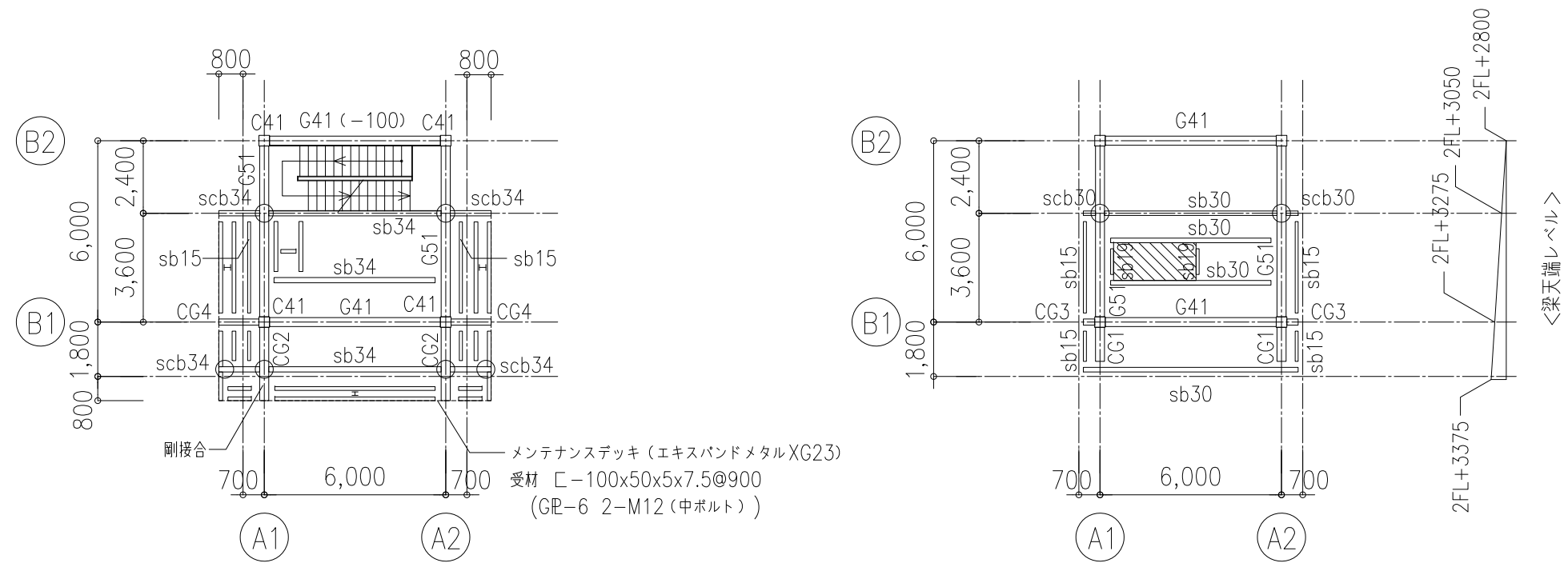


共通事項（特記なき限り）
 ・----- ブレース配置か所を示す。（クロス配置）

＜代表設計者＞ 一級建築士 国土交通大臣登録 第236513号 益田 正博 ＜構造設計者＞ 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 榮谷 朋也	津市モーターボート競走場観戦棟等新築その他工事 B 建築工事 A3→1:60 A1→1:30 34a 選手管理棟 吊り材詳細図 安井建築設計事務所
---	--



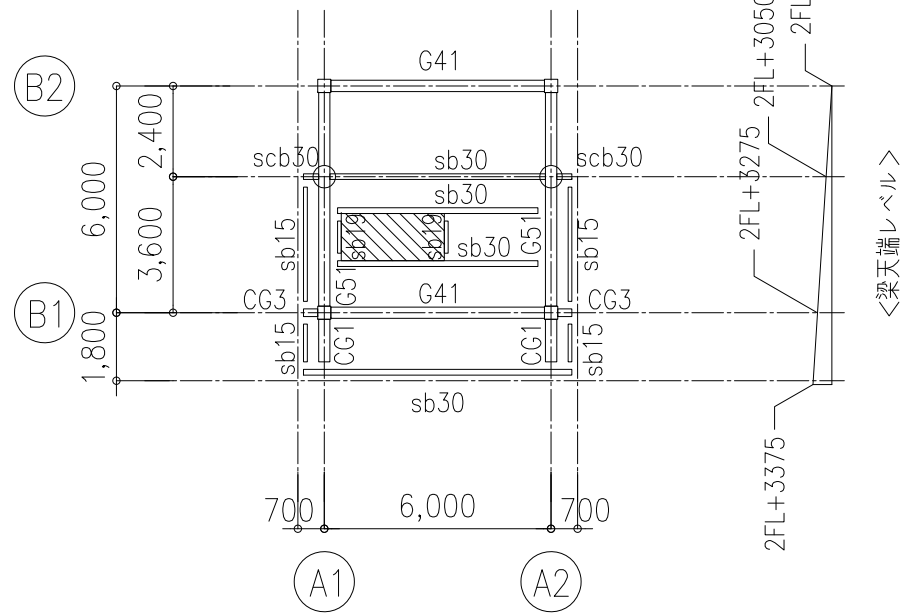
<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 栗谷 朋也	津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事	
	B	建築工事
	35	選手管理棟 接合部配筋詳細図
		安井建築設計事務所



2階床梁伏図(副審棟) 1:200

共通事項(特記なき限り)

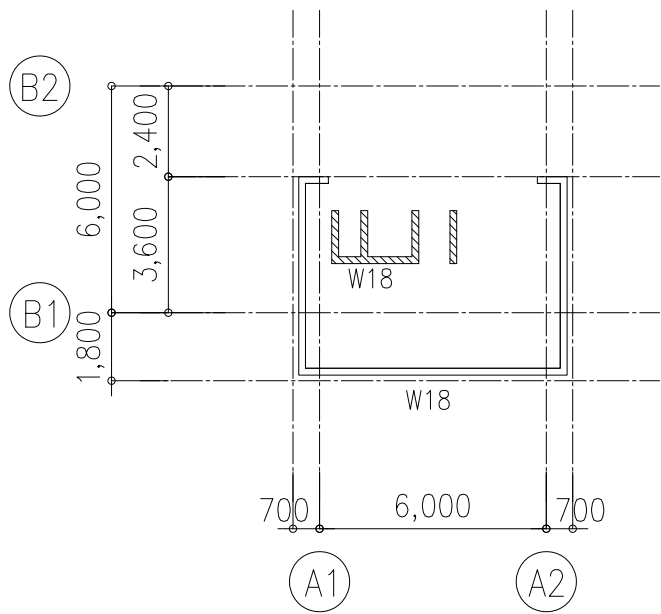
- ・ 梁天端レベルは、2FL-250による。
- ・ () 内数値は、2FLからの梁天端レベルを示す。
- ・ 小梁は、sb12Aとする。
- ・ スラブは、DS15とする。
- ・ スラブ天端レベルは、2FL-100とする。
- ・ ー は補剛材T1とする。
- ・ メンテナンスデッキは溶融垂鉛メッキ



屋根伏図(副審棟) 1:200

共通事項(特記なき限り)

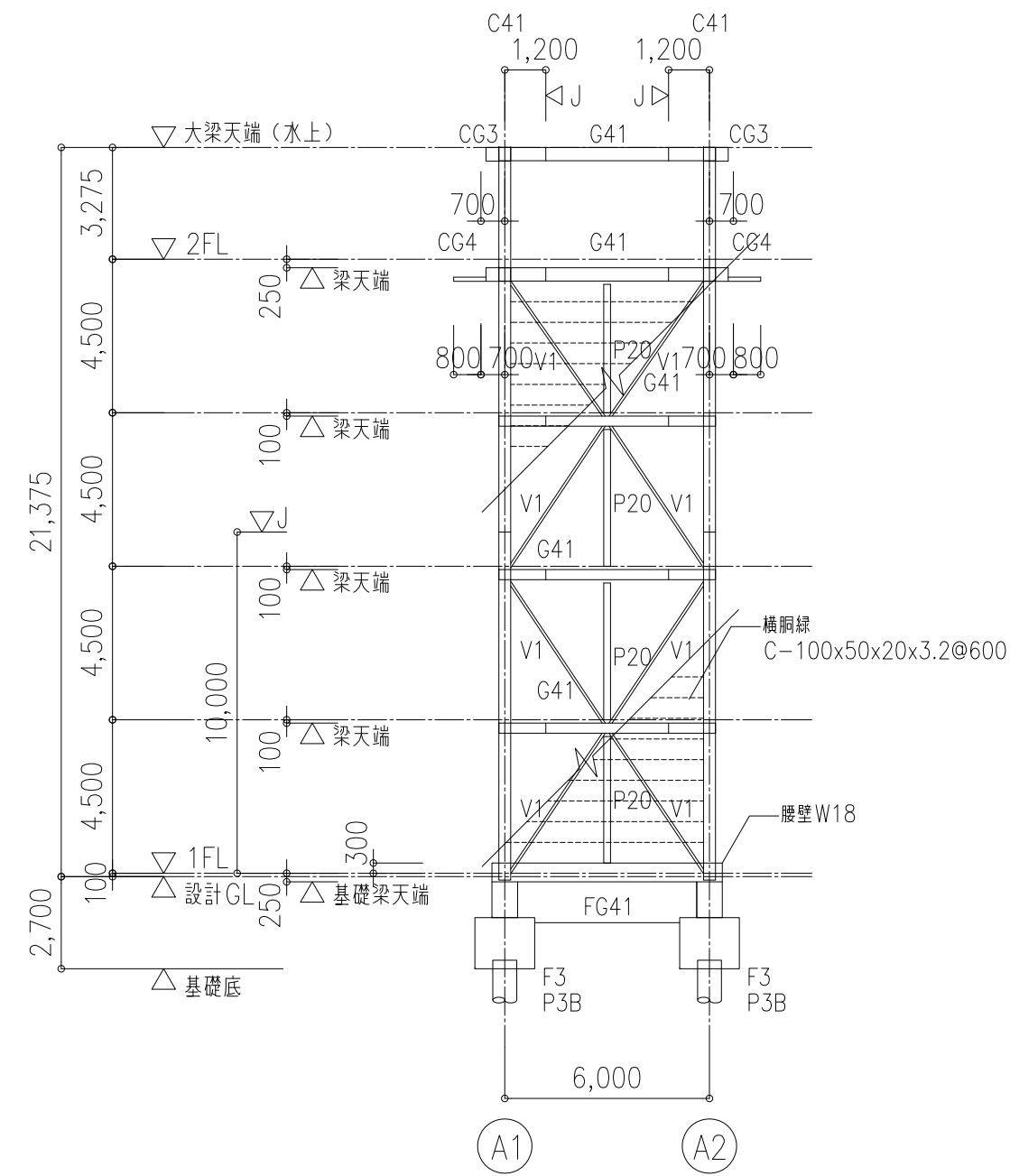
- ・ 水下梁天端レベルは、2FL+2800による。
- ・ 小梁天端＝スラブ下端とする。
- ・ スラブは、DS15とする。
- ・ 印は、バト小屋を示し、配筋は別途を示す。



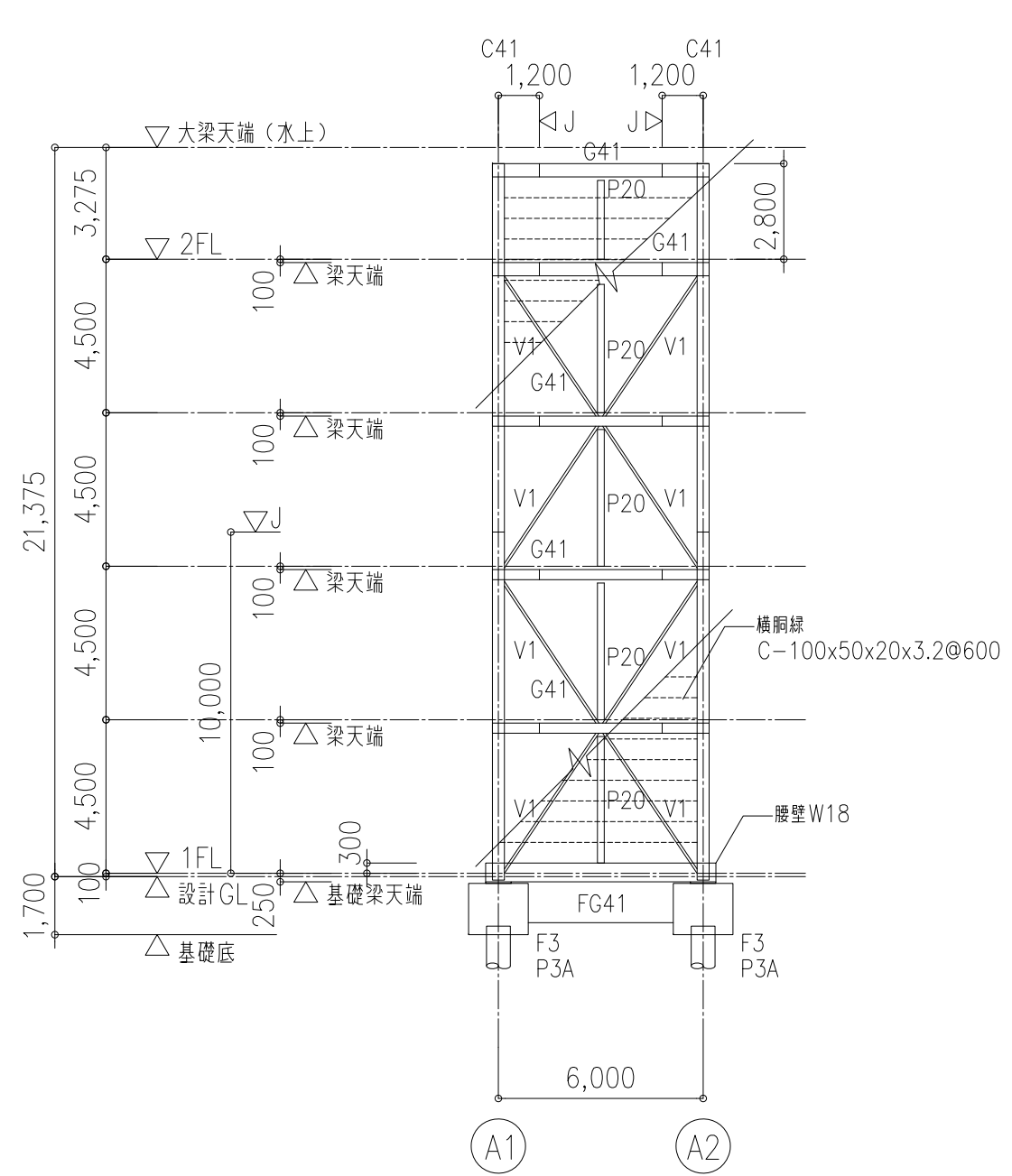
屋根立上り壁伏図(副審棟) 1:200

共通事項(特記なき限り)

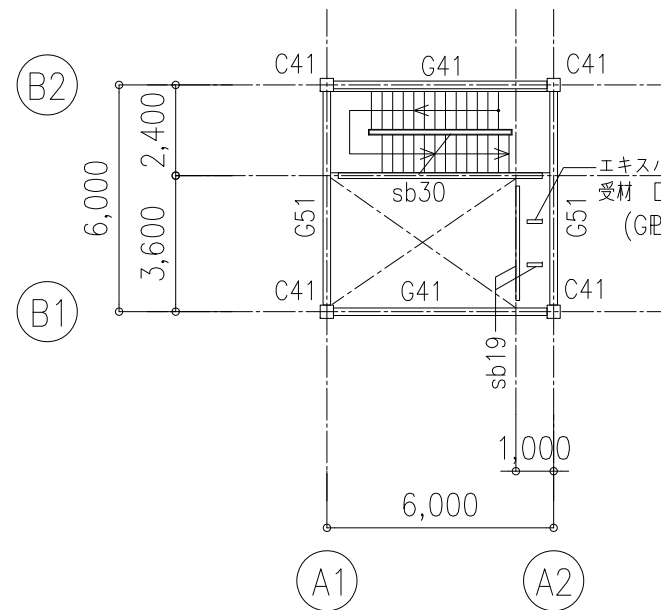
- ・ 立上り壁天端は、2FL+4500



(B1) 通り軸組図 1:200



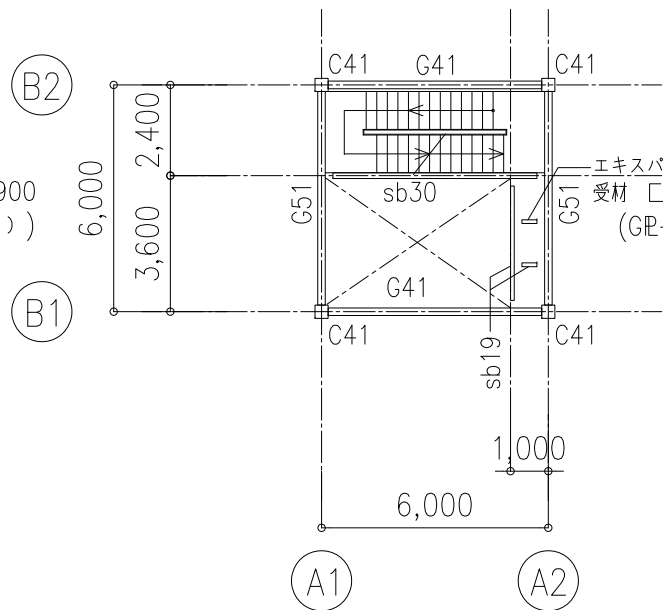
(B2) 通り軸組図 1:200



1階+4,500床梁伏図(副審棟) 1:200

共通事項(特記なき限り)

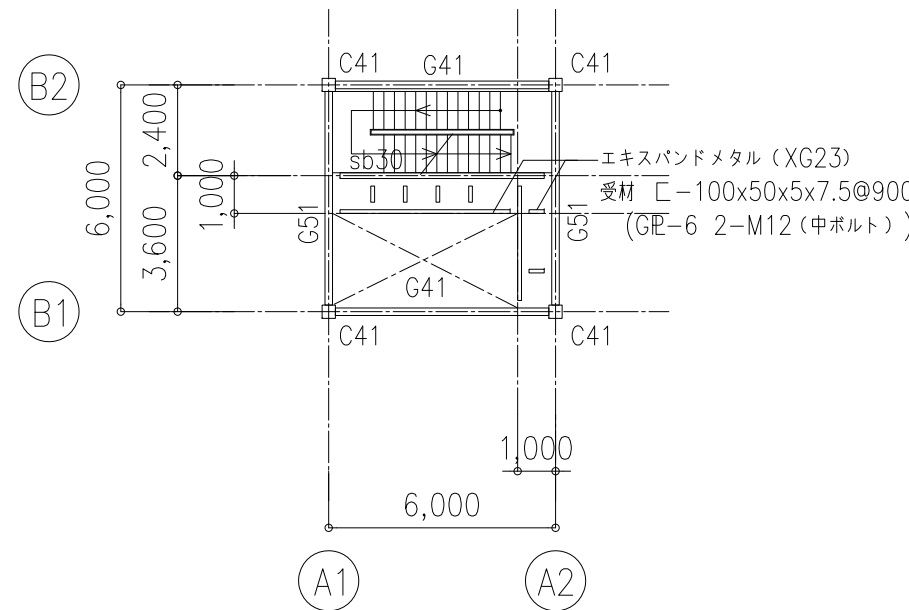
- ・ 梁天端レベルは、1FL+4,400による。
- ・ 小梁は、sb19とする。
- ・ 鉛直ブレースは、V1とする。



1階+9,000床梁伏図(副審棟) 1:200

共通事項(特記なき限り)

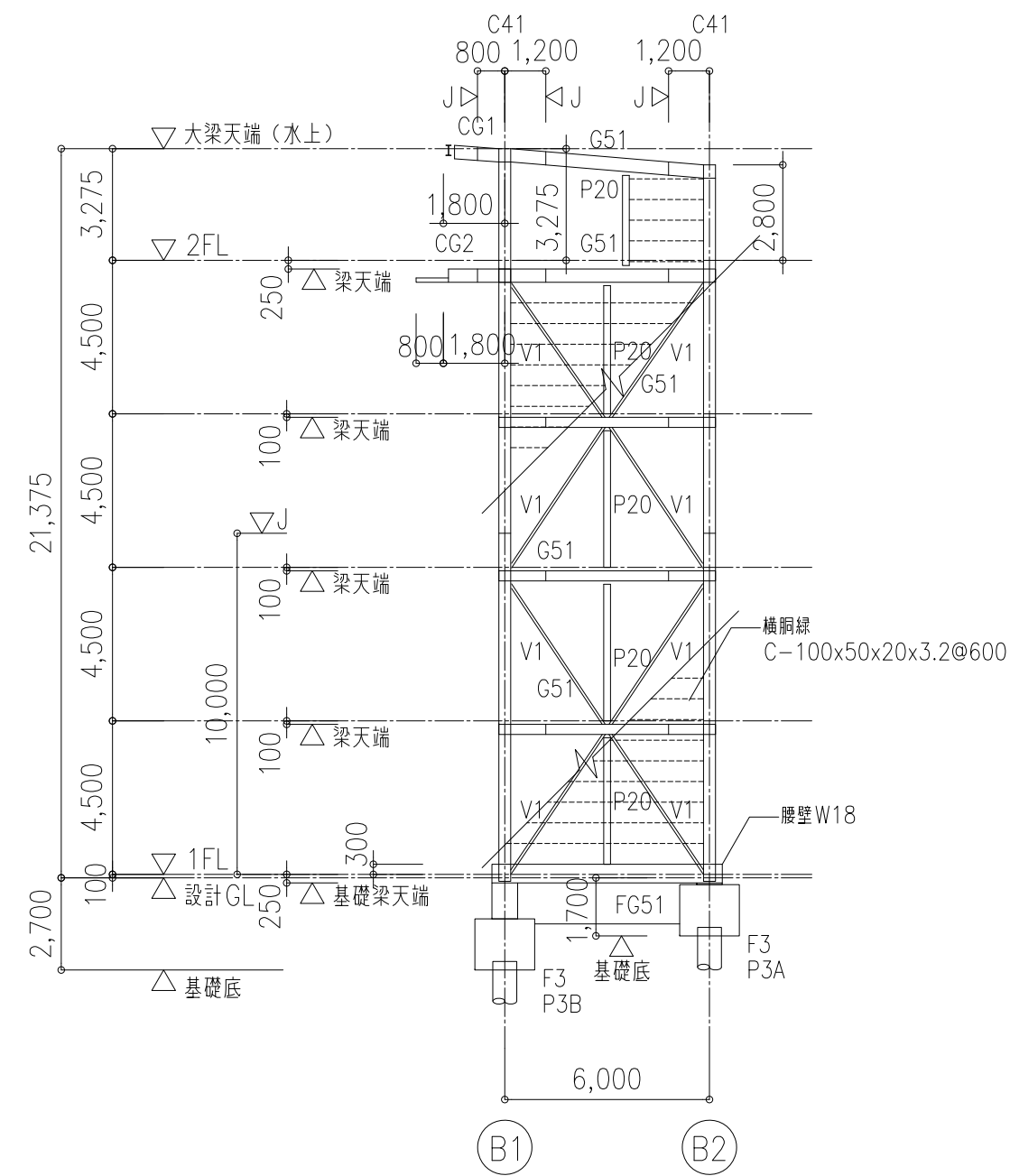
- ・ 梁天端レベルは、1FL+8,900による。
- ・ 小梁は、sb19とする。
- ・ 鉛直ブレースは、V1とする。



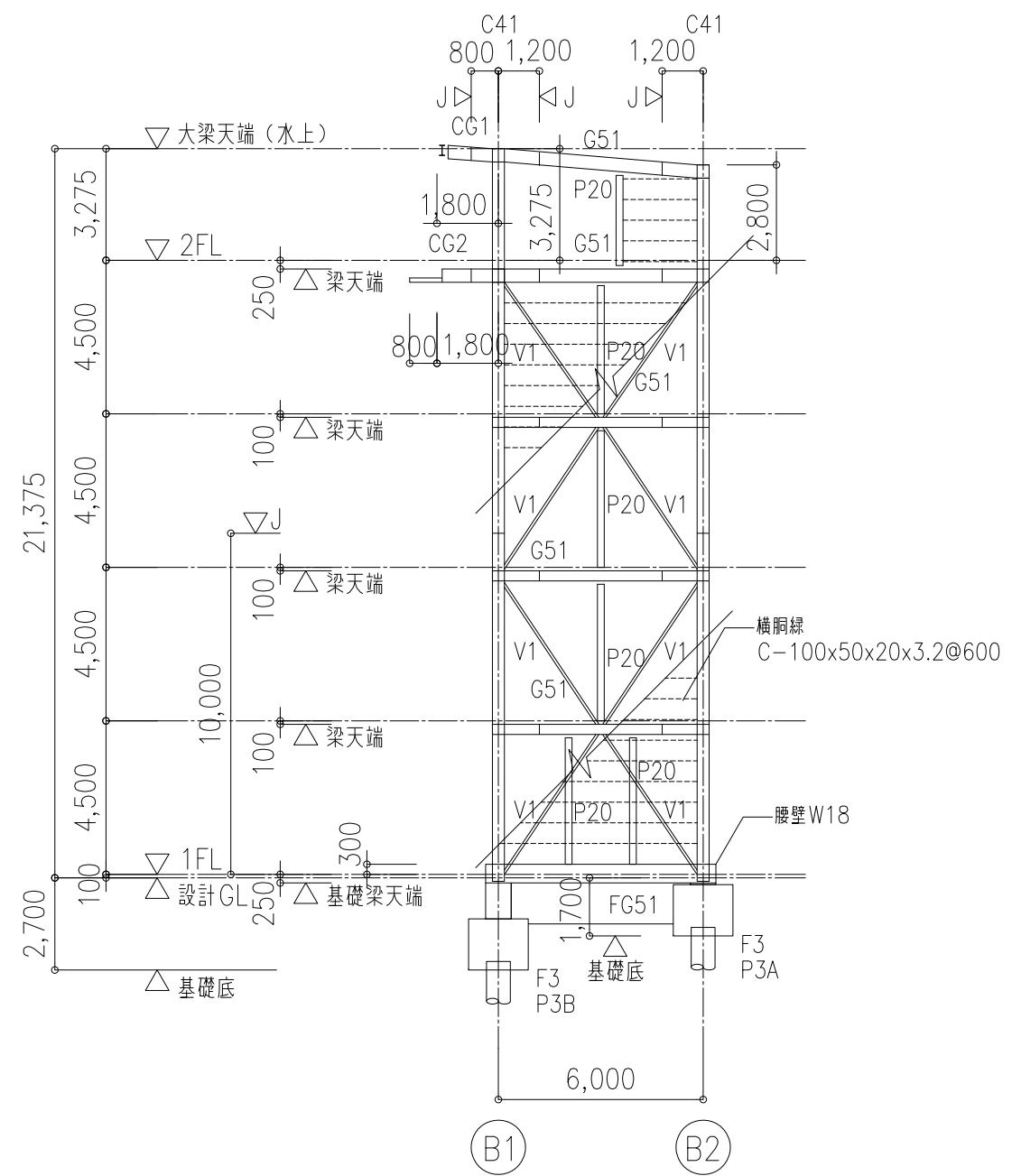
1階+13,500床梁伏図(副審棟) 1:200

共通事項(特記なき限り)

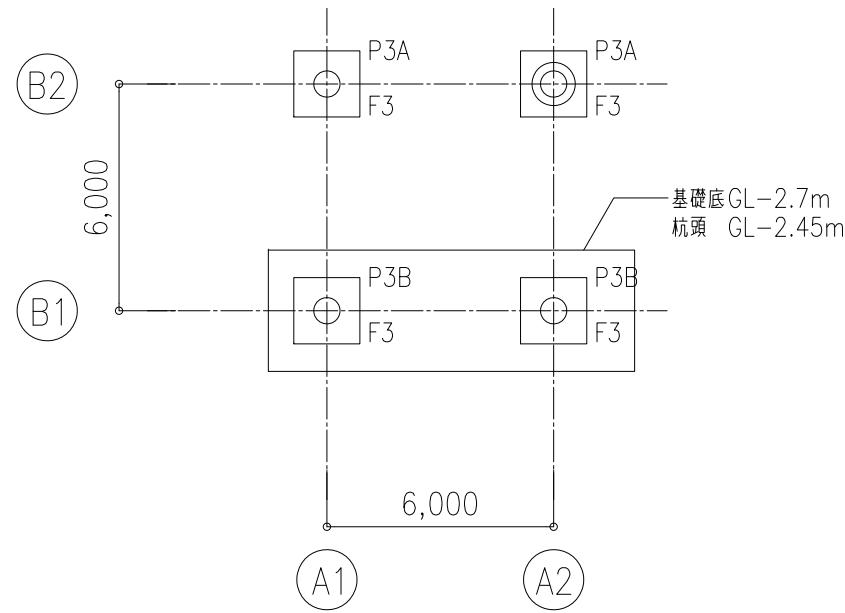
- ・ 梁天端レベルは、1FL+13,400による。
- ・ 小梁は、sb19とする。
- ・ 鉛直ブレースは、V1とする。



(B1) 通り軸組図 1:200



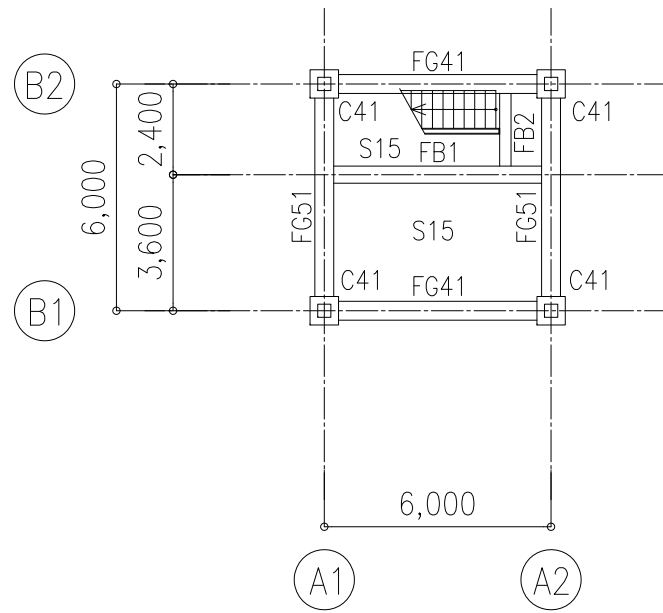
(B2) 通り軸組図 1:200



杭・基礎伏図(副審棟) 1:200

共通事項(特記なき限り)

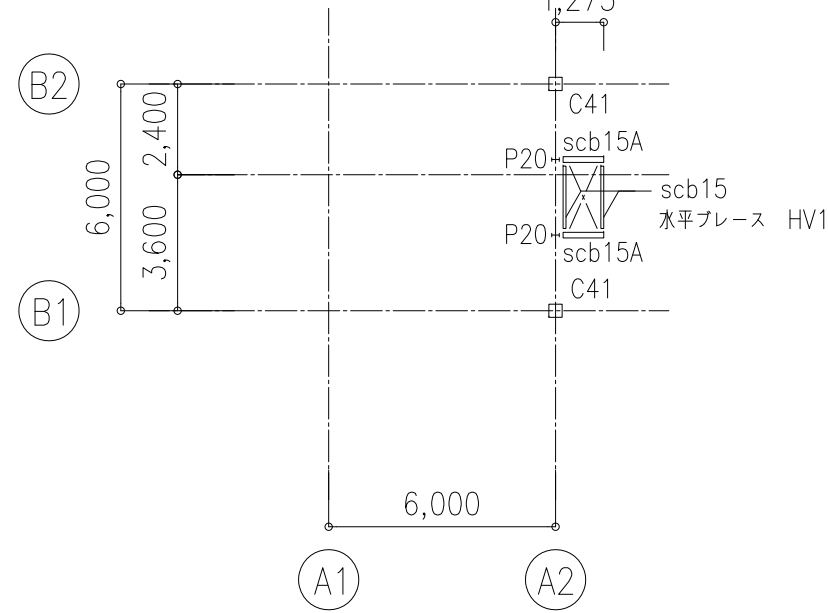
- ・ 設計GL=TP+1.6m
- ・ 杭頭はGL-1.45mとする。
- ・ 基礎底はGL-1.70mとする。
- ・ 杭芯＝基礎芯＝柱芯とする。
- ・ ◎印は試験杭を示す。



1階床梁伏図(副審棟) 1:200

共通事項(特記なき限り)

- ・ 設計GL=1FL-100
- ・ 基礎梁天端レベルは、1FL-250とする。
- ・ スラブ天端は、1FL-10とする。
- ・ 鉛直ブレースは、V1とする。



1階+2,630床梁伏図(副審棟) 1:200

杭リスト(副審棟)

- ・ 杭工法はHyper-MEGAI法($\omega=1.23$)とする。

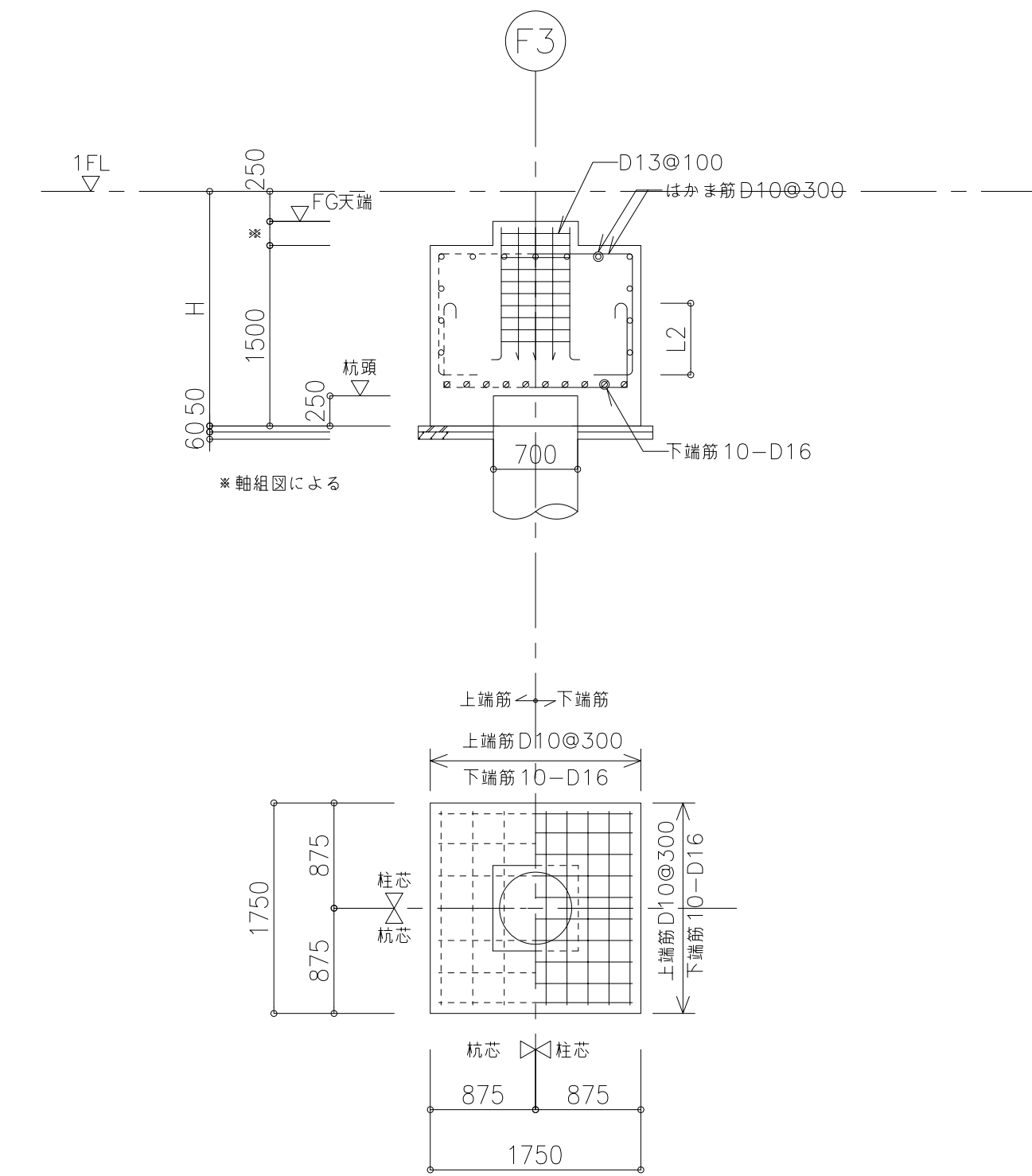
符 号	杭 種		軸 部 径 (mm)	節 部 径 (mm)	上杭長さ (m)	下杭長さ (m)	全 長 (m)	長期支持力 (kN)	杭頭補強筋	本 数	備 考
	上 杭	下 杭									
P3A	105 SC (490) t9	105 節付PHC C種	700	900	11.0	11.0	22.0	2000	20-D29 (強度SD390)	2	拡大掘削部長8.0m (鋼管強度SKK490)
P3B	105 SC (490) t9	105 節付PHC C種	700	900	10.0	11.0	21.0	2000	20-D29 (強度SD390)	2	拡大掘削部長8.0m (鋼管強度SKK490)

共通事項(特記なき限り)

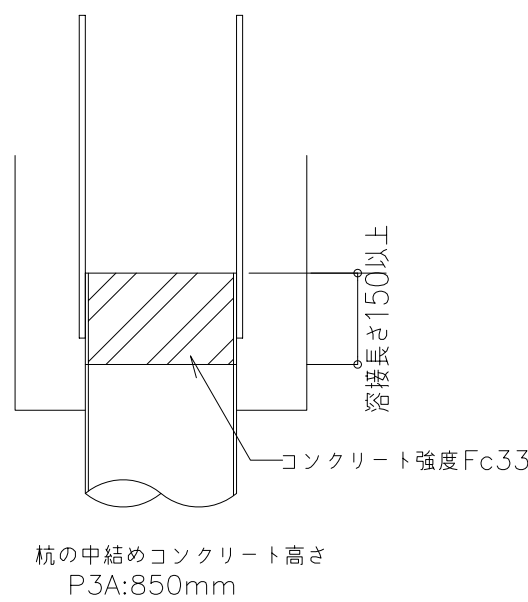
- ・ J印は、鉄骨継手位置を示す。
- ・ B尺下端は、基礎梁天端+50とする。

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 基田 正博		津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事		
<構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第21611号 第153086号 柴谷 朋也		B	建築工事	A3→1:400 A1→1:200
		36	副審棟 伏図・軸組図	
		安井建築設計事務所		

基礎リスト	1:50	共通事項（特記なき限り） ・基礎深さHは、基礎伏図による。 ・基礎底地業は、捨てコンクリート ㊦ 50、砕石 ㊦ 60とする。
-------	------	---



杭の中結めコンクリート

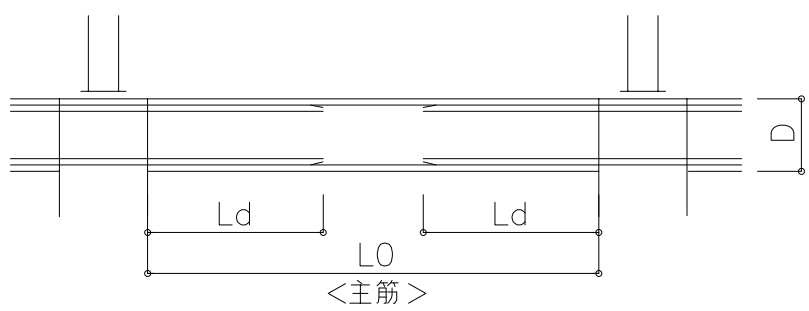


基礎梁リスト	1:50	共通事項（特記なき限り） ・幅止筋はD10@1000以内とする。 ・鉄筋材質は、D10～D16：SD295A，D19～D25：SD345，D29：SD390 ・土に接する梁下地業は、捨てコンクリート ㊦ 50、砂利 ㊦ 60とする。
--------	------	---



符 号	FG41		FG51			FB1		FB2
位 置	端部	中央	端部	中央		端部	中央	全断面
断 面								
上 端 筋	8-D25	5-D25	8-D25	6-D25		3-D22	3-D22	2-D16
下 端 筋	8-D25	5-D25	8-D25	6-D25		3-D22	4-D22	2-D16
スタップ	3-D13 @200		3-D13 @200			2-D13 @200		2-D10 @200
腹 筋	4-D13		4-D13			2-D13		-
備 考	カットオフ長さ2550		カットオフ長さ2550					

カットオフ配筋要領



LdはL0/4+15d以上とする。（単位 mm）
カットオフ筋が重なる場合は通し配筋とする。

床版リスト	1:50	共通事項（特記なき限り） ・直押え部分は、スラブ天端増打 ㊦ 10とする。 ・土に接するスラブ地業は、捨てコンクリート ㊦ 50、砂利 ㊦ 60とする。 ・鉄筋継手は 重ね継手 とする。
-------	------	--

符 号	版 厚	位 置	短辺方向配筋 （主筋方向）	長辺方向配筋 （配力筋方向）	備 考
DS15	150	上端筋 下端筋	D13 @200 D13 @200	D13 @200 D13 @200	モチアミ配筋、フラットデッキ≒1.2
S15	150	上端筋 下端筋	D13 @200 D13 @200	D10・D13 @200 D10・D13 @200	モチアミ配筋

<代表設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 第256513号 益田 正博 <構造設計者> 一級建築士 国土交通大臣登録 構造設計一級建築士第2161号 第153086号 築谷 朋也	津市モーターボート競走場競技棟等新築その他工事		
	B	建築工事	A3→1:100 A1→1:50
	37	副審棟 RC部材リスト	
安井建築設計事務所			